

# 学習指導要領を具体化する

## 小・中・高等学校国語科の指導法に関する研究

### —学びの連続性を考慮し、言語活動の充実を図る授業づくり—

#### 【研究の概要】

国語科では、「実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることに重点を置いた授業改善を図ること」が求められている。本研究では、学習指導要領から目指す授業像を客観的に捉えた上で、授業改善の具体的な方策として、小・中・高等学校の学びの連続性を考慮し、単元の学習過程や本時の学習過程の工夫を手立てとした「言語活動の充実を図る授業の進め方」について研究し、研究協力員による授業実践を通してその有効性を明らかにした。

キーワード； 学びの連続性、言語活動の充実、単元の学習過程、本時の学習過程

#### 《研究協力員》

矢巾町立煙山小学校	小野寺 清 子
大船渡市立大船渡北小学校	芳 賀 雅 之
久慈市立久慈小学校	糸 坪 伸 宏
盛岡市立黒石野中学校	苔米地 俊 亮
陸前高田市立横田中学校	吉 田 亜矢子
岩手大学教育学部附属中学校	西 澤 孝 司
岩手県立紫波総合高等学校	熊 谷 裕 子
岩手県立西和賀高等学校	高 橋 美紀子
岩手県立岩谷堂高等学校	陳ヶ岡 海

平 成 2 8 年 3 月

岩手県立総合教育センター

教 科 領 域 教 育 担 当

長 根 義 広

横 田 昌 之

## 目 次

I	研究主題	1
II	研究主題設定の理由	1
III	研究の目的	1
IV	研究の目標	1
V	研究の見通し	1
VI	研究の構想	2
1	研究についての基本的な考え方	2
(1)	国語科で目指す授業像について	2
(2)	12年間の学びの連続性について	3
(3)	言語活動の充実を図る授業づくりについて	5
(4)	単元の構想について	8
(5)	本時の学習過程について	9
2	研究の授業実践計画	10
3	研究の検証計画	10
4	研究の全体構想図	11
VII	授業実践と授業の考察	12
1	研究担当者による実践授業の実際と検証	12
	【読むこと】	
○	高校1年 単元名「構成，展開，要旨をとらえて，家形構造図を作ろう！」	12
2	研究協力員による実践授業の実際と検証	22
	【読むこと】	
①	小学2年 単元名「人物と自分を比べて読んだ本を紹介しよう」	22
②	中学1年 単元名「読書の楽しみを広げよう～読書会に挑戦～」	34
③	高校1年 単元名「『徒然草』から学んだ教訓を紹介文で伝えよう！」	46
	【書くこと】	
④	小学6年 単元名「自分なりの見方で鑑賞文を書いて，自画像展覧会を開こう」	58
⑤	中学1年 単元名「『街道の時間』活動報告会の案内状を書き， たくさんの方に来てもらおう」	70
⑥	高校1年 単元名「写真から連想した想いを詩で表現し， フォトポエムを作ろう！」	80
	【話すこと・聞くこと】	
⑦	小学4年 単元名「クラスで話し合おう」	92
⑧	中学2年 単元名「いまを生きる～復興を支える職業人にインタビューし， 記事にまとめよう～」	102
⑨	高校2年 単元名「修学旅行をプロデュース ～情報を収集して企画を練り，まとめて発表する～」	112
VIII	研究のまとめ	122
IX	引用文献及び参考文献	124

※【図】や【表】の番号については，21頁までは通し番号となっており，22頁から121頁までの「研究協力員による実践授業の実際と検証」については，実践報告ごとの通し番号となっている。122頁の「研究のまとめ」については，改めて【表1】【表2】とした。

## I 研究主題

学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科の指導法に関する研究  
—学びの連続性を考慮し、言語活動の充実を図る授業づくり—

## II 研究主題設定の理由

学習指導要領国語科改訂の趣旨に「実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることに重点を置いた授業改善を図ること」とあり、具体的な内容として「社会生活に必要とされる発表、討論、解説、論述、鑑賞などを行う能力の育成を重視すること」や「言語活動を通して指導事項を指導すること」など、授業改善の方向性が示されている。

このことについて、全国的に学習指導要領を具体化する授業についての研究や実践が広がりつつあり、県内においても同じような状況にあるものの、その研究や実践が十分であるとは言い切れない。全国的に見られる実践においても、特に、児童生徒の12年間の学びの連続性の意識や、言語活動の充実についての理解に課題がある状況が見られる。そのために、児童生徒は学年が上がるにつれて「国語の授業がよく分かる」や「国語の授業が社会で役立つ」という実感をもてない実態にある。

このような状況を改善するには、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業について、授業構想の理論を明らかにした上で、実践例や授業づくりの手法をまとめ、目指すべき授業像や授業づくりの手法についての理解を広め、国語科の授業改善を推進していく必要があると考えた。

## III 研究の目的

小・中・高等学校の児童生徒が「分かった」「できた」「楽しい」「役立つ」という実感を持ちながら、実生活で生きてはたらし各教科の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けられるよう、国語科の「日常の授業」の改善を促す。

## IV 研究の目標

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」それぞれの領域について、12年間の学びの連続性を意識し、単元や本時の授業の進め方について理解できる「授業づくりガイドブック」を作成し、授業実践を通してその理論の有効性を明らかにする。

## V 研究の見通し

12年間の学びを把握する方法や言語活動の充実を図る単元構想と授業の進め方について理論を構築し、その理論に基づいた9名の研究協力員による授業実践によって、児童生徒の「分かった」「できた」「楽しい」「役立つ」という実感や国語の能力が身に付いたかについて検証し、この研究理論の確かさを検証する。さらに、「授業づくりガイドブック」が授業構想や学習指導の改善に有効に機能するかどうかを研究協力員及び研修者等の意識調査により検証する。

## VI 研究の構想

### 1 研究についての基本的な考え方

#### (1) 国語科で目指す授業像について

##### ア 学習指導要領から

『学習指導要領解説総則編』の「第3章 第4節 指導計画の作成」や「第3章 第5節 教育課程実施上の配慮事項」及び、『学習指導要領解説国語編』の「第1章 2 国語科改訂の趣旨」から、授業改善によって目指すべき授業像を【表1】のように抜き出した。

この10項目に留意しながら、単元や本時の授業を構想することが最も重要なことであると考えた。

①～⑧は、学習指導要領解説総則編「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の解説から、⑨と⑩は、学習指導要領解説国語編「国語科改訂の趣旨」からそれぞれ導き出したものである。これらの項目について、授業づくりのどの段階でどのような手立てで指導の充実を図ればよいのかについては、「授業づくりガイドブック」の中で解説している。

【表1】指導の充実10項目

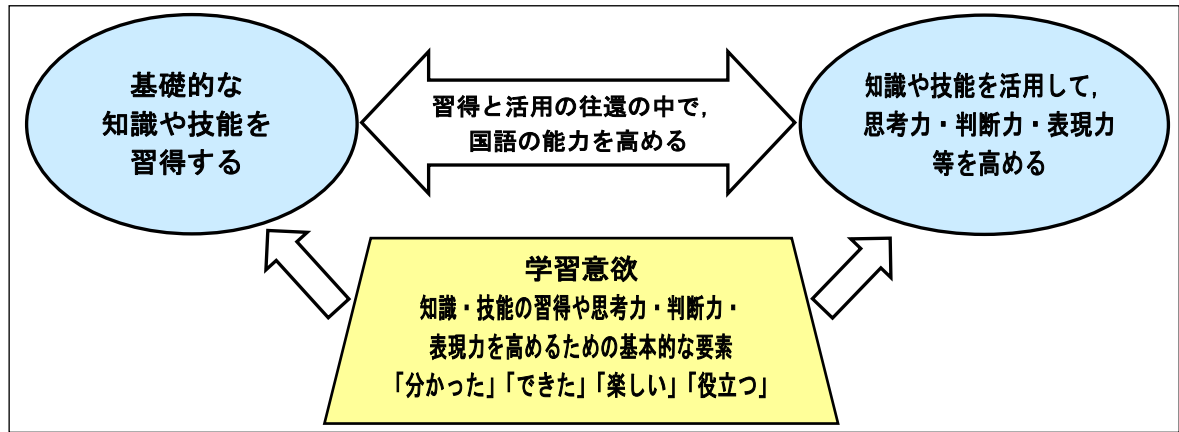
①	系統的、発展的な指導（各教科等、各学年相互間の関連）
②	効果的な指導（指導内容のまとめ方や重点の置き方）
③	言語活動の充実（知識・技能の活用を図る学習活動，言語環境）
④	自主的、自発的な学習（体験的な学習，問題解決的な学習）
⑤	見通しと振り返り
⑥	学習形態（個別指導やグループ別指導）や指導方法（課題学習，発展的な学習）
⑦	学校図書館の利用（主体的，意欲的な学習活動，読書活動の充実）
⑧	評価の工夫（よい点や進歩の状況などの評価，過程や成果の評価，指導改善，学習意欲の向上）
⑨	言語の教育としての立場を一層重視 ○的確に理解する能力      ○論理的に思考し表現する能力 ○言葉で伝え合う能力      ○感性や情緒
⑩	実生活で生きてはたらき，各教科等の学習の基本ともなる国語の能力の育成

##### イ 本研究で目指す授業

本研究では、学校教育法第30条に規定される学力の3要素の中でも、特に、学習意欲を向上させることに焦点を当てて授業改善を図ろうと考えた。なぜなら、次頁【図1】のように、児童生徒が国語を好きになり、自ら国語を学んでいく姿勢を身に付けることが、基礎的な知識や技能を習得し、思考力・判断力・表現力等を高めるために、最も重要な要素であると考えたからである。

また、本研究では、学習意欲は「分かった」「できた」「楽しい」「役立つ」という児童生徒の実感によって構成されているものと考えて研究を進めた。





【図1】本研究における学力の3要素の捉え

(ア) 「分かる授業」について

本研究において、「分かる授業」とは、何のために何をどのように学ぶかが分かること、学んだ内容が分かること、学び方が分かることの3つであると捉えた。

(イ) 「できる授業」について

本研究において、「できる授業」とは、最終的に児童生徒一人一人が、思考したり判断したり表現したりすることができるようになることと捉えた。

(ウ) 「楽しい授業」について

本研究において、「楽しい授業」とは、国語の学習内容について興味や関心が高まること、国語の能力の高まりを実感できることの2つと捉えた。

(エ) 「役立つ授業」について

本研究において、「役立つ授業」とは、次の国語の学習に役立つこと、他の教科の学習に役立つこと、日常生活や社会生活に役立つことの3つであると捉えた。

(2) 12年間の学びの連続性について

これまでの国語科の指導を振り返ると、教師が指導の拠り所としてきたのは教科書や指導書であった。そのため、教科書は指導事項を指導するための教材であるはずのものが、教科書を教える授業となってしまいがちであった。

教科書を教えるのではなく、教科書で教えるためには、指導事項と児童生徒の実態を出発点とした授業づくりをしなければならない。その際、指導事項をその単元その学年でとらえるのではなく、児童生徒の高校卒業後の姿を念頭に置きつつ、12年間の指導を見渡して系統をとらえなければならない。

そこで、本研究では、小・中・高等学校の『学習指導要領解説国語編』の解説の文を基にして、指導事項とその解説を箇条書きにして表にまとめ直し、「授業づくりガイドブック」の資料編に掲載することとした。これにより12年間の指導の系統を容易に把握できるようになると考えた。

表を読み比べ系統を把握することで、どのような指導をするべきかについて構想をより具体的に立てることが可能となるはずである。

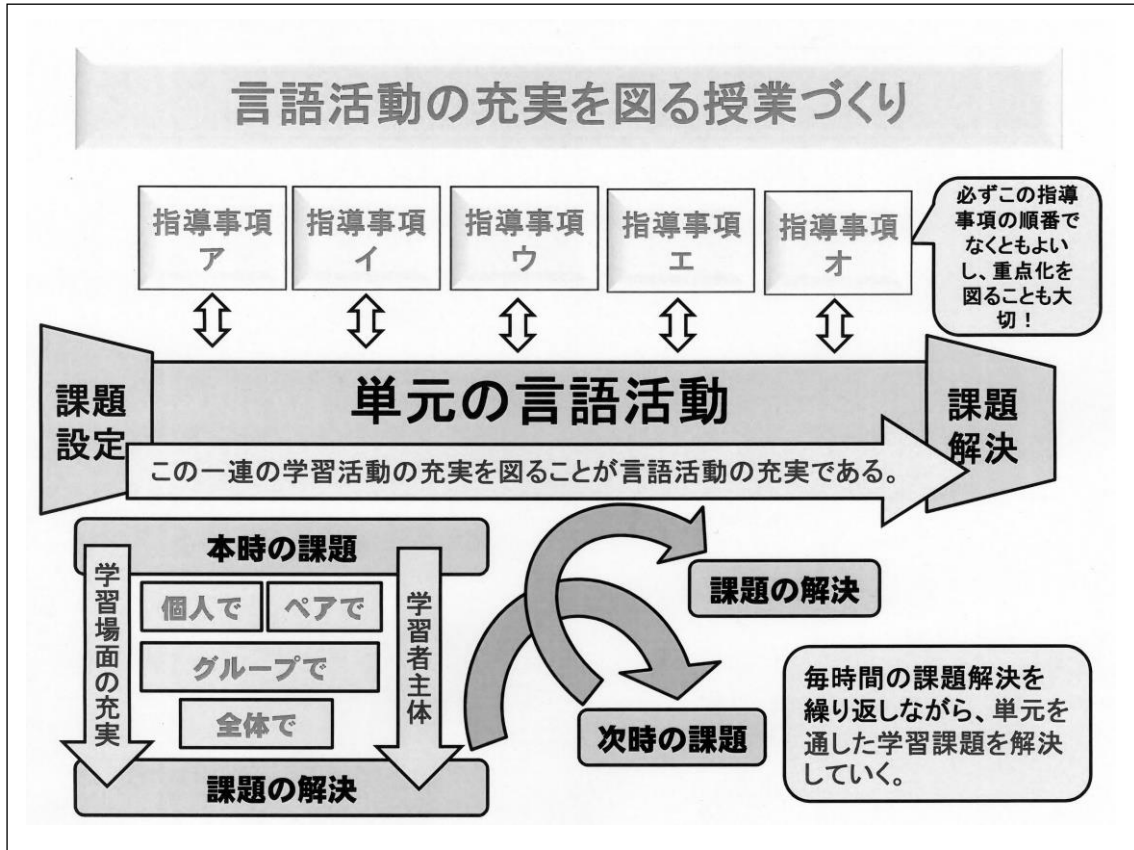
具体的には次頁【表2】のように小学校から高等学校まで目標と指導事項の系統を把握できるようにまとめた。

【表2】小学校「読むこと」の系統表の一部

指導系統表の整理例 小学校 [C 読むこと]			
	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
目標	<p>(3) 書かされている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。</p> <p>(1) 前段—読む能力 後段—読書態度 (全学年共通) (2) 目的に応じて読むことによって何をしようとするのか、どのように活用しようとするのか</p>	<p>(3) 目的に応じて、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。</p> <p>(3) 目的に応じていろいろな本や文章を分析的に読む</p> <p>① 内容の中心をとらえる</p> <p>② 段落相互の関係を考慮して全体の構成を把握</p> <p>③ 自分の考えをまとめたりしながら読む</p> <p>(4) 幅広く読書する態度</p> <p>① 読書の量的向上 読書の分野を広げる質的向上</p> <p>② 読書の大切さや価値を理解する</p>	<p>(3) 目的に応じて、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。</p> <p>(3) 目的に応じて計画的に読書する</p> <p>① 楽しむために、調べるために、知的欲求を満たすためになど。</p> <p>② 複数の本や文章を比べて読み、文章全体から内容や要旨を把握し、自分の考えをまとめる</p> <p>(4) 読書により考えを広めたり深めたりする態度</p> <p>・書き手の思考に即して読むことで、自分の思考も論理的になり、思考が深められる</p>
音読	<p>【音読の働き】 ①自分が理解しているかどうかを確かめたり深めたりする ②他が理解するのを助ける</p> <p>ア. 語のまともなりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。</p> <p>(1) 語のまともなりや言葉の響きなどに気を付けて</p> <p>① 明瞭な発音 ② ひとまとまりの語や文</p> <p>③ 言葉の響きやリズム</p> <p>(2) 「A話すこと・聞くこと」と関連付けて指導する</p> <p>① 姿勢や口形 ② 声の大きさや速さ</p> <p>③ はっきりした発音</p> <p>(3) 指導事項イ〜カとかかわらせて指導</p> <p>① 繰り返し音読する機会を設ける</p> <p>② 自分の声を自分で聞きながら音読する習慣</p> <p>③ 他の人と声でもらうなど、聞くことを意識する</p> <p>(4) 音読の方法</p> <p>① 教師が読んだ後生徒が読む ② グループでの役割読み</p>	<p>ア. 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。</p> <p>(1) 文章の内容をよく理解し、自分の思いや考えと合わせながらよく分かるように音読する</p> <p>(2) 内容の中心や場面の様子がよく分かるように</p> <p>① 一文一文の役割が分る、文章全体の内容や構成からその中心を把握して音読する</p> <p>② 軽重や速さなどを考えて音読の仕方を変える</p> <p>③ 物語では、各場面を意識して、様子が分かるように</p> <p>(3) 指導事項カと関連付けて⇒音読の目的や方法を工夫</p> <p>(4) 「A話すこと・聞くこと」と関連付けて指導する</p> <p>① 相手を見る ② 言葉の抑揚や強調 ③ 間の取り方</p> <p>(5) 黙読も活用し、文章の内容の理解を深める</p> <p>① 事柄を関連付ける ② 重要な箇所を見付ける</p> <p>③ 必要に応じて速さを変えて読む</p>	<p>ア. 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。</p> <p>(1) 文章を読んで感じたことや思ったこと、考えたことが相手に伝わるように音読や朗読をする</p> <p>(2) 音読では、書き手の意図を考え自分の思いや考えと合わせて音読化する。物語や詩では、語り手や登場人物がどのように語りたのか決める必要がある</p> <p>(3) 朗読は</p> <p>① 読者として文章のイメージを明確にし、相手に伝えようとして音読化するものである</p> <p>② 自分なりに解釈したこと、感心や感動したことを、思いや考えとしてまとめ、表現性を高めて伝える</p> <p>③ 一人一人の感じ方や思い、考えの違いを大事にし、どのように音読すれば聞き手によく伝わってもらえるかを考え、相互に朗読し合っ楽しんで</p> <p>(4) 音読や朗読の工夫—音読や朗読の発表会、朗読劇や朗読、身体的な表現なども交えた劇など</p>
効果的な読み方			<p>イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むこと効果的な読み方を工夫すること。</p> <p>(1) 目的に応じて、効果的な読み方を選択し、活用する</p> <p>○ 比べ読み、速読、精読、多読 (重ね、並行)</p>
説明的な文章の解釈	<p>イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。</p> <p>(1) 時間的な順序や事柄の順序などは</p> <p>① 時間の順序</p> <p>② 事柄の作り方の手順など、文章に取り上げられ話題の中心に在る事柄の順序</p> <p>③ どのように文章を構成しているかという文章表現上の順序</p> <p>(2) 順序に沿って内容の大体を読んで理解することが重要</p>	<p>イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。</p> <p>(1) 読む目的によって本や文章の活用の仕方が変わり、そのため取り上げる中心となる語や文も変化していく</p> <p>(2) 中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付いたりするなどして内容を整理する</p> <p>(3) 「言葉の特徴やきまりに関する事項」(ウ)と関連付けて、指示語や接続語、文末表現などに注意して読ませる</p> <p>(4) 事実と意見の区別、記述の仕方の違いに気付かせる</p> <p>① 事実—現実の事象や出来事、科学的事実、社会的・歴史的事実、直観的・直感的な事実、間接的な事実</p> <p>② 意見—断定的な意見や論議による不確実な意見、助言や勧告、提案、私的な見解と公的な見解</p> <p>(5) 事実と意見との関係を考えることは、段落相互の関係をとりえらるとともに、段落の内部においても必要</p> <p>(6) 事実に対して、意見を表す語句、文、段落を取り出し、これを関係付け、筆者がどのような事実を原因や理由として挙げ、どのような考えや意見を述べようとしているのかをとりえらることが重要</p>	<p>ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかつ読んだりすること。</p> <p>(1) 要旨—書き手が取り上げている内容の中心となる事柄、書き手の考えの中心となる事柄</p> <p>(2) 前段=目的に応じて、求められている分量や表現の仕方におおせてまとめる</p> <p>(3) 内容を的確に押さえるためには、話題、理由や根拠、構成の仕方や巧みな叙述に注意する</p> <p>(4) 後段</p> <p>① 筆者の意図や思考 (どのような事実を事例として挙げる理由や根拠としているのか、どのような感想・意見・判断・主張を行い、自分の考えを確立したり語得したりしようとしているのか) を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていこう</p> <p>② 自分の知識や経験、考えなどと関係付ける</p> <p>③ 自分の立場から書かれている意見についてどのように考えるか意識して読む</p> <p>(5) 「書くこと」と関連付けて指導すると効果的</p>
文学的な文章の解釈	<p>ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。</p> <p>(1) 場面の基本構成要素</p> <p>① 時間や場所</p> <p>② 時間状況などの設定</p> <p>③ 情景や場面の様子の変化</p> <p>④ 主人公などの登場人物</p> <p>⑤ 登場人物の性格や行動</p> <p>⑥ 会話及び心情の変化</p> <p>⑦ 事件の展開と解決</p> <p>(2) 全文</p> <p>① 物語の展開に即して各場面の様子や変化したり、</p> <p>② 中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握した上で、</p> <p>③ その様子を豊かに想像しながら読むことを意味している</p>	<p>ウ 場面の移り変わりに注意しながら読む—各場面の様子や情景の変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。</p> <p>(1) 場面の移り変わりに注意しながら読む—各場面の様子や情景を捉えながら場面と場面とを関係付けて読む</p> <p>(2) 登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて読む—登場人物の行動や会話に即しながら、登場人物の性格や情景を捉え、登場人物同士の関係、登場人物の役割などを考えながら、それらの人物像を中核に読む</p> <p>(3) 「言葉の特徴やきまりに関する事項」(ウ)と関連付けて、登場人物の気持ちをとらえることが大切</p> <p>(4) 叙述を基に想像して読む</p> <p>① フィクション (虚構) の世界が描かれている物語や詩の描写を、想像力を働かせながら読むこと</p> <p>② それぞれの登場人物の性格や情景、状況を把握し、場面や情景の移り変わりとともに変化していく気持ちについて、地の文や行動、会話から関連付けてとらえる</p> <p>③ 自分を取り巻く現実や経験と照らしあわせて具体的な感じ取ったり、感想や感動を大切にしたりする</p>	<p>エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。</p> <p>(1) 前段</p> <p>① 登場人物の相互関係から人物像やその役割をとらえ、そのことで、内面にある深い心情をとらえる</p> <p>② 登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的な表現の仕方から、想像豊かに読む</p> <p>(2) 後段</p> <p>① 場面の展開に沿って読みながら、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に注目して自分の考えをまとめる</p> <p>② 象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容に付き、評言したり、自分の表現に生かしたり、感想文や報告文にまとめる</p> <p>(3) 優れた叙述⇒同じ作者や同じ題材の作品を比べて読むことで、優れた叙述に気付くよう工夫</p> <p>(4) 「言葉の特徴やきまりに関する事項」(ウ)と(ウ)などと関連させて指導すると効果的</p>

(3) 言語活動の充実を図る授業づくりについて

水戸部修治氏（2012 \*1）は、「自ら学び、課題を解決していく能力を育成する上で、国語科では単元の学習過程を、子ども自身の課題解決に向けた過程となるようにすることが重要なものとなる。つまり、単位時間の学習が単に集まっているのではなく、単元全体が一貫した学習の過程となることが重要なのである。そこで必要になるのが単元を貫く言語活動を明確に位置付け、単元全体を見通す授業構想である。」と述べている。具体的には【図1】のイメージである。



【図2】言語活動の充実を図る授業づくりのイメージ

本研究では、水戸部氏や井上一郎氏（2005 \*2, 2008 \*3）及び、全国の研究先進校の学習過程を基に、言語活動の充実を図る授業づくりを、6頁から7頁のア～ウのような学習過程として一般化しようと考えた。

ア「読むこと」領域の学習過程については、「一教材文の読みとするかどうか、教材文を基に自分の考えを表現するかそれとも教材文の内容と表現を自分の考えや表現に生かすか」という3つの視点で(ア)～(ウ)の3種類に大別した。イ「書くこと」領域の学習過程は基本的に1種類と考えた。ウ「話すこと・聞くこと」領域の学習過程については、表現様式に応じて(ア)～(ウ)の3種類と考えた。

単元の導入を「第1次」、単元の展開を「第2次」、単元の終末を「第3次」とし、各段階を踏みながらも、時間配分的には「第2次」の指導を充実させることが重要と考えた。詳細については、「授業づくりガイドブック」で解説しているが、本研究では、単元に誘う段階として「第0次」、単元の学習成果を広げる段階として「第4次」も位置付けている。

ア 「読むこと」領域における単元の学習過程（\*詳細な説明は、「授業づくりガイドブック」に掲載）

(ア) 多読や一冊の本を丸ごと読むことにつながる学習過程

第1次	1	読書目的を設定する
	2	表現モデルを分析する
	3	学習計画を立てる
第2次	4	共通教材を目的と表現を意識して読む
	5	共通教材で表現する
	6	表現について交流する
第3次	7	選択教材で表現する
	8	表現について交流する
	9	単元の学習を振り返る

(イ) 一教材文で表現する学習過程

第1次	1	読書目的を設定する
	2	表現モデルを分析する
	3	学習計画を立てる
第2次	4	目的と表現を意識して読む（※時間配分的には長い）
第3次	5	表現する
	6	表現について交流する
	7	単元の学習を振り返る

(ウ) 一教材文を表現モデルそのものにとらえる学習過程

第1次	1	読書目的を設定する
	2	学習計画を立てる
第2次	3	教材文を表現モデルとして読む（※時間配分的には長い）
第3次	4	表現する
	5	表現について交流する
	6	単元の学習を振り返る

イ 「書くこと」領域における学習過程（\*詳細な説明は、「授業づくりガイドブック」に掲載）

第1次	1	学習課題（目的・相手）を設定する
	2	表現様式上のモデル学習をする
	3	学習計画を立てる
第2次	4	個人課題を選択する
	5	取材する
	6	モデルの構成や表現を分析する
	7	構成を考える
	8	記述する
	9	推敲する
	10	清書する
第3次	11	相互交流する
	12	単元の学習を振り返る

ウ 「話すこと・聞くこと」領域における学習過程（\*詳細な説明は、「授業づくりガイドブック」に掲載）

(ア) 独話の学習過程（スピーチ、アナウンス、プレゼンテーション…）

第1次	1	学習課題（目的・相手）を設定する
	2	表現様式上のモデル学習をする
	3	学習計画を立てる
第2次	4	個人課題を選択する
	5	取材する
	6	モデルの構成や表現を分析する
	7	話題から構成を考えて叙述する
	8	実技練習をする
	9	推敲し、練り上げる
第3次	10	発表する（聞く）
	11	単元の学習を振り返る

(イ) 対話の学習過程（バズセッション、パネルディスカッション、ディベート…）

第1次	1	学習課題（目的・相手）を設定する
	2	表現様式上のモデル学習をする
	3	学習計画を立てる
第2次	4	議題を決め、進行表を作成する
	5	自分の考えを明確にする
	6	実技1を実施する
	7	実技1を振り返る
	8	実技2を実施する
	9	実技2を振り返る
第3次	10	単元の学習を振り返る

(ウ) 聞く学習過程（インタビュー、面接…）

第1次	1	学習課題（目的・相手）を設定する
	2	表現様式上のモデル学習をする
	3	学習計画を立てる
第2次	4	相手に関する情報を調べる
	5	目的を意識して質問文を作る
	6	質問を構成する
	7	質問する
	8	目的に合わせ質問をまとめる
第3次	9	目的に合わせて発表（交流）する
	10	単元の学習を振り返る

これら単元の学習過程については、「授業づくりガイドブック」で詳しく解説しているが、これを固定化したものと捉えるのではなく、単元の指導のねらいに沿って臨機応変に考えることが大切である。





【表4】単元構想表

中学校第1学年単元構想表（光村；「竹取物語」） <small>※平成23年11月に実践した授業の一部を改めたもの</small>	
<b>【生徒の実態】</b> ○『かぐや姫』を絵本として読んでいた生徒は、半数ぐらいいるが、「竹取物語」の内容を詳しく知っている生徒はほとんどいない。 ○小学6年生で、「狂言 柿山伏」を音読中心に学んでおり、古文特有の言い回しやリズム、狂言の内容的な面白さについて理解している。古文に書かれてある内容を想像して読む学習経験はなく、中学校での初めての古典学習である。	
<b>【身に付けさせたい力】</b> ◎場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み、叙述を基に想像して読む力。（C-ウ） ◎古文から必要な情報を読み取る力。（C-カ） ◎文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読する力。（伝ア⑦）	
<b>【単元の言語活動】</b> 「竹取物語」の事件を、必要な言葉を用いて報道記事の形式にまとめる。	
<b>【言語活動の特徴】</b> 「なよ竹新聞」；新聞を作成することが学習活動のメインになると指導のねらいから外れてしまう。そこで、トップ記事を除いて教師が作成した「新聞の枠」を準備し、生徒にはトップ記事のみを書かせることとした。また、生徒の作成意欲を高める工夫として、トップ記事を空欄にした2種類の「新聞の枠」を準備した。生徒が考えるトップ記事は600字程度とした。『竹取物語』の一つ一つの事件には、5W1Hが必ず書かれているわけではなく、出来事を報道記事にまとめるためには想像力で補う必要がある。そのことが叙述を基に想像して読む力や必要な情報を読み取る力を育成するという指導のねらいを達成するのにふさわしいと考えた。 生徒が考えるトップ記事のモデルは、実際の新聞のスポーツ記事を参考にして教師が作成した。	
<b>1. 単元名</b> 報道記事で紹介する「竹取物語」 ～家の人に「なよ竹新聞」の感想を聞こう！～ <b>2. 単元の目標</b> 「竹取物語」から自分が紹介したいと考えた事件や場面を選び、叙述を基に想像力をはたらかせ、必要な情報や内容を補いながら、報道記事としてまとめることができる。 <b>3. 単元の評価規準</b> <b>【国語への関心・意欲・態度】</b> ☆報道記事で紹介するという目的をもって、古典の世界に触れ、自分が紹介したい事件や場面を選び、想像力をはたらかせて報道記事にまとめている。 <b>【読む能力】</b> ☆報道記事にまとめるために、場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み、叙述を基に想像して読み、内容の理解に役立っている。（C-ウ） ☆報道記事にまとめるために、古文から必要な情報を読み取っている。（C-カ） <b>【言語についての知識・理解・技能】</b> ☆文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読する力。（伝ア⑦）	
<b>4. 教材</b> 蓬菜の玉の枝、『ピギナーズ・クラシックス日本の古典 竹取物語（全）』、新聞記事（朝日新聞・岩手日報）	

5. 単元の展開（全8時間）		
次 時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・読・書）等
第0次	○「竹取物語」の絵本を廊下に掲示し、興味・関心を高める。 ○『ピギナーズ・クラシックス日本の古典 竹取物語（全）』を宿題として読ませる。	
第1次	1. 単元の見通しをもつ。 ○活動目的；「なよ竹新聞」で、竹取物語を家の人に紹介する。 ○ゴール；「なよ竹新聞」のモデルを知る。 ○学習目的；「なよ竹新聞」を作ること、どんな力が付くのかを確認する。 ○学習過程；単元の学習計画を確認する。 2. 出来事とコメントを表す言葉を集める。 3. 『竹取物語』の展開と登場人物をとらえる。 ○十の場面構成をとらえる。 ○人物の相関関係をとらえる。	○「なよ竹新聞」（モデル1号、2号）を提示する。  関 報道記事にまとめるという目的をもって『竹取物語』を読もうとしている。（学習振り返りカード） 関 語彙集めシート、場面構成図、人物相関図（モデルハリー・ポッター）を提示する。
第2次	1. 古典の基礎を学ぶ。 ○歴史的仮名遣い ○古語 ○助詞の省略 ○文末表現 ○振り結び 2. 「竹取物語」冒頭を音読する。 ○古文の言い回しや歴史的仮名遣いの読み慣れる。	○古典の基礎のまとめシートを提示する。  関 文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読している。（自己評価、相互評価、教師の観察）
第3次	1. 教師の提示した報道記事を読み、記事のまとめ方を理解する。 2. 冒頭部分をモデルにならって記事にまとめる。	○モデル記事の分析をする。  関 下書きシートにまとめる。
第4次	1. 前時にまとめた冒頭の記事をグループで読み合い、最も良かった記事を選ぶ。 2. グループごとに一番良かった記事と選んだ理由を全体で紹介する。 3. 自分が好きな場面をまとめるときに、どのような気をつけたかをまとめる。	関 場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み、叙述を基に想像して読み、内容の理解に役立っている。（下書きシート①、話し合いシート、聞き取りシート）
第5次	1. 自分が記事にまとめた場面を選ぶ。 2. 原文をくり返し練習し、読み慣れる。 ○同じ場面を選んだ者でグループを作り、読み合う。	関 文語のきまりを知り、古典特有のリズムを味わいながら、古文を音読している。（自己評価、相互評価、教師の観察）
第6次	1. 自分で紹介したい場面を選び、原稿用紙にまとめる。 2. 見出しとリード文を考える。	関 自分が紹介したい事件や場面を選び、想像力を働かせて報道記事にまとめている。（下書きシート②） 関 古文から必要な情報を読み取っている。（下書きシート②）
第3次	1. 新聞用紙に清書する。 ○清書用として、モデル1号、2号のどちらかを選ぶ。	関 場面の展開や登場人物などの描写や会話に注意して読み、叙述を基に想像して読み、内容の理解に役立っている。（新聞用紙） 関 古文から必要な情報を読み取っている。（新聞用紙）
第8次	1. 各自が作った「なよ竹新聞」を読み合せて感想を交流する。 2. 単元の学習振り返る。	関 感想交流を通して古典への関心を高め、古典の世界に触れようとしている。（学習振り返りカード）
第4次	○家の人に「なよ竹新聞」を見せて感想を書いてもらう。（感想用紙） ○感想用紙を回収し、国語通信として家の人にフィードバックする。	

単元構想表の項目は、

- 児童生徒の実態と身に付けさせたい力
- 単元の言語活動
- 言語活動の特徴
- 単元名
- 単元の目標
- 単元の評価規準
- 教材
- 単元の展開（学習活動、指導上のポイント、評価規準）

として、この単元構想表を作成した上で授業することにより、言語活動の充実を図る授業実践が可能になるだろうと考えた。日常的な授業づくりは、身に付けさせたい力とその力に関する児童生徒の実態及び、言語活動と教材の特徴から授業構想を固め、具体的な1単位時間の進め方については、学習シートや板書計画を作りながら考えることが現実的ではないかと考えた。

(5) 本時の学習過程について（※詳細な説明は、「授業づくりガイドブック」に掲載）

単元の言語活動を位置付けたとしても、1時間1時間の授業が充実しなければ、単元の学習が充実することはあり得ない。そこで、一般化を図りやすいのではないかと考えた単元の展開部における本時の学習過程を考えた。

ア 「読むこと」領域における本時の学習過程

導入	1	単元の学習過程の確認
	2	本時の学習課題の設定
	3	既習内容や本時の学習内容の確認
	4	本時の学習過程の確認
	5	表現モデル・活動モデルの確認
展開	6	課題に沿った読み
	7	考えの交流
	8	読みのまとめ
終末	9	読みの適用
	10	本時の振り返り

本時の学習過程は、単元の学習過程と同様に、固定化したものにとらえるのではなく、本時の指導のねらいに沿って臨機応変に考えることが大切である。上記の学習過程をとった場合でも、1～5の導入部をできるだけ短くして、展開部の学習活動を保障する必要がある。6と8は個人での学習を、7はペアやグループ、学級全体の交流を想定している。時間配分的にも内容的にも7の段階の充実がポイントとなる。

イ 「書くこと」領域、「話すこと・聞くこと」領域における本時の学習過程

導入	1	単元の学習過程の確認
	2	本時の学習課題の設定
	3	既習内容や本時の学習内容の確認
	4	本時の学習過程の確認
	5	表現モデル・活動モデルの確認
展開	6	個人での学習
	7	グループ・全体での学習
終末	8	個人でのまとめ
	9	本時の振り返り

時間配分的には、導入部と終末部を10分程度に収め、展開部の学習活動の充実を図ることが重要となる。

2 研究の授業実践計画

小学校3名、中学校3名、高等学校3名の研究協力員により、各学校において本研究の授業づくりの考え方に基づいた1単元の授業を実践する。

3 研究の検証計画

研究担当者と小学校3名、中学校3名、高等学校3名の研究協力員により、各学校において本研究の授業づくりの考え方に基づいた1単元の授業を実践し、児童生徒の意識変容を検証する。



4 研究の全体構想図

研究の全体構想については、【図3】のように考えた。



【図3】研究の全体構想

**Ⅶ 授業実践と授業の考察**

1 研究担当者による実践授業の実際と検証

- (1) 授業者 総合教育センター 主任研修指導主事 長根義広
- (2) 生徒 岩手県立種市高等学校 普通科 第2学年 33名
- (3) 実践日 平成26年10月28日～平成26年12月16日(全4時間)
- (4) 授業の実際 以下21頁まで

高等学校第2学年「現代文B」単元構想表（大修館；「情報の力関係」）

**【生徒の実態】**

**【身に付けさせたい力】**

<p>○これまでの論理的な文章の学習では、「何が書かれているか」について読解することを中心に進めてきている。</p> <p>○筆者が「どのように論を展開しているのか」についてとらえる力や、筆者の論の展開を評価する学習は、これまでほとんど経験していない。</p>	<p>◎文章を読んで、構成、展開、要旨を的確にとらえる力。（現代文Bーア）</p> <p>この単元では、これまでの学習で生徒に十分に身に付いていないと思われるこの力の育成に絞って指導したい。</p>
--	---

**【単元の言語活動】**

説明文の構成、展開、要旨などを的確にとらえ、家形構造図を作る。

**【言語活動の特徴】**

家形構造図＝形式段落、意味段落、構成、役割、要約、要旨を図に表したもの。

（※筑波大附属小の二瓶弘行氏の考案した説明文の構成図を授業者が名付けたもの。）

この構造図を完成させるために、

- ①基本構成をとらえる（①序論・本論・結論に分ける，②序論・本論・結論の役割を考える，③本論に小見出しを付ける）
  - ②論の展開を検討する（①意味段落の順序，②意味段落相互の関係，③意味段落と結論の関係，④段落内の構成）
  - ③要旨をまとめる（筆者の伝えたい事実や意見・考えの中心をとらえる）
- という読み方を身に付けることを目指したい。

1. 単元名 構成、展開、要旨をとらえて、家形構造図を作ろう！

2. 単元の目標

文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、家形構造図を作ることができる。

3. 単元の評価規準

**【国語への関心・意欲・態度】**

☆説明的文章に興味をもち、進んで読もうとしている。

**【読む能力】**

☆文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえている。（現代文Bーア）

**【知識・理解】**

☆文体などの表現上の特色をとらえている。（現代文Bーオ）

4. 教材 「情報の力関係」（「現代文B」大修館書店），「いろいろなふね」（小学校1年 東京書籍）  
「ちょっと立ち止まって」（中学校1年 光村図書）

5. 単元の展開 (全4時間)

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント (○) 学習活動に即した評価規準 (関・読・知) 等
第0次		○この単元では設定しない。	
第1次	第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介, 座席作り (5分)</li> <li>○これまでの説明的文章の学習を思い出す (5分)</li> <li>○説明文とは何かを確認する (5分)</li> <li>○説明文を学ぶ目的を確認する (5分)</li> <li>○単元の学習課題を設定する (5分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成, 展開, 要旨をとらえて, 家形構造図を作ろう</li> </ul> </li> <li>○「いろいろなふね」で家形構造図のつくり方を知る (20分)</li> <li>○本時の学習を振り返る (5分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>関</b> 説明的文章に興味をもち, 進んで読もうとしている。</li> <li><b>知</b> 文体などの表現上の特色をとらえている。</li> </ul> <p>○グループ隊形で相談や既習事項の確認をさせながら授業を進める。</p>
第2次	第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を設定する (3分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ちょっと立ち止まって」の構成, 展開, 要旨をとらえ, 家形構造図を作ろう</li> </ul> </li> <li>○本時の見通しをもつ (5分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成, 展開, 要旨のとらえ方の見通し (既習の確認)</li> <li>・本時の学習過程の見通し</li> </ul> </li> <li>○課題を解決する <ul style="list-style-type: none"> <li>・要旨・要約から, 構成・小見出しからを分担して, 一人で考える。(10分)</li> <li>・グループで考える (10分)</li> <li>・みんなで考える (10分)</li> </ul> </li> <li>○本時の学習を振り返る <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で振り返る (4分)</li> <li>・グループで振り返る (4分)</li> <li>・みんなで振り返る (4分)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>読</b> 文章を読んで, 構成, 展開, 要旨などを的確にとらえている。</li> <li><b>知</b> 文体などの表現上の特色をとらえている。</li> </ul> <p>○学習過程 (学習形態, 学習内容, 時間) を黒板に明示する。</p> <p>○グループ学習の進め方を示す。</p>
	第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を設定する (3分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報の力関係」の構成, 展開, 要旨をとらえ, 家形構造図を考えよう</li> </ul> </li> <li>○本時の見通しをもつ (10分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成, 展開, 要旨のとらえ方の見通し</li> <li>・本時の学習過程の見通し</li> </ul> </li> <li>○課題を解決する <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人で「情報の力関係」を音読し, 語句の意味を確認する。(10分)</li> <li>・一人で家形構造図を考える (20分)</li> </ul> </li> <li>○本時の学習を振り返る <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で振り返る (4分)</li> <li>・みんなで振り返る (3分)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>読</b> 文章を読んで, 構成, 展開, 要旨などを的確にとらえている。</li> <li><b>知</b> 文体などの表現上の特色をとらえている。</li> </ul> <p>○学習過程 (学習形態, 学習内容, 時間) を黒板に明示する。</p> <p>○グループ音読の進め方を示す。</p>
第3次	第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習課題を設定する (2分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報の力関係」の構成, 展開, 要旨をとらえ, 家形構造図を完成させよう</li> </ul> </li> <li>○本時の見通しをもつ (3分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習過程の見通し</li> </ul> </li> <li>○課題を解決する <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで考える (15分)</li> <li>・みんなで考える (15分)</li> </ul> </li> <li>○単元の学習を振り返る <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で振り返る (5分)</li> <li>・グループで振り返る (5分)</li> <li>・みんなで振り返る (5分)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>読</b> 文章を読んで, 構成, 展開, 要旨などを的確にとらえている。</li> <li><b>知</b> 文体などの表現上の特色をとらえている。</li> </ul> <p>○学習過程 (学習形態, 学習内容, 時間) を黒板に明示する。</p> <p>○グループ学習の進め方を示す。</p>
	第4次	○この単元では設定しない。	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>関</b> 説明的文章に興味をもち, 進んで読もうとしている。</li> </ul>

【第1時 これまでの学習を振り返り、単元の学習課題を設定する】

学習シート①

2年 番・氏名

◎小学校からこれまでの説明文の学習を振り返り、自分が学んだと思うことを箇条書きにまとめてみましょう。どんなことを学びましたか。 32人中

- ① 文章の構成に関すること 11人 ⑦ 説明の仕方 2人
- ② 筆者が伝えたい内容 9人 ⑧ 要点まとめ 1人
- ③ 説明を正しく読む力 6人 ⑨ ぬき出し 1人
- ④ 記述なし 5人 複数回答 6人
- ⑤ 接続詞や文末表現 3人
- ⑥ 教材名を書いたことのもの 2人

◎説明文とは何ですか？

筆者が伝えたくてたまらないことを書いたもの。  
↓そのために美しいしくみを使っている。

◎私たちは、何のために説明文を学んでいるのでしょうか？

- | 形式                           | 内容                             |
|------------------------------|--------------------------------|
| ④ 伝え方について自分の意見をもつため。         | ① 伝えたいことを正確に受けとるため。↓ <b>要旨</b> |
| ③ 伝え方を学ぶため。↓ <b>構成・展開・表現</b> | ② 伝えたいことに対して自分の意見をもつため。        |

★単元の学習課題★

構成・展開・要旨をとらえて、「家形構想図」を作ろう。

【第1時 モデルとして扱った小学校教材「いろいろなふね」での家形構想図】

学習シート③

2年 番・氏名

◎「いろいろなふね」の書き方を家のつくり方に例えて「家形構想図」を作ろう！

結論	本論	序論	構成
まとめ	例示	話題	役割
⑭	⑪⑫⑬	①	形式段落
いろいろなふねが、それぞれのやく目にあうようにつくられている。↓ <b>要旨</b>	⑧⑨⑩ ぎやせん <small>の</small> やく目 <small>と</small> つくりしょうぼう <small>てい</small> のやく目 <small>と</small> つくり	②③④ きやくせん <small>の</small> やく目 <small>と</small> つくり 左り <small>り</small> ポ <small>ポ</small> ートのやく目 <small>と</small> つくり	要約（小見出し）と要旨

「家形構想図」の作り方

- 1 構成とは、説明文の基本三構成のこと。
- 2 役割を、この単元では三つずつ押さえよう。
  - 序論 「…話題、問い、まとめ」
  - 本論 「…例示、理由、方法、…」
  - 結論 「…考え、答え、まとめ」
- 3 形式段落は、内容的に合わせると「意味段落」になる。要約とは、文章を短くすること。要旨とは、筆者の伝えたいこと。
- 4 小見出しは、要旨のキーワードと関連付け、兄弟のように付けよう。
- 5



【第2時 グループ協議の進め方】

【グループ協議の進め方】

グループ司会者用

1 役割を確認する	・司会は〇〇、記録は〇〇さん、計時係は〇〇さん、発表者は〇〇さんです。
2 課題と交流の方向性を確認する	・これから、～ するために話し合いを始めます。 ・この話し合いは、グループとして考えをひとつにまとめるために行います。
3 交流時間の確認する	・話し合いの時間は、〇分です。 ・計時係は、まともに入らなければならない 〇分前になったら、指示してください。
4 意見を出し合い、分類する	・まず、皆さんの考えたものを出して比べてみましょう。 ・比べてみて、同じもの、違うものはどれですか。 ・考えが同じものについては、まとめてもよいですか。 (⇒記録係さんはまとまった分を書いてください。)
5 意見を広げる・深める	・考えが違うものについて、なぜ、そのように考えたのか、理由を説明してください。 〇〇さんどうぞ。 ・〇〇さんが、このように考えたのは、なぜですか。 ・～という考えと～という考えの他に考えられることはありませんか。 ・私は、～ とも考えられると思いますが、どうですか。 ・～について、もう少し詳しく教えてください。 ・〇〇さんは、どう思いますか。
6 意見を整理する	・～という考えと、～という考えが出ましたが、どのようにまとめればよいと思いますか。 ・～という考えから、～としてよいですか。 ・一番、良いと思う考えはどれですか。
7 意見をまとめる	・時間になったので、みんなの意見をまとめます。 ・話し合いの結果、～のようにまとめていいですか。 ・記録係は、まとめの用紙にまとめてください。 ・皆さんは、自分の学習シートに書き足してください。
8 話し合いを終える	・これでグループの話し合いを終わります。 ・〇〇さんは、発表の準備をしてみてください。 ・話し合いの様子について、感想を述べて終わる。

【第2時 要旨をとらえるコツ、グループ学習・全体交流の進め方】

★要旨をとらえるコツ★

(1) 要旨が書かれていると思われる段落に見当をつける。  
 (2) 要旨が書かれている段落で、題名、あるいは題名に関係ある言葉をマークする。  
 (3) 本論で述べられている事例に関係した言葉をマークする。  
 (4) 本論と関係付けて、どの文とどの文を中心にとめるかを考える。  
 (5) (4)の文をつなげて、意味の通じる短い文にする。(字数制限や条件などを守る)  
 (6) (5)を読み返して、筆者が伝えたいことの中心かどうかを吟味する。

★個人学習からグループ学習への進め方★

(1) 一人で「家形構造図」を考える順番をグループで分担する。  
 ① 「家形構造図」の1と5と順番に考える人 二人  
 ② 「家形構造図」の4・5から先に考える人 二人

(2) 役割分担をして、グループで考える  
 ○司会：個人で考えた学習シートを出し合い、全員が同じところを確認する。  
 違うところをいって意見を出し合って、グループとしての考えをまとめる。  
 ○記録：同じだったところを構造図に書く。  
 違うところを、協議でまとめたものを構造図に書く。  
 ○発表：グループ協議後、「家形構造図」を黒板に貼る。  
 九グループあるので、他のグループと見比べて、同じあるいは近いものを近づけて貼る。  
 全体司会者から質問や発表の指示があった場合に、答えたり発表したりする。  
 ○計時：話し合いの時間をみんなに知らせ、時間内に「家形構造図」がまとめられるように、司会者に進行を促す。

★全体交流の進め方★

(1) 全体司会者が司会をする。  
 ① 同じところは、そのままよいかみんなに確認する。  
 ② 違うところを、どうしたらよいかみんなが納得するまで意見をとり。  
 ③ 困ったときには、先生に助言を求め。  
 ④ まとめ終わったら、全体を通しての助言を先生に求めた後、席に戻る  
 全体記録者が「家形構造図」に書きする。司会者とともに、席に戻る。  
 全体計時は、自分の席で、話し合いの時間をみんなに知らせ、時間内に「家形構造図」をまとめられるように、司会者に進行を促す。

学習シート⑥

2年 番・氏名

【第3時 全体司会の進め方】

【国語科授業の進め方】

全体司会者用

1	授業の開始・単元の学習の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>これから国語の授業を始めます。</li> <li>今日の授業は、〇〇という単元、〇 時間のうちの 〇時間目です。</li> <li>これまでの学習では、1時間目は 〇〇、2時間目は 〇〇 について学んできました。 (単元の学習の1時間1時間を振り返る)</li> </ul>
2	学習課題の設定・学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の学習課題を確認します。学習課題は、 〇〇 です。</li> <li>今日の学習では、 ~ (これまでの学習内容とのつながりを説明する)</li> </ul>
3	本時の学習過程の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の学習過程について説明します。</li> <li>今日の学習では、最初に~、次に~、最後に~、 (学習形態と活動内容、時間配分を説明する)</li> </ul>
4	学習活動のやり方の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>それでは先生、学習活動の進め方について説明をお願いします。</li> </ul>
5	学習活動①	<ul style="list-style-type: none"> <li>それでは、これから〇分間、~ します。始めてください。</li> <li>時間なのでやめてください。</li> </ul>
6	学習活動②	<ul style="list-style-type: none"> <li>それでは、これから〇分間、~ します。始めてください。</li> <li>時間なのでやめてください。</li> </ul>
7	学習活動③	<ul style="list-style-type: none"> <li>それでは、これから〇分間、~ します。</li> <li>先生、お願いします。</li> </ul>
8	本時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の学習活動は、ここまでです。学習シート〇 に、振り返りを書いてください。</li> <li>まず、一人で〇分間、書いてください。</li> <li>それでは、これからグループで〇分間、交流してください。</li> <li>全体での振り返りをします。先生お願いします。</li> </ul>
9	全体司会者から	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体司会者として、今日の学習を振り返ります。(今日の授業で友達のよかったところ、自分のよかったところ、次の授業で頑張りたいと思ったことなどを述べる)</li> <li>以上で、国語の授業を終わります。</li> </ul>

【第4時 単元のゴールとしての家形構想図】

「家形構想図」の作り方

⑤ ④ ③ ② ①

⑤ 序論と結論を要約しよう。どちらが要旨になるか考えよう。要旨と関連付けながら、本論の意味段落に小見出しを付けよう。

④ 本論を意味段落に分けよう。

③ 序論・本論・結論のそれぞれの役割を考えよう。

② 説明文の基本三構成(序論・本論・結論)を考えよう。

①

結 論	本 論	構 成
考え・まとめ	例 示	役割
⑤	④ ③ ② ①	形式段落
<p>情報の図形や写真や文字や音などの要素には力関係があり、それをうまく使うことで情報をスムーズに送ることもできるし、その逆も言える。</p>	<p>図形と文字の力関係</p> <p>・図形が強い例</p> <p>・文字が強い例</p> <p>絵と図形の力関係</p>	<p>要約(小見出し)と要旨</p>

◎ 「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえ、家形構想図を考えよう

2年

番・氏名

学習シート⑦



【第4時 グループ交流を通して生徒が作成した家形構想図①】

結論	本論		序論	構成
まとめ	例示		話題	役割
⑤	③ ④	②	①	形式段落
<p>要約（小見出し）と要旨</p>				
<p>どんなメディアにおいても、情報の要素に力関係が生じていて、図形や写真や文字や音などの要素をうまく使うことで情報をスムーズに送ることができる。</p>	<p>絵と図形の情報の力関係。</p>	<p>図形と文字の情報の力関係。</p>	<p>文字としては「左を見よ」と書かれていても、矢印が放つ力が眼差しを右の方に持っていき、ように感じないだろうか。</p>	

【第4時 グループ交流を通して生徒が作成した家形構想図②】

結論	本論		構成
まとめ	<del>話題</del> 例示		役割
⑤	③~④	①~②	形式段落
<p>要約（小見出し）と要旨</p>			
<p>図形や写真や文字や音などの、さまざまな情報の要素に生じる力関係をうまく使うことで、たくさん情報をスムーズに送ることができる。</p>	<p>〈絵〉と〈図形〉の力関係</p>	<p>〈図形〉と〈文字〉の力関係</p>	



【生徒の振り返りシート①】

⑩ 単元の学習を通して、構成や展開、要旨をとらえる力を高めることができた。	④	3	2	1
⑨ 単元の学習は自分にとって意味のある、学びがいのあるものであった。	④	3	2	1
⑧ 単元で学んだことは、自分の将来に役立てることができる。	④	3	2	1
⑦ 単元で学んだことは、他の教科の学習に役立てることができる。	④	3	2	1
⑥ 単元で学んだことは、これからの国語の学習に役立てることができる。	④	3	2	1
⑤ 単元の学習を通して何が分かったかを説明できる。	4	③	2	1
④ 単元や今日の課題を意識して学習することができた。	④	3	2	1
③ どのように考えればよいか、その方法をつかんで学習することができた。	④	3	2	1
② 何ができるようになればよいかをつかんで学習することができた。	④	3	2	1
① これから何をするのか、見通しをもって学習することができた。	4	③	2	1

2 単元の振り返り  
 あてはまる4 だいたいあてはまる3 あまりあてはまらない2 あてはまらない1 (〇をつけてください)

1/16 ④	1/16 ③	1/15 ②	1/28 ①	学習 学習活動計画	評価 分かった4	2年 番・氏名	
○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を完成させる	○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を考える	○「ちよつと立ち止まって」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を作る	○これまでの説明的文章の学習を思い出す ○説明文とは何かを確認する ○説明文を学ぶ目的を確認する ○単元の学習課題を設定する ○「家形構造図」のつくり方を 知る	感想(楽しかったこと、わかったこと、よくわからなかったこと、頑張ったこと、頑張りたいこと、など)	だいたい分かった3	あまり分からなかった2	分からなかった1
3	3	3	4	説明文のしくみがわかった。 これまでに説明文を学んで意義はわからないまま勉強していたが、これからはしっかりと上へへんまうといくつもりです。			
自分だけでなく家形構造図を考えるのはむずかしいけど、家形構造図を考えたことで、自分の考えが整理された。また、家形構造図を書くことで、自分の考えが整理された。また、家形構造図を書くことで、自分の考えが整理された。	本論の形式段落を考えると、自分たちの力だけで考える活動は、なかなか思いつかない。	自分だけでなく家形構造図を考えるのはむずかしいけど、家形構造図を考えたことで、自分の考えが整理された。また、家形構造図を書くことで、自分の考えが整理された。	説明文のしくみがわかった。 これまでに説明文を学んで意義はわからないまま勉強していたが、これからはしっかりと上へへんまうといくつもりです。				

【生徒の振り返りシート②】

⑩ 単元の学習を通して、構成や展開、要旨をとらえる力を高めることができた。	④	3	2	1
⑨ 単元の学習は自分にとって意味のある、学びがいのあるものであった。	④	3	2	1
⑧ 単元で学んだことは、自分の将来に役立てることができる。	4	③	2	1
⑦ 単元で学んだことは、他の教科の学習に役立てることができる。	4	③	2	1
⑥ 単元で学んだことは、これからの国語の学習に役立てることができる。	④	3	2	1
⑤ 単元の学習を通して何が分かったかを説明できる。	④	3	2	1
④ 単元や今日の課題を意識して学習することができた。	④	3	2	1
③ どのように考えればよいか、その方法をつかんで学習することができた。	④	3	2	1
② 何ができるようになればよいかをつかんで学習することができた。	④	3	2	1
① これから何をするのか、見通しをもって学習することができた。	④	3	2	1

2 単元の振り返り  
 あてはまる4 だいたいあてはまる3 あまりあてはまらない2 あてはまらない1 (〇をつけてください)

1/16 ④	1/16 ③	1/15 ②	1/28 ①	学習 学習活動計画	評価 分かった4	2年 番・氏名	
○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を完成させる	○「情報の力関係」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を考える	○「ちよつと立ち止まって」の構成、展開、要旨をとらえて、「家形構造図」を作る	○これまでの説明的文章の学習を思い出す ○説明文とは何かを確認する ○説明文を学ぶ目的を確認する ○単元の学習課題を設定する ○「家形構造図」のつくり方を 知る	感想(楽しかったこと、わかったこと、よくわからなかったこと、頑張ったこと、頑張りたいこと、など)	だいたい分かった3	あまり分からなかった2	分からなかった1
4	3	3	3	説明文を段落ごとに分けて読み取り、要約をするのは中学校ぶりだったので、懐かしかったです。一通り自分でできたので、安心しました。			
自分だけでなく家形構造図を書いているときにも序論がなく本論と結論だけで構成されてることを考えたけど、三構成で考えたら二構成で考えたら上手い理由付けがなかった。読んでみると、スムーズに進められて良かった。	少し時間が足りなかったけど、なんとか小見出しと要約まで書けてよかった。序論と本論をどこに分けるか、とても考えました。	一度読んだ説明文をもう一度読むと違って見えてくるなと思いました。	説明文を段落ごとに分けて読み取り、要約をするのは中学校ぶりだったので、懐かしかったです。一通り自分でできたので、安心しました。				



(5) 授業の検証

ア 生徒の意識調査から

(ア) 授業実践前 (N=33, 「平成 26 年度高校 2 年意識調査集計結果 (平成 26 年 4 月実施)」による)

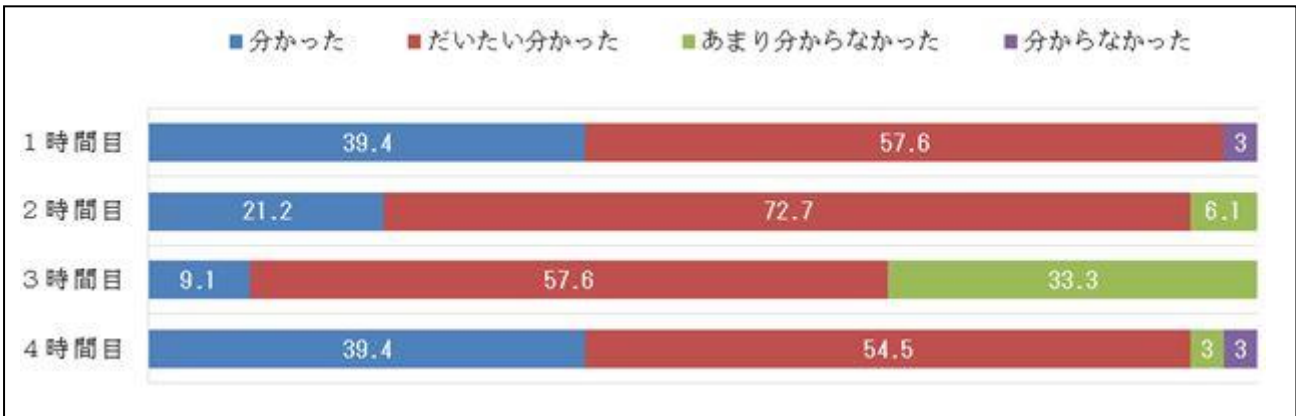


【図 4】「授業が分かる」と回答した割合 (%)

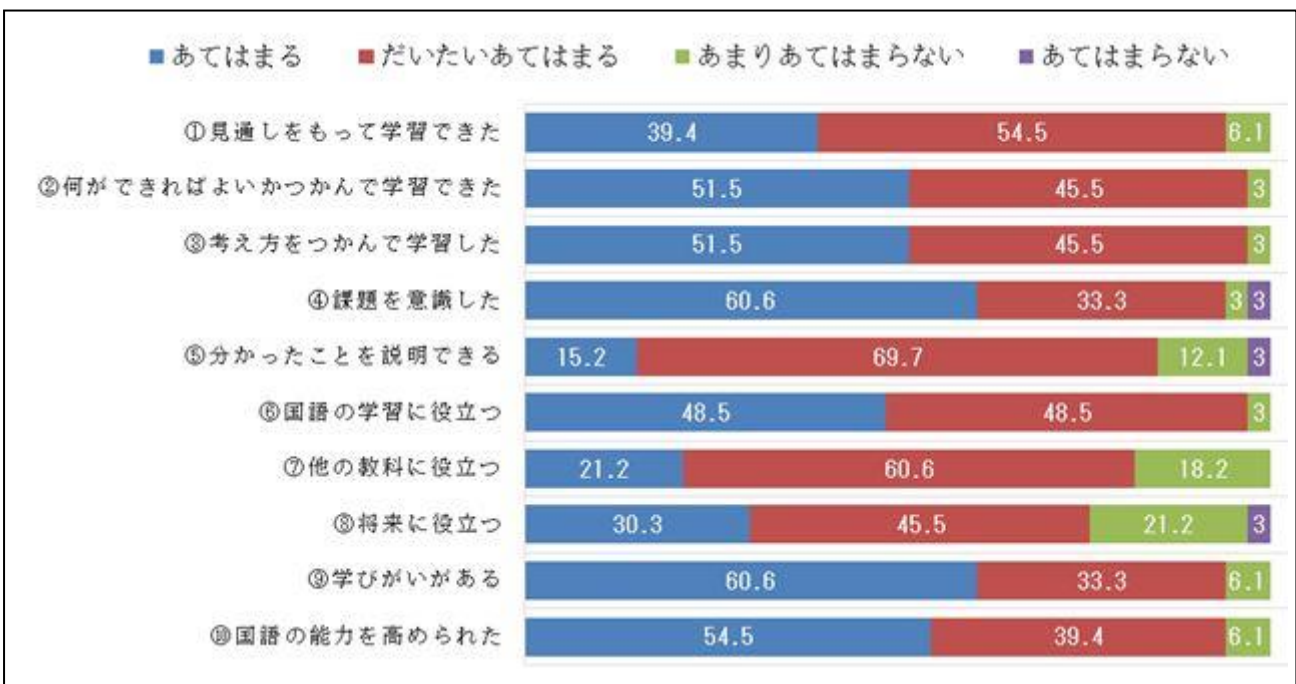


【図 5】「将来役に立つ」と回答した割合 (%)

(イ) 授業実践後 (N=33, 「生徒の自己評価シート (平成 26 年 12 月実施)」による)



【図 6】「今日の授業が分かった」と回答した割合 (%)



【図 7】単元の振り返りでの生徒の回答 (%)

【表4】授業実践における生徒の記述内容の分類（N=33，複数回答）

項目	記述内容	記述数（人）
内容理解について	①説明文の構成・展開・要旨のまとめ方が分かった	19
	②本論から始まる説明文があることが分かった	10
	③構成や要旨をとらえて構造図を書くことが出来た（活動面）	11
	④グループで司会や話し合いを積極的に出来た（活動面）	9
	⑤説明文の構成・展開・要旨を考えるのが難しかった	15
	⑥一人で考えるのが難しかった	5
	⑦考えるほど分からなくなった	5
グループ学習について	⑧グループで学ぶことで新たな発見の喜びを感じたり理解が深まったりしておもしろかった	21
	⑨グループで考えをまとめるのが大変だった，難しかった	3
学習意欲について	⑩学んだことを使っていきたい，もっと学びたい，楽しみ	10
既習との関連について	⑪小学校で学んだこととつながった，前の時間と合わせて考えると分かりやすかった	5
先生の説明について	⑫先生の説明が分かりやすかった	2

(ウ) 授業実践を通じた生徒の意識について

① 「分かる授業」について

・「分かる」と答えた生徒の割合が，9.1%（【図4】）から39.4%（【図6】の4時間目）に増加した。同じように「だいたい分かる」を合わせても，83%から93.9%に増加している。このことから，この単元の学習は，4月時点で生徒が捉えていた国語の授業よりも分かりやすい授業だったと言える。

・【図6】を見ると，「分かる」と感じた生徒の割合が，1時間目に39.4%だったのが，2時間目，3時間目と減少し，4時間目になって39.4%に増加した。これは，1時間目が小学校教材「いろいろなふね」，2時間目が中学校教材「ちょっと立ち止まって」，3・4時間目が高校教材「情報の力関係」を使用していることに一因があると考えられる。4時間目に「分かる」割合が増加したのは，3時間目が一人で考えたのに対し4時間目はグループや全体で交流したこと，1時間目から3時間目の学習が「情報の力関係」の構成や展開，要旨をとらえる学習に有効にはたらいたからではないかと考えられる。

・【図7】の①②③④は，「分かる授業」の要素と捉えたものである。この4項目を平均すると50.8%の生徒が「あてはまる」と回答している。「学習過程，ゴール，学習方法，学習課題」を捉えて学習することが，「分かる授業」につながると考えられる。

② 「できる授業」について

・【図7】の⑤を見ると，「分かったことを説明できる」は15.2%で，【図6】の「分かる」39.4%（4時間目）に比べて低くなっている。これは「理解はできるが説明することが難しい」と考えている生徒が多いことを表している。しかし，この数値は【図4】の4月時点での「授業が分かる」割合9.1%よりも高い。

③ 「役に立つ授業」について

・「将来役立つ」と答えた生徒の割合は，51.1%（【図5】）から30.3%（【図7】の⑧）に減少した。同じように，「どちらかといえば，だいたい」を合わせても，85.2%から75.8%に減少している。これは，この単元の「説明文の構成や展開，要旨をとらえる」という学習内容が生活に生かされることを実感できなかったことと，単元の学習が実生活に生かさせることを実感できる展開ではなく，「説明文の構成や展開，要旨をとらえる」という基本的な能力を身に付けることをねらいとしていたことに因るのではないかと考えられる。

・【図7】の⑥⑦⑧は，「役に立つ授業」の要素と捉えたものである。「あてはまる，だいたいあてはまる」

を合わせると、国語の学習に役立つ97%に対して、他の教科に役立つ81.8%、将来に役立つ75.8%と、国語の学習内容が授業以外に役立つ実感をもつことができるようにすることに課題があったことが分かる。

#### ④ 「楽しい授業」について

- ・この研究において、「楽しい授業」の要素を【図7】の⑨と⑩と捉えた。「学びが面白い」は60.6%と、「単元の振り返り」の項目の中で「課題を意識した」とともに最も高かった。学習内容に意義を感じて学んだ生徒が多かったことがわかる。また、「説明文の構成や展開、要旨をとらえる力を高められた」と感じている生徒は54.5%であり、「だいたい」を合わせると93.9%が自身の能力の向上を実感していることがわかる。

#### ⑤ 生徒の自由記述（【表4】）について

- ・「内容理解について」を見ると、学習内容である「①説明文の構成・展開・要旨を捉える」ことについて、19人(57.6%)に「分かった」という記述が見られる。これは、【図6】の4時間目の「今日の授業が分かった」39.4%よりも高い評価となっている。
- ・「③構造図を書くことが出来た」というように、内容理解を学習活動の成果として記述している生徒が11人(33.3%)いた。この生徒たちを合わせると30人(90.9%)が内容を理解できたと感じていることが分かる。
- ・「⑤考えるのが難しかった」「⑥一人で考えるのが難しかった」「⑦考えるほど分からなくなった」はマイナス傾向の回答ではあるが、25人(75.8%)が苦しみながらも思考していることが分かる。
- ・グループ学習については、グループ学習をプラス傾向に捉え、グループ学習が学習の広がりや深まりに役立つと考えている生徒が21人(63.6%)であった。
- ・もっと学びたいという学習意欲については、10人(30.3%)に記述が見られた。

#### イ 授業者の観察等から

- (ア) 高校の教材を読む力を高めるために、小学校教材、中学校教材を利用したことが有効的に機能した。小学校教材での学習が、内容的にも活動的にもモデル学習の役割を果たし、分かる授業につながったと考えられる。
- (イ) 授業にグループ学習を取り入れ、4人グループで全員に役割(司会、記録、発表、計時)をもたせたことが活動の充実につながり、内容理解の深まりや広がりにつながった。
- (ウ) 「家形構造図を作る」という単元の言語活動が、説明文の構成や展開を捉え、要旨をまとめる力を高めることに有効的に機能した。
- (エ) グループ学習や全体学習において、友達の発言から新しい発見をする場面が何度か見られた。構成や展開の面白さに気付くきっかけとなり、説明文の書かれ方について関心が高まったようである。

#### ウ 授業実践を通してのまとめ

- (ア) 一教材文で表現する単元の学習過程「読書目的を設定する、表現モデルを分析する、学習計画を立てる、目的と表現を意識して読む、表現する、表現について交流する、単元の学習を振り返る」は、生徒の「分かる授業」や「楽しい授業」の実現に有効的に機能した。
- (イ) 本時の学習過程に、一人で考える時間、グループ学習、全体学習を効果的に位置付けることは、学びの深まりや広がりにも有効的に機能した。
- (ウ) 小学校教材や中学校教材を用いて高等学校で授業することは、生徒に過去の学びを思い出させ、学習意欲を高めることにつながった。国語の内容の系統性を考慮するだけでなく、教材の系統性をつかみ、既習の教材を本単元の学習に活用することは、生徒の理解を高めることにつながることが分かった。

## 2 研究協力員による実践授業の実際と検証①

- (1) 授業者 矢巾町立煙山小学校 小野寺 清子
- (2) 児童 矢巾町立煙山小学校 第2学年3組 32名
- (3) 実施日 平成27年11月2日～平成27年11月13日（全11時間）
- (4) 授業の実際 以下33頁まで

### 小学校第2学年単元構想表（光村；「わたしはおねえさん」）

#### 【児童の実態】

- ・登場人物の行動を中心に、場面の様子を想像する学習を1年生から積み重ねてきている。
- ・「ふきのとう（2年上）」では、登場人物の様子やしていることに気を付け、読み方を工夫して役割読みをする学習をした。
- ・「スイミー（2年上）」では、登場人物の行動と会話から、場面の様子を想像して読み、主人公に手紙を書く学習をした。
- ・「お手紙（2年下）」では、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、友情に関する本について、好きなどころを紹介する学習をした。
- ・叙述に立ち返って読み取ったり、自分の思いを言葉で表現したりすることが難しい児童も見られる。

#### 【身に付けさせたい力】

- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む力（C-U）
- 文章の中の大事な言葉や文を書き抜く力（C-E）
- 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う力（C-O）

#### 【単元の言語活動】

人物の行動や会話を自分の経験と比べながら読み、おすすめの本を紹介する。

#### 【言語活動の特徴】

この単元は、「お話を短くまとめて、家の人に紹介する」言語活動が位置付けられている。短くまとめるためには、まず、物語の大事なところが分からなくてはならない。あわせて、物語の構成もつかむ必要があるだろう。大事なところの中には、物語の舞台（時・場所）、登場人物、事件（出来事）や、その結末も含まれる。それらを押さえていく過程で、展開の順序・構成に気を付けて読み取ることができるだろう。

1. 単元名 人物と自分を比べて読んだ本を紹介しよう。

2. 単元の目標

文章の中から心に残った文を書き抜き、自分の経験と結び付けて、自分の思いや考えをまとめて、友達や家族に伝え合うことができる。

3. 単元の評価規準

##### 【国語への関心・意欲・態度】

☆登場人物と自分を比べたり、重ねたりしながら、興味をもって物語を読もうとしている。

##### 【読む能力】

☆時、人物、出来事などに注意して、物語の大筋を読み取っている。（C-U）

☆心に残った言葉や文を書き抜き、自分の経験を思い出し、登場人物と似ているところや近いところ、違うところを見付けている。（C-E）

☆自分の感想の中心が明確になるように、文章から大事な文や言葉を選び、お話の流れが分かるあらすじをまとめている。（C-O）

##### 【言語についての知識・理解・技能】

☆主語と述語の関係に注意して、文章を読んでいる。（伝国イ（カ））

4. 教材 「わたしはおねえさん」（光村図書）

5. 単元の展開 (全 11 時間)

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント (○) 学習活動に即した評価規準 (関・読・言) 等
第0次		○児童と同年代の主人公が出てくる他の本を紹介し、学級文庫として日常的に本に親しむ環境を設定する。	○図書支援員と連携し、同年代の主人公が出てくる本のブックトークを行うことにより、児童が本に親しんでいくことができるようにする。
第1次	第1時	①自分がお姉さん、お兄さんになったなど思うことについて話し合い、「お話のじんぶつと自分とくらべて読んで、お話のあらすじをしようかしよう」という学習課題を設定し、学習の見通しをもつ。	①学校行事、生活科の学習、1年生との交流などの体験から想起させる。 関 物語の登場人物と自分とを比べたり、重ねたりしながら、興味をもって物語を読もうとしている。(観察・発言)
第2次	第2時	②すみれちゃんがどんな人なのかを捉え、妹のかりんちゃんとの関係をまとめる。	お気に入りの本の並行読書
	第3時	③話のおおまかな内容を読み、姉妹の間に起こった出来事を捉える。	
	第4時	④すみれちゃんの行動について話し合い、すみれちゃんのかりんちゃんへの思いの変化に気付く。	
	第5時	⑤「わたしはおねえさん」の中から、友達に紹介したいところを決め、自分の経験や考えと結び付けて紹介カードに書く。	
第6時	⑥紹介カードをもとに「読書発表会」を行い、楽しみながら交流する。	⑥自分の経験とつなげることで、すみれちゃんの気持ちを想像させて読む。 ⑦お気に入りの場面を紹介するために、選んだわけや自分の考えを結び付けて書き、紹介カードを完成させていく。 ⑧友達の発表に対して、自分が共感したことや、感想を交流し合うことにより、選択教材の「読書発表会」への意欲を高めるようにする。 読 時、場所、人物、出来事などに注意して、物語の大筋を読み取っている。(発表・ノート・紹介カード) 読 心に残った言葉や文を書き抜き、自分の経験を振り返りながら、登場人物との共通点や相違点を見付け出している。(ノート) 言 主語と述語の関係に注意して、文章を読んでいる。	
第3次	第7時	⑦⑧すみれちゃんが出てくる他の本や、同年代の主人公が出てくる本を自分の経験と比べながら読み、あらすじをまとめる。	⑦⑧人物と自分を比べて読むという読書の楽しみ方を広げ、共通教材で学習したことを生かしてあらすじをまとめさせる。 ⑨お気に入りの場面を紹介するために、選んだわけや自分の考えを結び付けて書き、紹介カードを完成させていく。 ⑩紹介の仕方や「読書発表会」のめあてを明確にし、児童達が意欲的に交流できるようにする。 ⑪「自分と比べながら読む」ことのよさを実感させ、定着を図る。また、交流を経て、読みたくなった本を発表させる。 関 同年代の主人公が出てくる本を、興味をもって読もうとしている。(観察・発言) 読 自分の感想の中心が明確になるように、文章から大事な文や言葉を選び、話の流れが分かるあらすじにまとめている。(発表・紹介カード) 言 主語と述語の関係に注意して、文章を読んでいる。
	第9時	⑨自分が読んだ本の中から、友達や家族に紹介したいところを決め、自分の経験や考えと結び付けて紹介カードに書く。	
	第10時	⑩紹介カードをもとに「読書発表会」を行い、楽しみながら交流する。また、読みたくなった本を発表する。	
	第11時	⑪学習を振り返り、登場人物と自分を比べて読むおもしろさ確かめる。	
第4次		○家の人に読んでもらい、感想を書いてもらう。	



【第0次】

ブックトークによる読書意欲の喚起

第0次では、図書支援員と連携し、同年代の主人公が出てくる本のブックトークを行うことにより、児童が本に親しんでいくことができるようにするとともに、読書環境を整えた。



【第1次 第1時】

物語の登場人物と自分を比べたり重ねたりしながら、興味をもって物語を読もうという意欲をもつ

第1次では、単元の言語活動を念頭に置きながら、「読書発表会」をするための学習をしていくことを指導した。はじめに、自分がお姉さん、お兄さんになったなどと思うことについて話し合い、題名からどんな内容のお話なのかを想像させた。範読を聞いた後、「お話の人物と自分と比べて読んで、お話のあらすじを紹介しよう」という学習課題を設定し、学習の見通しをもたせた。石井睦美著「すみれちゃんシリーズ」を紹介し、シリーズの物語に興味をもち、いろいろな本を読んでみようとする意欲を高くしていくことができるようにした。さらに、「読書発表会」をすることを確認し、単元全体の学習の見通しをもつことができるようにするとともに、並行読書を始めさせた。



【第1次 第1時】

1 本時のねらい

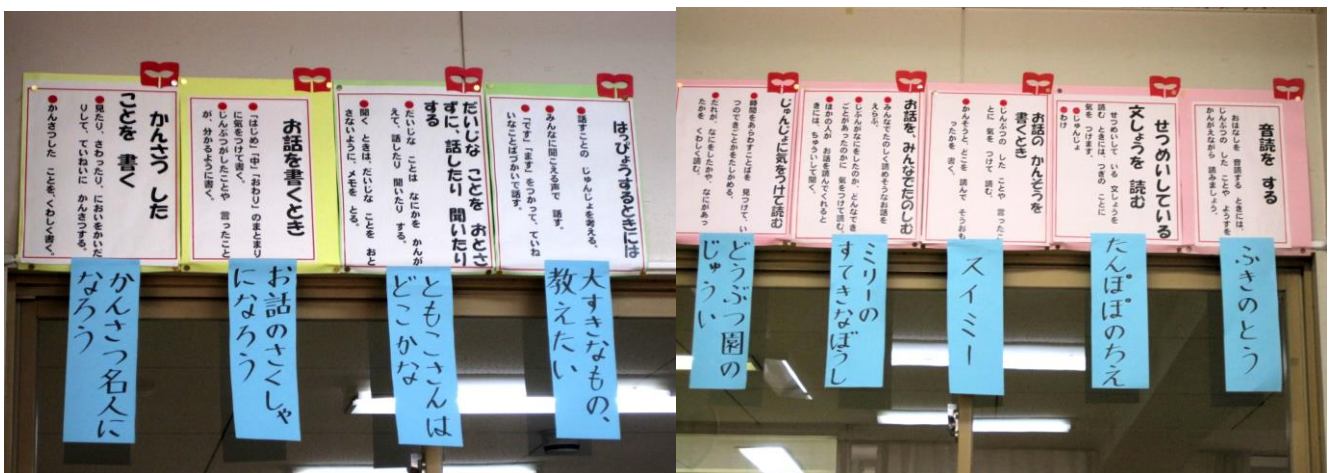
物語の登場人物と自分を比べたり、重ねたりしながら、興味をもって物語を読もうという意欲をもつことができる。

2 本時の展開

段階	学 習 活 動	児童への支援 (具体的な指導の留意点)	時間
導 入	1 1年生の時と比べて、自分がお姉さん、お兄さんになったと思うことについて話し合う。 2 題名を読み、物語の内容を予想する。 学習課題 お話の人ぶつと自分をくらべて読もう。	○学校行事、生活科の学習、1年生との交流などの体験を想起させ、1年生の時と比べて、自分ができるようになったことを発表できるようにする。(写真掲示) ○題名「わたしはおねえさん」を板書し、お姉さんは誰かということ、年下の兄弟姉妹がいることなどを確認する。	7分
展 開	3 「わたしはおねえさん」の範読を聞く。 4 主人公の言動と自分を比べた感想を発表し合う。 5 単元名とリード文を読み、単元のめあてを確認する。 【単元の言語活動】 人物の行動や会話を自分の経験と比べながら読み、あらすじを書いておすすめの本を紹介する。 6 「すみれちゃん」に言ってあげたいことを書く。	○主人公の言動を、「自分だったらどうかな」と比べながら聞くことができるようにする。 ○自分と比べた感想を発表し合い、友達の考えと同じところや違うところがあることに気付くことができるようにする。 ○感想発表を通して、物語の人物と自分が似ているところや違うところを意識させていくことで、児童の思考の流れが無理なく単元のめあてにつながるようにする。また、児童が主人公の「読書発表会」をするために、あらすじの書き方を学ぶことを確認する。 ○「すみれちゃん」に向かって話しかけるように書くことで、興味をもって物語を読もうという意欲を高める。	35分
ま と め	7 学習を振り返る。 8 次時の学習内容を把握する。	○物語の登場人物と自分を比べたり重ねたりしながら、興味をもって物語を読もうとすることができたかを振り返る。	3分

教室内の掲示

国語の教科書「たいせつ」をまとめたものを掲示することにより、国語科以外の学習でも活用できるようにする。





【第2次 第2～4時】

共通教材「わたしはおねえさん」の学習を通して、物語の大筋を読み取る

第2次では、共通教材として「わたしはおねえさん」を扱い、時、人物、出来事などに注意して、物語の大筋を読み取ることができるようにした。その際、登場人物の様子が分かる言葉にサイドラインを引き、そのときの気持ちを想像したり、吹き出しに気持ちを書いたりする活動を通して主人公の気持ちを読み取らせた。また、登場人物に自分を重ね合わせ、自分だったらどうするだろうかと想像しながら読みを進めることで、自分の経験と比べながら読み、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う力を付けさせた。このように、読みの視点と表現を意識して読ませることで、共通教材で表現する力を付けることができるようにした。

【第2次 第5～6時】

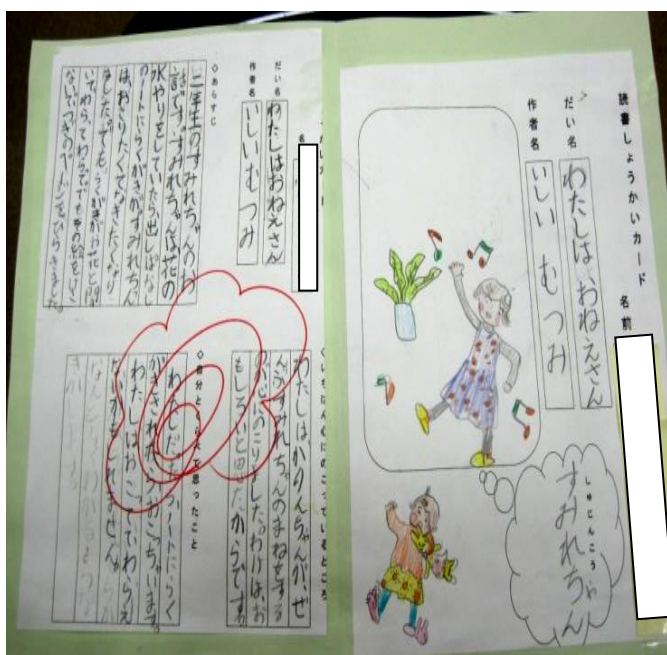
共通教材「わたしはおねえさん」の読書紹介カードを書き、読書発表会を行う



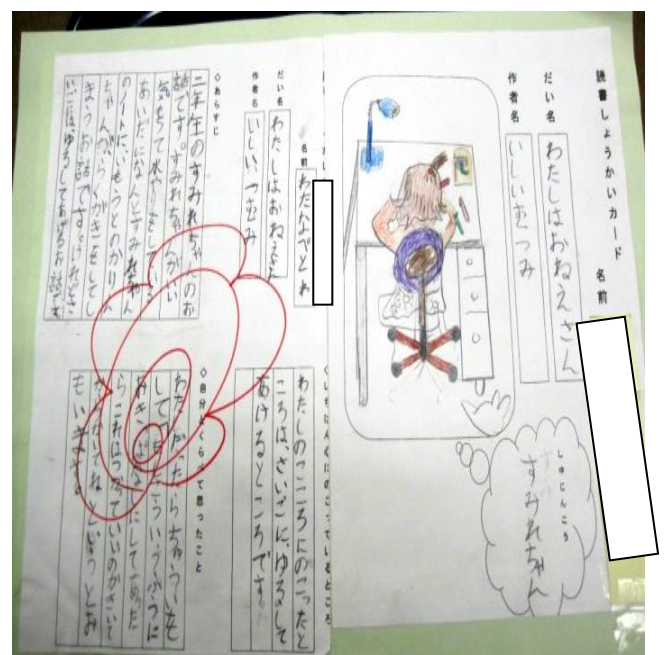
「わたしはおねえさん」で紹介カードを書き、同一教材による「読書発表会」を行った。その際、読んだ本のあらすじや感想について交流し合い、同一教材でも、一人一人の感じ方に違いがあることに気付かせた。また、教師のモデル文【図1】を活用することにより、選択教材の学習へとつなげた。

【図2】と【図3】の児童の作品は、同一教材を読んだ時のあらすじや感想が異なるものである。

【図1】 教師のモデル文



【図2】 児童の作品A



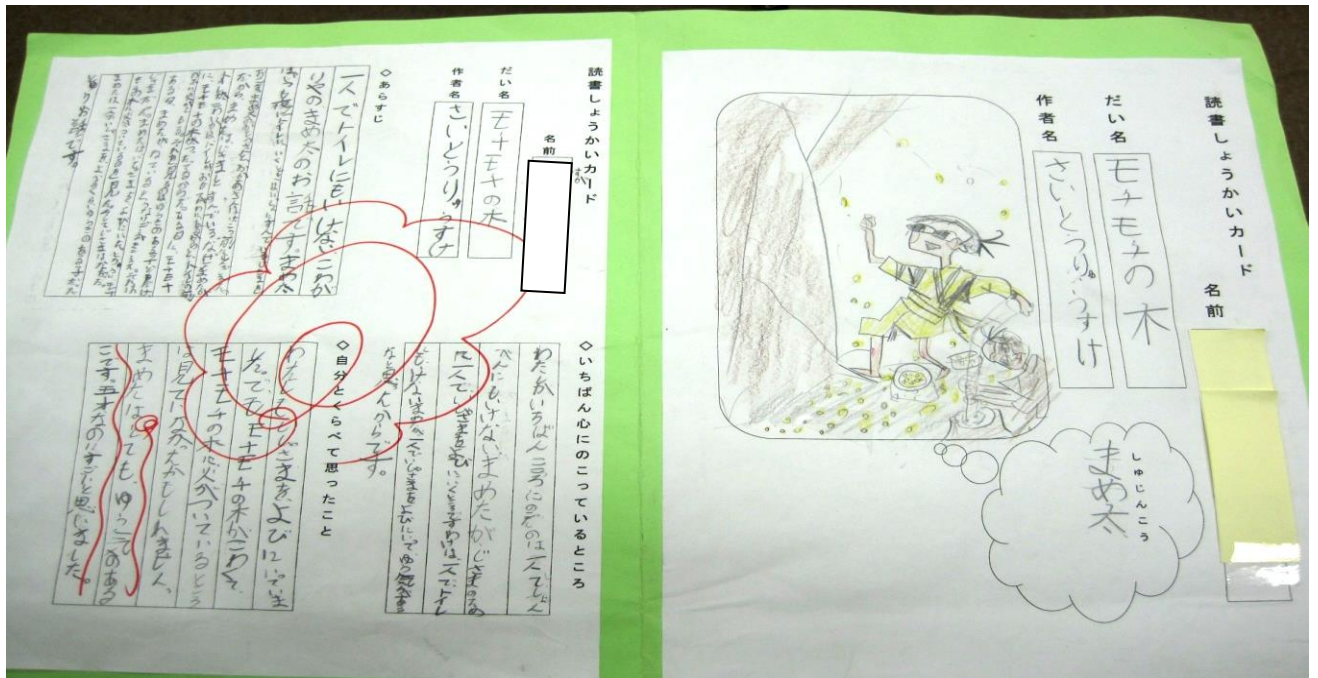
【図3】 児童の作品B



【第3次 第7～10時】

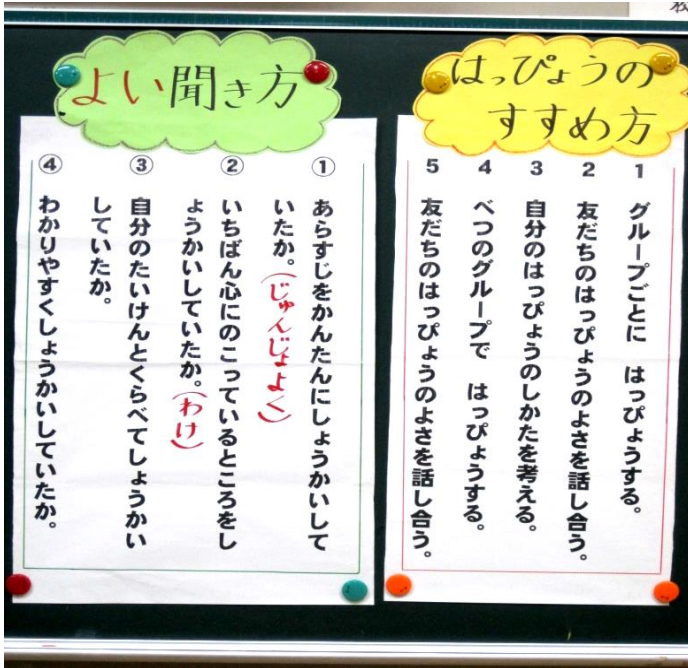
選択教材「お気に入りの本」の読書紹介カードを書き、読書発表会を行う

第3次では、選択教材として、自分が読んだ本の中から、友達や家族に紹介したいところを決め「読書発表会」を行うことができるようにした。はじめに、学級文庫の中から、同年代の主人公が出てくる本を自分の経験と結び付けながらじっくり読ませ、お気に入りの一冊を決めさせた。次に、読みの視点と表現を意識して読ませることで、登場人物に自分を重ね合わせ、自分だったらどうするだろうかと想像しながら読みを進めさせ、自分の経験と結び付けながら自分の思いや考えをまとめさせた。その後、自分のお気に入り作品を紹介するために、第2次で学習した内容を活用させ、紹介カードを書かせた。単元の終末では、選択教材による「読書発表会」を行い、読んだ本のあらすじや感想について交流し合った。友達の発表に対して、自分が共感したことや、友達のよさを見付けて感想を共有し合うことにより、学習したことへの満足感や達成感を高めることができるようにした。このような指導をしていくことにより、「文章の中から心に残った文を書き抜き、自分の経験と結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、友達や家族に伝え合う力」を育てることができた。

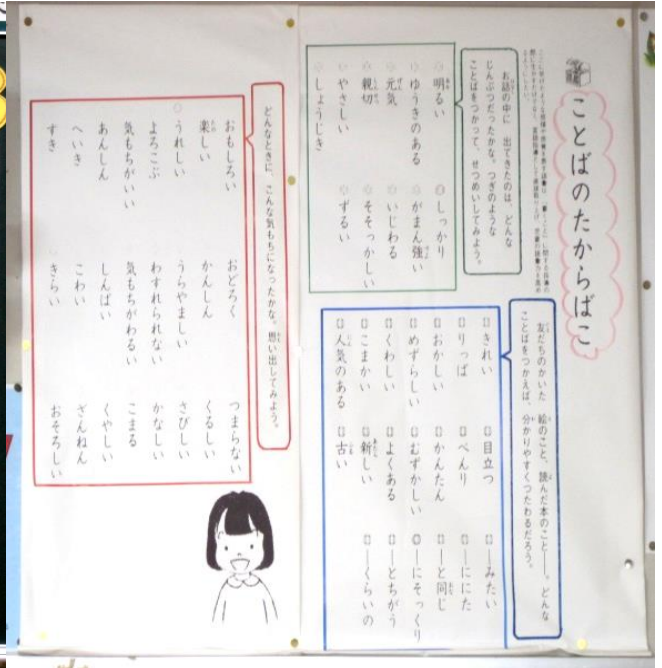


【図4】児童の書いた紹介カード

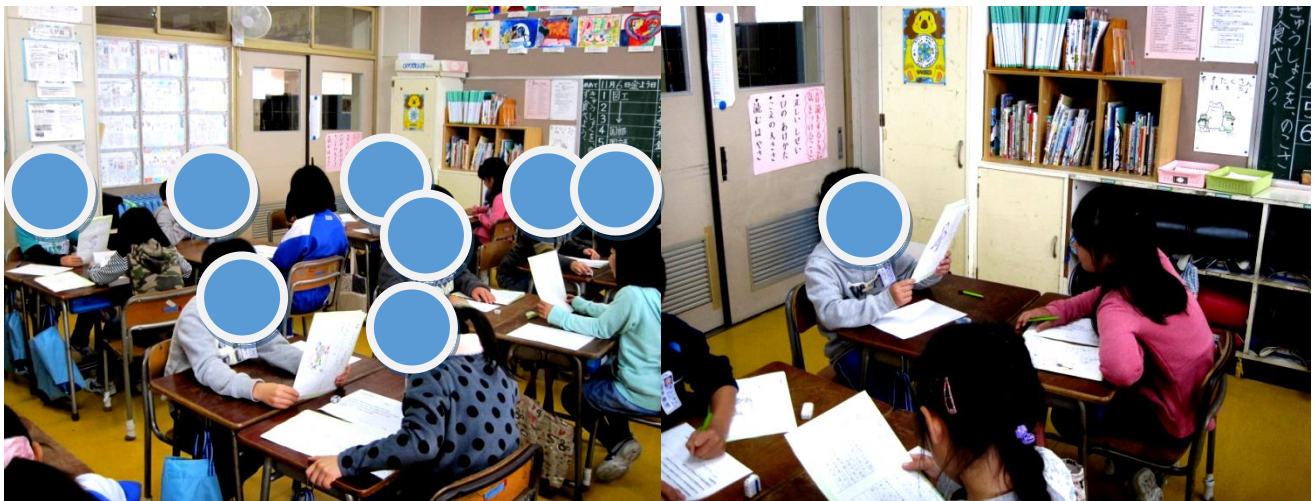




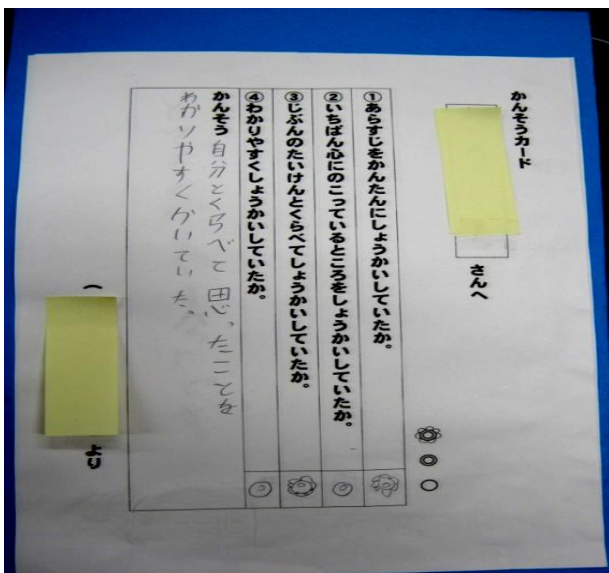
【図5】読書発表会の進め方とよい聞き方



【図6】教科書付録 ことばのたからばこ



【図7】共通教材での読書発表会の様子



【図8】児童の感想カード

共通教材の読書発表会は、児童の感想を種類ごとに分別し、2つの組合せで行った。1回目は、同じ感想を書いた児童同士、2回目は、違う感想を書いた児童同士で行った。発表後は、友達の発表に対して、自分が共感したことや、友達のよさを見つけて感想を共有し合う活動をするので、お互いの感じ方を交流することができた。

児童の感想の観点は、【図5】に示した「よい聞き方」である。さらに、観点に連動して、感想カードに示した通りに、児童が、友だちの発表を聞くことができるようにした。なお、感想の部分には、発表の仕方ではなく、内容の部分を書くように指導した。



【第11時】

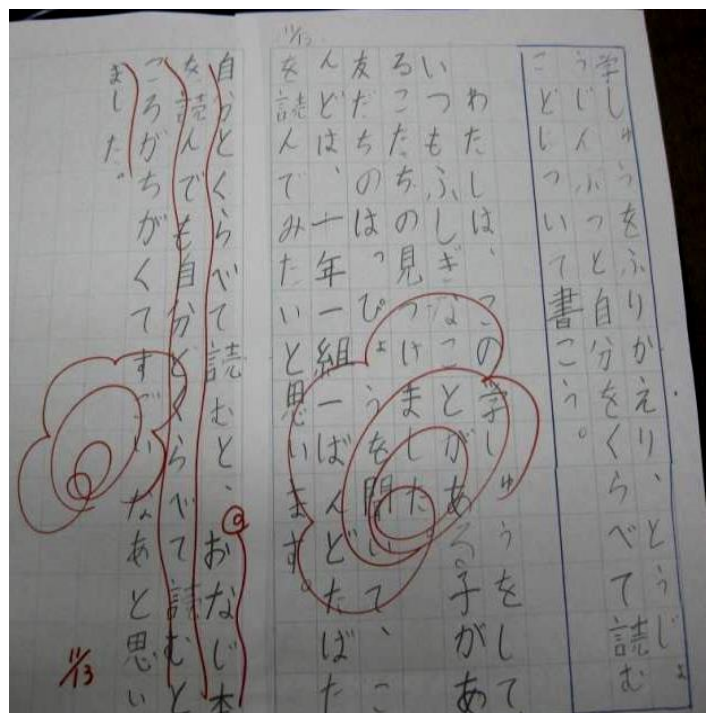
学習の振り返りと感想

自分と比べながら読むことの楽しさを実感させるために、感想を書いて学習を振り返ることができるようにした。また、交流を経て、読みたくなった本を発表し合い、じっくり読むことができるよう工夫した。



【図9】教室壁面掲示 学習課題と振り返りが確認できる工夫

教室壁面には、学習課題と振り返りが確認できるように工夫した掲示を行った。【図9】これは、児童のノートに貼っている振り返りカードと同じにした。また、教科書の「たいせつ」と、言語活動の中心となる「あらすじ」についてまとめたものも掲示した。このようにすることにより、児童が主体的に学習を進められるようにした。このような活動を通して、児童は、前時まで身に付けた力を再確認し、本時に何を学習するのかをしっかりと把握する等、主体的に取り組むことができた。さらに、本単元の学習を振り返った児童のノートを見ると、自分と比べて読む楽しさについて書いているものが多く、今後の読書生活に生かしていこうとする意欲も感じられた。



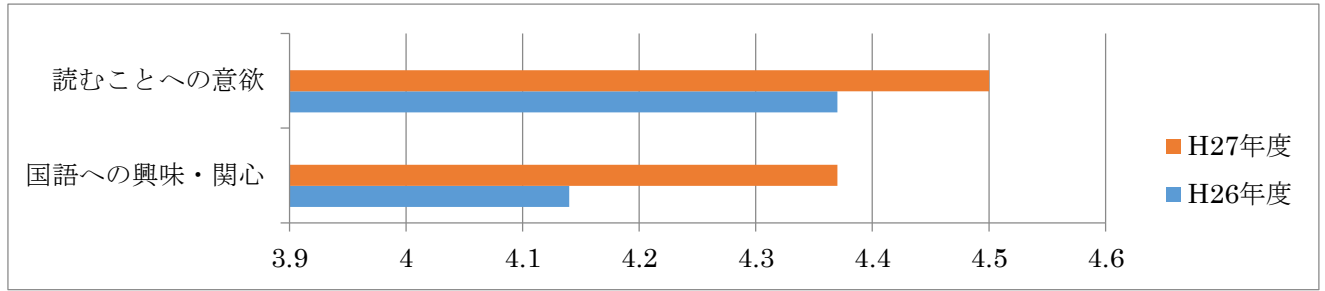
【図10】児童のノート





(5) 授業の検証

ア 児童の意識調査から



【図13】 読むことへの意欲, 国語への興味・関心 (CRTによる比較・・・5段階) N=32

イ 単元の学習後の振り返り結果

【表1】 児童アンケート N=32

	しつもんないよう	よくできた	できた	できなかった
1	1年生のころよりも、本をたくさん読んでいます。	90.6%	9.4%	0%
2	しゅじんこうのこうどうを中心に、そうぞうを広げながら読んでいます。	93.7%	6.3%	0%
3	文しょうの中のだいじな文やことばを書きぬくことができます。	90.6%	9.4%	0%
4	文しょうを読むとき、自分のけいけんをむすび付けて読み、自分の思いや考えをつたえることができます。	93.7%	6.3%	0%
5	お話を読み、かんたんにあらすじを書くことができます。	90.6%	9.4%	0%
6	「読書カード」に、おすすめの本のしょうかいを書き、じょうずにしょうかいすることができました。	93.7%	6.3%	0%

ウ 学習後に感じた読書発表会のよさ (児童の記述から)

- ・とても楽しかった。
- ・もっと、たくさん発表会をしてみたい。
- ・同じ本を読んでも、人によってあらすじや感想が違って不思議だと思った。
- ・本を読むときに、自分と比べて読むと楽しい気持ちになった。
- ・本のあらすじや感想を書くことが楽しくなった。
- ・家族や他のお友達に紹介したい。
- ・これからも、もっとたくさん本を読んでみたいと思った。
- ・読書カードで、友だちに発表してもらったら、その本に興味をもてた。
- ・本がますます好きになって、もっといっぱい読んでみたくなった。

エ これからの読書生活について (児童の記述から)

読書行為に関するもの	読書の効果, 意欲に関するもの
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公の行動と自分を比べながら読む</li> <li>・簡単なあらすじを書いて紹介する</li> <li>・子どもが主人公の本をもっと読む</li> <li>・同じ作者の本を読む</li> <li>・友達と感想を交流し合う</li> <li>・いろいろな人と読書発表会をする (家族・他の友達)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ本を読んでも、自分と友達の感想が似ていたり違ったりすることがおもしろいので、日常でも交流したい。</li> <li>・お気に入りの本を見つけたら、家族や友達に紹介していきたい。</li> <li>・国語の物語の学習の時は、いつも読書発表会をしていきたい。</li> <li>・友達が、自分が紹介した本を読んでおもしろいと言ってくれるとうれしい。</li> </ul>

## オ 授業実践を通じた児童の意識について

### (ア) 「分かる授業」について

「読書発表会」をするという目的をもち、1単位時間ごとに自分の能力が高まっていくことを実感できるように指導の手立てを工夫したことで、自分にも「分かる」→「できる」→「嬉しい」→「もっとやりたい」という心情をもたせることができ、分かる授業につながったと思われる。

また、児童が、相手意識・目的意識をもちながら学習し、単位時間ごとに振り返りを丁寧に行うことにより、分かったことを自覚することができたと考えられる。しかし、すべての児童が学習を充実させられたわけではなく、難しいと感じている児童もいた。その児童への効果的な個別の手立てを講じていくことが今後の課題である。

### (イ) 「できる授業」について

本教材「わたしはおねえさん」は、児童と同じ小学生が主人公の物語である。主人公の「すみれちゃん」は、2年生。まさに同年代の主人公である。しかも、幼い妹とのやり取りは、兄弟姉妹がいる児童はもちろん、進級してお兄さんやお姉さんになったこの時期の児童には、実感を伴って読み進められた。また、低学年の児童は、物語の登場人物に同化しやすいが、1年生のころのようにどっぷりと「なりきる」段階から、客観的に眺める目をもち始めるという発達時期でもある。本単元では、登場人物に自分を重ね合わせ、自分だったらどうするだろうかと想像しながら読み進める経験を積ませていこうと考えた。そうすることで、主人公の心の葛藤と成長を、自分の経験と比べながら読み、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う力を付けることができると考えた。

本単元の言語活動「あらすじ紹介」は、客観的に物語を分析する読みへの誘いでもあり、物語の展開を順序立てて読み取る言語能力が求められる。そこで、展開を進める大事な出来事や言葉に気付かせ、それらを短い言葉でまとめていこうと考えた。

はじめに、共通教材として「わたしはおねえさん」の読書紹介カードを書き、読みの視点と表現を意識した言語活動を行った。その際、教師によるモデル文を効果的に活用することで、自分にも「できる」経験を積ませることができ、選択教材での読書活動への意欲を高めることができた。次に、選択教材の読書カードを書き、読書発表会を行った。その際、共通教材で学習した内容を活用させることで、違う本でも紹介することが「できる」ことを経験させ、より一層喜びを感じさせることができた。この時期から、大事なことの要素は何か、短くまとめるためにはどのような順序で書けばよいのかを意識させ、さらに、一番心に残った場面や言葉を書き抜き、なぜ、そこが心に残ったのだろうかと自分の心に尋ね、それを言葉で表現する活動は、単に「読んだ本について、好きなところを紹介する」という低学年の言語活動から、中学年の「感想を述べ合う」活動へと緩やかにつなげることが大切であると考えた。

児童アンケート【表1】より、自分の経験と比べながら読み、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う力が付いたと感じている児童が90%以上いることが分かる。このことから、児童の実態に即した単元構想と、教師によるモデル文を効果的に活用し、児童自身が「できる」意識を高めることで、意欲的な学習活動につながるということが明らかになった。

### (ウ) 「役に立つ授業」について

単元の学習後の児童の感想（前頁のウとエ）を分析した結果、ほとんどの児童が、「今後の読書生活に役立つ」と感じていることが分かった。また、以前よりも本に興味をもつことができたという回答した児童は90.6%であった。また、自分の言葉で伝え合うことが苦手だった児童が、「読書発表会」では、自分の経験と結び付けて読み、自分の思いや考えを伝えることができたことをたいへん喜び、自信をもつことができた。この自信が、他教科で発表する際にも役立っているようである。このように、簡単なあらすじを書き、自分の感想を伝え合う「読書発表会」を通して、多くの児童が満足したと感じており、

今後の学習に役立てていくことができたと考えていることが分かった。さらに、家族から温かいコメントをいただき、自分の頑張りが認められる経験をしたことが、学習に対する自信と学習意欲の向上につながったものと思われる。

(エ) 「楽しい授業」について

言語活動の充実を図る授業をするために、総合教育センターが提案している学習過程の「A 多読や一冊の本を丸ごと読むことにつながる学習過程」を取り入れた。また、1時間1時間の授業が充実しなければ、単元の学習を充実することはできないと考えた。そこで、言語活動の充実を支えるものとして、既習の学習内容の振り返りと、自分に身に付いている能力の確認をしていくことで、学びの連続性に考慮した言語活動ができるように考えた。さらに、単元の系統性を明確に把握し、前学年→現在の学年→次学年での指導事項がどのように深化されていくのかを意識して授業することも重要であると考えた。

児童の意識調査【図13】を見ると、「国語への興味・関心」および「読むことへの意欲」が、平成26年度に比べて平成27年度に向上していることが分かる。これは、本校の研究主題が「主体的に学び、表現する児童の育成—『読むこと』における言語活動の充実を通して—」であり、総合教育センターと同じ方向の研究をし、児童の実態に即し付けたい力に適した言語活動を位置付けた授業を積み重ねたことによるものと考えられる。

また、読書の冊数や分類も、昨年度より増加しており、このような授業をすると「楽しんで読書しようとする態度」が育つことが明らかになった。

カ 授業を通してのまとめ

(ア) 「付けたい力に適した言語活動を位置付けた単元構想」

「分かる授業」をしていく上で、児童の実態に即し、付けたい力に適した単元構想を十分に吟味していくことが大切だと感じた。また、単元の系統性を明確に把握し、前学年→現在の学年→次学年での指導事項がどのように深化されていくのかを意識して授業することが必要であると分かった。

(イ) 「目的と方法を明確にした授業実践」

単元および単位時間の学習目的と、読みの視点を明らかにしていくことが必要であると感じた。また、自分の考えを形成するために、物語の展開を順序立てて読み取る能力を身に付けていくことが大切であることが分かった。さらに、自分の考えを交流し合う場を適切に設け、自分の思いや考えを伝えることで、自信につなげることができることが分かった。

(ウ) 「付けた力を自覚させる振り返りの工夫」

言語活動の充実を図る授業を展開する際、付けた力を自覚させる振り返りの工夫が大切である。今回の実践では、単位時間ごとに、振り返りの時間を設け、この時間の学習で自分はどんなことができたのかを確認し、学級全体で交流した。このようにすることで、「できたこと」への安心感を得るとともに、次時への学習意欲を高めていくことができた。しかし、毎時間の振り返りが、「できたこと」だけとは限らず、心情的な振り返りをする児童もいた。今後は、どのような振り返りが効果的なのかを研究することが課題である。

(エ) 「学習環境を整える」

「読むこと」の学習を指導していく場合、自由読書・一斉読書・並行読書などさまざまな読書形態がある。どの活動をする場合も、読書環境を整えることは肝要である。学校図書館の他に、公共図書館と協力してよりよい環境を整えることで、児童の本への興味関心は明らかに向上した。また、図書支援員や読書ボランティアを効果的に活用することも効果的であった。

## 2 研究協力員による実践授業の実際と検証②

- (1) 授業者 岩手大学教育学部附属中学校 西澤 孝司
- (2) 生徒 岩手大学教育学部附属中学校 第1学年 158名
- (3) 実施日 平成27年11月16日～平成27年12月1日(全8時間)
- (4) 授業の実際 以下45頁まで

### 中学校第1学年単元構想表(三省堂「トロッコ」)

#### 【生徒の実態】

- 重松清の「タオル」では、視点人物に着目して作品を読み、人称視点について学習をした。語り手が、視点人物に寄り添う場面、視点人物を客観的にとらえ描く場面を読み味わった。
- 別役稔「空中ブランコ乗りのキキ」では、場面の展開や登場人物の描写に着目して読むことを行った。
- 「竹取物語」では古典の世界の魅力に迫るため、様々な場面を多読した。その中で、作品から感じ取れる古人のものの見方や考え方に迫った。

#### 【身に付けさせたい力】

- 読書会を通して読みを深めるという目的をもちながら、以下の3点の力を身に付けさせることをねらう。
- 文章の構成や展開、表現の特徴などについて自分の考えをもつ力。(C-エ)
- 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くする力。(C-オ)
- 文章を読んで意味の分からない語句を調べて文脈上の意味を考える力。(伝イ(イ))

#### 【単元の言語活動】

読みを深めるために、読書会を開催し、読みの変容をルポにまとめる。

#### 【言語活動の特徴】

読書会…メンバーが事前に読んできて、面白いと思ったところや考えたこと、そして、疑問に思ったことなどについて話し合い、読みを深めていく。また、読んで考えたことについて他者と交流することも読書の楽しみの一つであることを実感をもって感じさせることができる。

本単元では、芥川龍之介の三作品を読み、読書会を行うこととする。また、「どくしょ甲子園ルポ」から読書会の話題を検討し、テーマを設けて行うこととする。本来は選書の幅、交流のテーマは自由な形で行うべきであるが、本単元での読書会は、読書会を通し、身に付けさせたい力を付けさせるために、テーマを設けて実施することとする。また、読書会の様子や、読書会を通して自分の考えがどのように変容したかをルポとしてまとめさせることで、自分の考えの変容をメタ認知することができると思う。

1. 単元名 読書の楽しみを広げよう～読書会に挑戦～

2. 単元の目標 読書会を通し、人物設定、構成や展開、表現の仕方などについて考えを深め、読書会の様子や、考えの変容についてルポにまとめることができる。

3. 単元の評価規準

#### 【国語への関心・意欲・態度】

☆読書会によって読みを深め、読みの変容を読書会ルポにまとめようとしている。

#### 【読む能力】

☆文章の構成や展開、表現の特徴などについて自分の考えをまとめている。(C-エ)

☆文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げている。(C-オ)

#### 【言語についての知識・理解・技能】

☆文章を読んで意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。(伝国イ(イ))

4. 教材 『トロッコ』(三省堂「中学生の国語1年」)

『蜘蛛の糸』、『杜子春』(新潮文庫)

「どくしょ甲子園」 受賞作ルポ(<http://www.asahi.com/shimbun/dokusyo/koshien/>)



5. 単元の展開 (全 8 時間)

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント (○) 学習活動に即した評価規準 (関・読・言) 等
第0次		○並行読書を予定している作品を読んでみるよう勧める。	
第1次	第1時	1. 単元の見通しをもつ。 ①「どくしょ甲子園ルポ」を読み、読書会を行う目的を知る。 ②読書会について知る。 ③読書会のテーマや話題を分析する。 2. 学習課題を設定する。 3. 学習計画を確認する。	○どくしょ甲子園ルポの配付 (モデル提示)。 <b>関</b> 読書会の目的をとらえようとしている。
	第2時	1. 読書会のテーマを提示する。 (読書会のテーマ) ① 作品の主題 ② 構成や展開 ③ 表現の工夫 ④ 登場人物の設定 2. テーマを選択し、その視点で『トロッコ』を読み、自分の考えをもつ。	○身に付けさせたい力を明確にした言語活動になるようにテーマを設定する。 <b>読</b> 文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをまとめている。 <b>言</b> 意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。
	第3時	1. 読書会の方法を確認する。 2. 選択したテーマでグループを作り、読書会を行う。 3. 読書会の振り返りを個人、グループで行う。	○意図的なグルーピング。 ○音声言語の記録保存：ボイスレコーダー <b>読</b> 自分の考えを支える根拠となる段落や部分を挙げながら、自分の考えを述べている。
	第4時	1. 前時の各グループの振り返りを全体で交流する。 2. 読書会を効果的に進めるためのポイントを考える。	<b>読</b> 読書会を振り返り、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げている。
第3次	第5時	1. 自分が選択したテーマで3作品を比べ読みする。 (読書会のテーマ) ① 作品の主題 ② 構成や展開 ③ 表現の工夫 ④ 登場人物の設定	○身に付けさせたい力を明確にした言語活動になるようにテーマを設定する。 <b>読</b> 文章の構成や展開、表現の特徴などを分析的にとらえ、自分の考えをまとめている。 <b>言</b> 意味の分からない語句を辞書で調べ、文脈上の意味を考えている。
	第6時	1. 読書会を行う。 2. 読書会を個人で振り返る。	○意図的なグルーピング。 ○音声言語の記録保存：ボイスレコーダー <b>読</b> 自分の考えを支える根拠となる段落や部分を挙げながら、自分の考えを述べている。
	第7・8時	1. ルポを作成する。 ①ボイスレコーダーを聞きながら構成メモを作成する。 ②清書する。 2. ルポを読み合う。 3. 単元を振り返る。	<b>読</b> 読書会を振り返り、文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げている。
第4次		☆作品を象徴する場面のイラストを募集する。 ☆ルポとイラストを図書室に掲示する。 ☆他の芥川龍之介の作品を学級文庫に設置する。	

並行読書  
(蜘蛛の糸・杜子春)

【第1時 読書会ルポのモデル】

読書会ルポNO.1

「どくしょ甲子園」受賞作ルポ(<http://www.asahi.com/shimbun/dokusyo/koshien/>)

第1回どくしょ甲子園 最優秀賞  
千葉県立市川高等学校  
宮沢賢治「よだかの星」



今回の読書会では論点が多く、白熱しました。まず、何故か参加していたアンチ宮沢賢治（でも作品は好き）の意田君の「よだかは傲慢だよ」という発言が波紋をよびました。意田君は「よだかは醜いだけで虐げられているのはわかる。でも、どうして自分だけが、なんて思っているあたりがどうにも……」とのこと。それには村上君以外は同意見で、確かに書頭で「自分だけがひどい目にあっている」と思っている節があるように感じました。村上君は「優しいのに、可哀想じゃないか」との意見。速くに行こうと決意した後、しかしよだかは、かわせみに会いに行ってしまう。よだかは「かわせみが悲しむかもしれない」とは考えなかったのだろうか、という意見と、よだかはただ、優しい弟にさよならを言いたかっただけで、という意見ができました。よだかは、何故星になれたのだろうか。

村上君は、誰の助けも得ずに一人の努力だけで頑張った結果、星になれたのではないかと。しかし意田君からは、わずかにのろしのように飛び上がる、というところから先が不自然に前向きになっている、との指摘。そこまではただひたすらに自己嫌悪や自己憐憐にひたっていて、本当はあそこで死んでいるはずだった……のに、飛び上がる。そこからよだかの機期までの間に、実はよだかの心情描写が1度もないことから、飛び上がらせたのは宮沢賢治自身なのではないか、という意見もできました。そして結論。意田君の力説により、だんだん、残り3人も、よだかが確かに自分勝手に動いているような気がしてきました。読書会の面々が曇々とした気分になるなか、村上君のひとこと、「それでも、愛しいじゃないか」。

よだかは弱くて傲慢で、「自分だけが虐げられている」と思っています。しかし甲虫により自分の罪に気づく。自分が醜いこと、自分が日々羽虫を殺しているという事実から逃げたくて、速くへ行こうと決意します。そして「自分は罪に気がついた」ということを少しでも他人に気づいて欲しくて、かわせみに会いに行ってしまう。さらに結局かわせみが「ちょっとお待ちよ」と言っているのに聞わずに逃げてしまいます。その後、星に「鳥の分際で」と言われますが、きっと、これを「よだかの分際で」と捉えてしまったのでしょう。よだかはなおも誇りせず、数々の星に足蹴にされます。誰かに認めて欲しい。違う自分になりたい。

そういう思いは誰にでもあります。そのままの自分を認めてくれる存在に気がつけなかったよだかは弱い。でもその弱さは私たちみんなに共通しているもので、だからこそ、愛しく感じる。

もともと友達だった、という理由で集まった4人ですが、話を終えた後、その関係は少し深まったような気がしました。

第3回どくしょ甲子園 最優秀賞  
滋賀県立膳所高等学校  
アゴタ・クリストフ「悪童日記」



最初の読書会では課題図書として選んだアゴタ・クリストフの『悪童日記』を何度も読み直して内容を把握するとともに、いくつかの場面を主人公である双子の「喜」「怒」「望（希望ないし絶望）」という描かれる登場人物の「感情」に従い分類しました。なぜなら、この作品には、双子の兄弟の感情が全く描かれていなかったからです。そのため私たちは彼らの感情を自分たちの想像力で補わなければならず、兄弟たちを取り巻く多彩な登場人物の心理や、兄弟の行動そのものを分析することで、間接的に兄弟の「心の中」を読み取る以外方法がありません。その結果、読書会は大変難航しました。時折、意見が分かれることはかりで、その度にそれぞれがしっかりと「自分の読み」を主張し、論じあいました。

さて私たちの間で一番問題になったのは「怒」の場面についてです。女中が強制連行されていく人々にパンを与えるふりをする場面を詳しく話し合いました。ある1人は「双子は怒っている」と言い、残り4人がそれに賛同しません。しかしそれぞれの見解をぶつけあった結果、その場面は「怒」に含まれるという結論になりました。また作中の登場人物である荷校のゆがんだ性癖についても議論しました。荷校の行動について否定する意見を誰も持たず、1人だけが、その性癖を培ったのは、荷校自身の嗜好ではなく、戦争という悲惨な状況が彼をそういう異常さへ追い込んだのだ……という見解を述べたのです。こんなふうに複数の視点で一つの作品を読み進めるといことが、今回の読書会の最大の魅力と言ってよいでしょう。このように議論することで、突然としか捉えていなかった本文の理解が深まったり、疑問が解消されたり、解釈が一変したりしました。

【第1時 読書会ルポを読み、読書会の話題と良さをグループで分析】

読書会の話題

読書会の良さ

人物像について  
よだかは  
徹頭徹尾  
2人の人物像について。  
僕が人物像に入  
人物像について。  
コウ

作者  
ふたつな作者の表現  
明確になる。

共通点  
自分たちと共通しているところばかり

心情について  
主人公の心情について  
主人公の感情について  
主人公や登場人物の考え  
主人公の心情、性格などについて  
コウ

本のテーマについて  
本のテーマについて  
物語のテーマについて。  
コウ

視点  
複数の視点で1つの作品と読み進むことができる。  
複数の視点から一つの作品を読み深められること。

価値観・考え方  
自分とは違う価値観や考え方を学ぶことができる。  
仲間の意外な面  
自分とは違う価値観や考え方

絆・関係について  
参加した人の関係が深まる。  
読書会にすることで互いの関係もよくなること  
仲間の意外な面を見ることが出来る  
読書会での絆の深まり

理解の深まり・疑問について  
本文の理解が深まる。  
理解の深まり  
疑問が解消される。  
疑問の解消

解釈  
解釈の一変  
解釈が一変する。  
コウ

その他  
自分の意見をしっかりと述べて、そしてその意見を発表すること  
他の人の考えが身に付く  
コウ



【第1時 読書会の話題・良さについて全体交流】

☆本時の振り返り → 単元学習シート  
 ※今日の学習を振り返り、読書会をするこの良さについてまとめよう。

読書会の話題	読書会の良さ
印象に残ったフレーズ 心に残る言葉 人柄 心情 キモチ 身近なところについて 表現 相手の 意見の 交流	仲間との関係 わかりあえる 相手に伝えられる 工夫して話せる さくことかできる 想像がつく より深く 本への興味 本への楽しさ 本に対しての接し方

☆自分の読書生活を振り返ろう → 単元学習シート  
 ☆ぜひよ甲子園ルポを読み、読書会について考えよう。

- ・読書会の話題 ↓ 水色の付箋
- ・読書会の良さ ↓ ピンクの付箋
- ・グループで交流する。
- ・全体交流

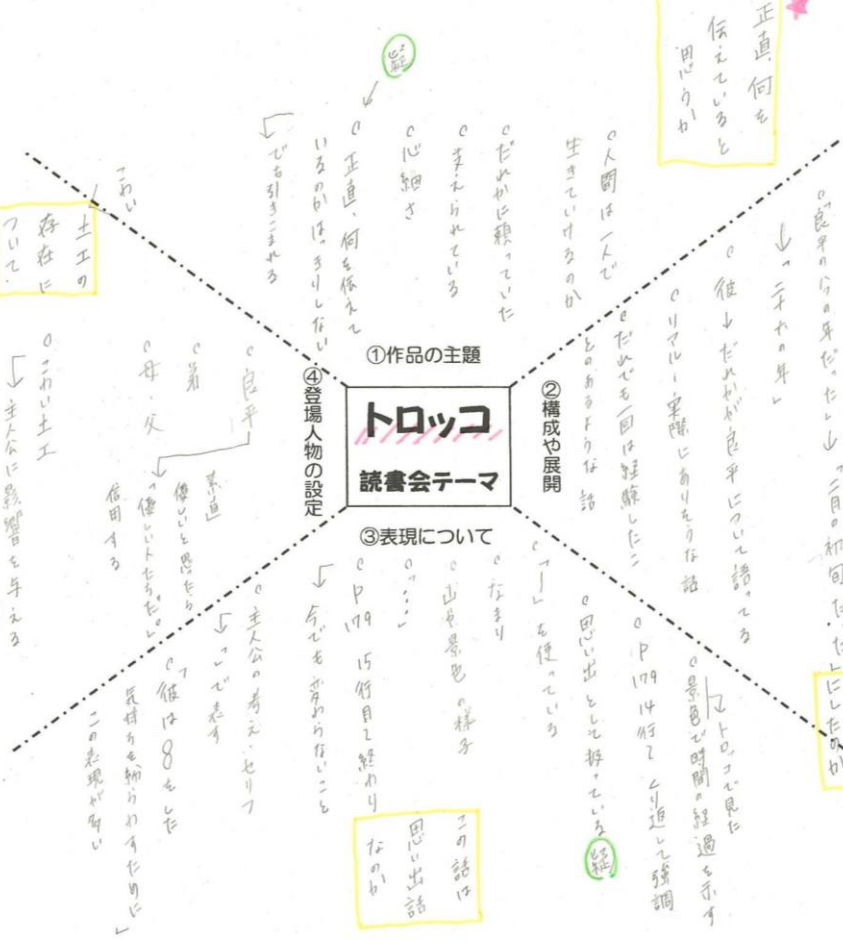
【読書会】  
 同じ本を読み、面白いと思  
 ったことや疑問に思ったこと  
 などについて話し合い、自分  
 の考えを深めていく。  
 【読書会ルポ】  
 読書会がどのようなに行わ  
 れ、どのようなことを考えた  
 のかをまとめたもの。

課題  
 とくしよ甲子園ルポを読み、読書会について考えよう。

一年国語 「読書の楽しみを広げよう」読書会に挑戦①  
 氏名

【第2時 読書会のテーマに沿って作品を読み、読書会の話題を考える】

☆本時の振り返り → 単元学習シート  
 ※自分が友達と交流してみたいテーマとその理由についてまとめよう。



課題  
 読書会でのテーマについて、根拠をもつて自分の考えをまとめよう。

テーマに対して...  
 ・気づいたこと、考えたこと。  
 ・疑問に思ったこと。  
 ・他の人の考えを聴いてみたいこと。

一年国語 「読書の楽しみを広げよう」読書会に挑戦②  
 氏名

課題

読書会をし、テーマに対する自分の考えを深めよう。

- 〈本時の学習の見通し〉
- ① 読書会の進め方の確認
  - ② テーマ別グループで読書会をする
  - ③ 自分たちの読書会を振り返る
  - ④ 本時の学習の振り返り

☆読書会の進め方と役割分担

○リーディングファシリテーター司会者・コーディネーター・エリフリー

本をきっかけに、仲間とつながり、対話を通じて知恵を生み出す場をつくる読書会の進行役

※リーディングファシリテーターの役割

- ・話しやすい雰囲気を作り、円滑に進める
- ・全員が均等に参加できるように機会を割り振る
- ・話題を整理し、話し合いの方向性を決める

○タイムキーパー

○話し合う中身

- ① 気づいたこと・考えたこと
- ② 疑問に思ったこと
- ③ 他のテーマと関連させられること

○読書会のルール

- ・時間は15分
- ・他者の話に反応をする
- ・意見や疑問に対し、徹底的に深く話し合う
- ・メモは最小限にし、話し合いのことに集中する

☆読書会を振り返る

<p>考えが深化したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三人称視点がある。</li> <li>・知シカ多い</li> <li>↓ 文章をばかして、わからないうちに読者に惹きこせる。</li> <li>・情素と良平の気持ちも重ねてかく。</li> </ul>	<p>誰のどんな発言によって</p> <p><b>生徒氏名</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>↓ 三人称視点に気づいている(文末表現)</li> <li>「うしろい」こっぴたしと</li> <li>文化していること</li> <li>←</li> <li>「タオル」で学んだことを生かしている</li> </ul>	<p>価値のある話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上手かった。</li> <li>自分から様々な意見も組み合わせて、話題に対する答えをつくることか、キレた上手いかなった。</li> <li>録音しているのに声がかかった。余計な話をしている人も止められなかった。</li> </ul>
---	---	---

話し合いが上手くいったのはなぜ？上手くいかなかったのはなぜ？(進め方・話題・話し方・聴き方)

【第3時 読書会の方法を確認し読書会を実施】

☆本時の振り返り ↓ 単元学習シート  
※読書会を行ってからの感想(良さ)

読書会ファシリテーター 進行の手引き

【基本】

- ・話しやすい雰囲気を作り、円滑に進める。
- ・全員が均等に参加できるように機会を割り振る。(最初は順番に回しても良い)
- ・時間いっぱい話し合いをする。

- ・基本的にはフリートークだが、話題を整理したり、話し合いの方向性を定める。
- ・多くの話題を扱うよりも1つの話題を膨らませ、考えが深化するように進める。
- ・それぞれの考えや意見を述べ合うときには、根拠、理由付けを大事にする。

【進行の例】

STEP 1 グループのメンバーから話題を提供してもらう。

STEP 2 出された話題を整理し、どの話題を中心に進めるか決める。

STEP 3 一問一答にならないように、やり取りできるように促す。

- ・出された質問や意見を言い返す。

「今のは、○○○というんだよな。」

「つまり、△△△ということを知りたいんだよな。」

- ・出された質問や意見に新たな考えを加え、提案する。

「それに、□□□というところも考えられるよな。」

「◇◇◇もどうなっているのかなあ。」

- ・他の話題や、テーマと関連させ考えられることではないか。

① 作品の主題

② 構成や展開

③ 表現について

④ 登場人物の設定

◆◆◆さんの話題にも関連するよね。」

「この話題は、主題の▼▼▼につながるのでは。」

STEP 4 読書会を閉じる

- ・話し合いを振り返る
- ・読書会の感想を発表し合う

【ファシリテーターの進行の手引き】



【第4時 読書会を振り返り全体で交流】

☆本時の振り返り ↓ 単元学習シート  
 ※価値のある読書会にするために大切なことは。

④登場人物の設定	③表現の工夫	②構成や展開	①作品の主題
良平の性格 土エとの出会い ハ歳 トロッコへの田舎	情景描写 心情 ↓ 会話・行動 技法	良平のトロッコへの心情変化 好奇心 走って帰る場面 クライマックス・山場	今を大事に生きる 主題 ↓ 作者の思ハ・メッセージ 二十六歳になっても苦勞がある トロッコのことのあたりに 考えたこと 深まったこと
			話し合いの様子について ○ ファシリテーターが「さこうレリ」ことまめめろ △ 聞き方が悪かた △ 意見がクワない △ ながる・深める △ 一人一人が興味・関心 △ たくさんの意見 ↓ 根拠 △ フリートーク △ 新たな感じ △ 声の大きさ △ 新しい発想

☆読書会の振り返り交流(他のグループの発表から…)

〈本時の学習の見通し〉

- ① 読書会の様子を交流する
- ② 読書会を良いものにするためのポイントを考える
- ③ 次回の読書会のもち方を確認する
- ④ 本時の学習の振り返り

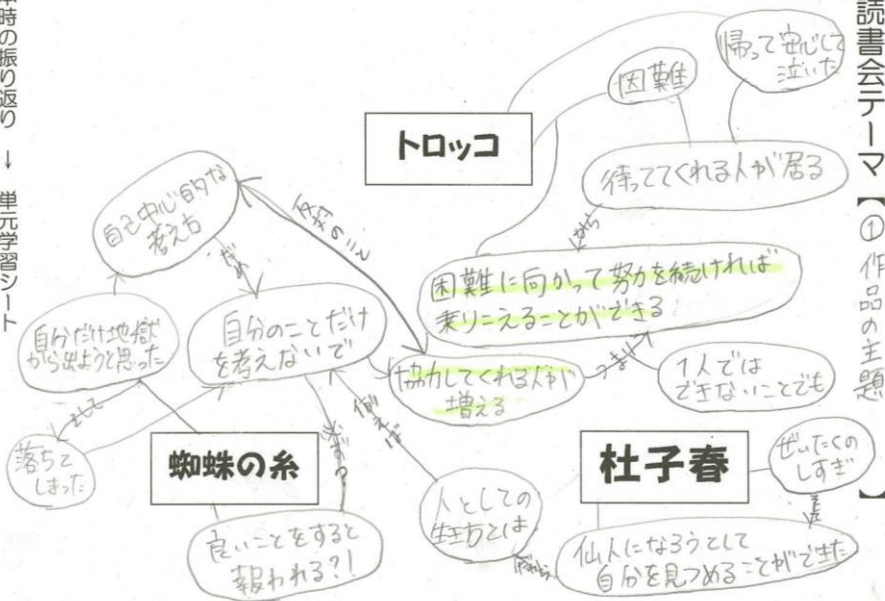
話し合いが上手くいったのはなぜ? 上手くいかなかったのはなぜ? (進め方・話題・話し方・聴き方)

課題  
読書会を振り返り、価値のある読書会のありかたを考えよう。

一年国語 「読書の楽しみを広げよう」読書会に挑戦〜」4  
氏名「

【第5時 芥川三作品について、読書会テーマに沿って重ね読み、話題を考える】

☆本時の振り返り ↓ 単元学習シート  
 ※三作品を読み比べ印象に残ったことは。



☆三作品を読書会テーマを視点で比べ読みをし、ウェビングする。

〈本時の学習の見通し〉

- ① 三作品を読書会テーマを視点で比べ読みをする
- ② 読書会での話題を考える
- ③ 本時の振り返り

課題  
三作品をテーマをもとに読み比べ、読書会の話題を考えよう。

一年国語 「読書の楽しみを広げよう」読書会に挑戦〜」5  
氏名「十屋 根乃枝

ウェビングから考えた読書会で話題にしたいことは!?

- ① 人として自己中心自らの生きるとどうなるのか。
- ② 困難を乗り越えるには待っていてくれる人などが、必要であるのか。
- ③ 人としての生き方はどんなものなのか。

【第6時 芥川三作品について、読書会テーマに沿って重ね読み、話題を考える】

一年国語 「読書の楽しみを広げよう」読書会に挑戦〜6  
氏名

課題 読書会をし、テーマに対する自分の考えを深めよう。

- 〈本時の学習の見通し〉
- ① 読書会の進め方の確認
  - ② テーマ別グループで読書会をする
  - ③ 自分たちの読書会を振り返る
  - ④ 本時の学習の振り返り

- ☆読書会の進め方
- リーディングフアシリテーター
  - タイムキーパー
  - 話し合う中身
  - ※それぞれの作品で
  - ※作品を重ね合わせて・・・(共通するところは、違っているは)
  - ① 気づいたこと・考えたこと
  - ② 疑問に思ったこと
  - ③ 他のテーマと関連させられること
- 読書会のルール
- ・時間は30分
  - ・他者の話に反応をする
  - ・意見や疑問に対し、徹底的に深く話し合う
  - ・メモは最小限にし、話し合うことに集中する
- 前回の読書会を活かす
- ・前回の読書会で話題になったこと
  - ・前回の読書会よりも良いものに
- ☆読書会を振り返る

<p>考えが深化したこと</p> <p>・トロコフと蜘蛛の糸と杜子香の3つの話では、人とかかわり、大抵なことがわかりました。終りの場面を、いいことと終わる話と悪いことと終わらざる話がある。それぞれに理由があることがわかった。</p>	<p>誰のどんな発言によって</p> <p><b>生徒氏名</b></p> <p>・トロコフと蜘蛛の糸と杜子香の3つを短かくまとめると、人とかかわりが大事だと言っていたこと、わかりやすくなったと思います。</p> <p><b>生徒氏名</b></p> <p>・この、一人の意見を聞いて、たくし人の質問をして、たたくしについて、ほどこで、すかして、など。</p>	<p>話し合いの様子</p> <p>・リーディングフアシリテーターの人、それぞれに意見をぶつけて、おんなじ人ななく、人話せたのでよかったです。</p>
--	--	---

☆本時の振り返り ↓ 単元学習シート

※読書会を振り返っての感想

【第7時 ボースレコーダーを聞きながら読書会を振り返る】

一年国語 「読書の楽しみを広げよう」読書会に挑戦〜7  
氏名

課題 読書会を振り返り、読書会のルポの構成や内容を考えよう。

- 〈本時の学習の見通し〉
- ① ルポの書き方を確認する。
  - ② ボイスレコーダーを聞き、読書会を振り返る
  - ③ 本時の学習の振り返り

- ☆読書会ルポの書き方
- ※ボイスレコーダーを聞きながら読書会を振り返る
- ※どくしよ甲子園受賞作品ルポを参考にする
- ・読書会を通して、自分の考えがどのように変容・深化したかが分かるようにする
  - ・誰のどんな発言が、自分に影響を与えたのか
  - ・読書会全体の様子が伝わるものにする
  - ・字数は800字程度でまとめる
- \* 読書会ルポは後日図書室等に掲示し、全校に読書会の様子を発信する
- \* 作品を象徴する場面や気に入った場面のイラストを募集する

テーマ

作品の主題

・トロコフ  
今も木切に  
昔の思い出  
何者になっても  
人なれたたかき

家族の恐怖  
味わて  
他の人と開け  
大切だけれど  
どろろ

へこの糸  
自己中  
自分だけ  
自分勝手  
家族のあなたを

結果(まとめ)

・キミとなる人物により  
主人公の心情  
の思ひが結末  
に関わっている

読者の印象を深める  
ために結末の方向を  
変えている。

生徒氏名

キミとなる人物  
伝えたこと  
伝わりやす

生徒氏名

人との関わり  
主人公の成長  
主人公の成長

様子

・テーマをもとに、発言したこと、話の広がりが、あったこと、みんなが意見を言っていたこと、すくすく人物関係、人との関わり、主人公の成長、結末について



今回の読書会では三つの物語の「主題」についてせまた。最初の話題は、三人が改心したかどうことについてだ。三人が失敗をおかしたあとこのとつまり未来についてだ。トロッコに出てくる良平は十九年たったあと、妻子ともつが、そのときまでトロッコを忘れられずにいた。ここでメンバーの一人が「良平はここからだのではないか」という考えにいた。他の二作品を見てみると「杜子春」では同じ人間の二心と云えがき、「蜘蛛の糸」では人間の、おろかさについてえがいているという二心ばかり、メンバーの意見が一致した。しかし、ここからが大変だ。すべて欲にからんで、どうことから「自分だけ富を得ようとするのは偽りの富」という意見、仙人が杜子春を殺そうとしたのは、自分を超えられてしまうと思、たかかか？という意見などが飛び交った。が、なかなか主題とつながらなかった。そのとき、三人はそれぞれ道を歩んでいて、その道にはふんきてんがあった」という話がメンバー四人の話題に上がった。この三人の道について主題につながるのではないかと、意見も一致した。だんだん、道は自分で選んだと、うただけでなく、他者によ、てたらされてい、たのではないかと、意見や、人間の歩む道と人生の転機という意見などが出て、道についての主題がまとまってきた。そして、最後に決めた。三つの作品に共通する主題は、「人間としての歩む道」に決めた。理由としては、三人の主人公がそれぞれあやまちをおかして改心したり、間違、た方へ傾、いたままに、たりしている様子、が、様、々なふんきてんを経験しながら「道」を歩んで、いるように思、え、られた。このような三人の道、をえ、く、ことで人間の歩む道とは一体何なりのか、ということや、どの道が正しいのか、という二心について考、えてほしいと作者が思、たのではないかと、いうことも分、か、た。メンバー全員が納得、できるような主題だ、た。

今回の読書会では全員が意見をもち積極的に発表できるそんな活発な会になったと思、う。

今回の読書会では、4人で「トロッコ」の主題と三作品に共通する点等を話し合いました。最初は「トロッコ」の主題についての考、えが少なく、主題と少しはなれた話題から作品全体への考、えを深めることにしました。

この「トロッコ」という作品から感じた印象は、三作品の中で一番現代風（現代に近い作品）であるという点と、大人を子供の気持ちと反対にするように批判しているという点と、作者の芥川龍、入助が持っている人生観を作品に写している、という三点です。

この作品全体から感じた事、から、一つ目と三つ目の二点をキーにして主題について追、っていき、ました。

まず一つ目の「大人を批判している」とは、笑子さん、あおばさんの「芥川の大人に対する見方が作品で共通している」という発言、から、私の中で、今まで見えていなかった、作者の気持ちや考、えが読みと、る、こ、と、が、で、き、ま、し、た。二つ目の「作者の人生観」という点では、三作品でも等しく言、える、こ、と、です。それは、優月さんの「人生はジェットコースターみたいだ、という事を伝、えているのではないかと」という発言、から、気持ちよ、ま、し、た。杜子春では、「お金持ちにな、った、お、金、が、な、く、な、り、た、り、あ、い、さ、つ、も、し、な、く、な、り、た、」など、です。

これらの話し合、い、から、私が考、えた「トロッコ」の主題は、「大人には良い面ではなく悪い面もある。そして人生とは普通に過、ぎ、て、い、く」ということでは、ないかと考、え、ま、し、た。

今回4人で行、った読書会では、自分の意見や他者の意見をと、り、い、ゆる、こ、と、の、ひ、き、ま、た、と、も、充、実、し、て、い、た、読書会、で、し、た。二、人、か、ら、の、学、習、に、二、人、か、ら、の、読書会、で、学、ん、だ、こ、と、を、生、か、し、ま、い、ま、い、と、思、い、ま、す。









(5) 授業の検証

ア 読書に対する授業前の考え

読書行為に関するもの	読書の効果、意欲等に関するもの
<ul style="list-style-type: none"> <li>・暇なときに読む</li> <li>・人気のある本を読む</li> <li>・好きなジャンルを読む</li> <li>・読む力をつけるもの</li> <li>・登場人物と自分を重ね合わせて読むもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の知識を広げるもの</li> <li>・ほとんどいないもの</li> <li>・生き方を学ぶもの</li> <li>・気持ちをやわらげてくれたり、高めてくれるもの</li> <li>・楽しいもの</li> <li>・今の自分を見つめなおすもの</li> </ul>

イ 単元学習後の生徒の振り返り

【表1】生徒アンケートの集計結果

N=158 (単位%)

⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	質問内容
びがいのあるものであった。	単元の学習は、自分にとって意味のある学習に役立てることができる。	単元で学んだことは、自分の将来に役立てることができる。	単元で学んだことは、これからの国語の学習に役立てることができる。	読んだ本について友達と交流する機会を今後も設けたい。	これから読書をする機会を増やしていきたい。	読書会を通し、自分の考えを深めることができた。	読書会に積極的に取り組むことができた。	文章の構成や展開、表現について考えながら読むことができた。	単元や今日の課題を意識して学習することができた。	これから何をするのか、見通しをもって学習することができた。
95	55	90	70	79	95	78	88	82	82	あてはまる
5	30	10	26	19	5	19	10	16	18	だいたいあてはまる
0	15	0	4	2	0	3	2	2	0	あまりあてはまらない
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	あてはまらない

ウ 学習後に感じた読書会の良さ（生徒の記述内容から）

- ・読みの視点を広げることができた。
- ・他者と交流することで自分の考えを深めることができた。
- ・自分が気づかなかった新しい発見を得られた。
- ・作品の細部に目が行くようになった。
- ・話をしながら読み返すので、理解が深まったり、新たな面白さを発見したりできた。
- ・他者と交流することで、自分の読みを見つめなおすことができた。
- ・授業での話し合いに比べて、軽い雰囲気です。
- ・友達との関係も深まった。

エ これからの読書生活について（生徒の記述内容から）

読書行為に関するもの	読書の効果、意欲等に関するもの
<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者が伝えたいことを考える</li> <li>・登場人物の関係性を意識して読む</li> <li>・疑問に思ったことなどを友達と話す</li> <li>・文学作品を読んでいきたい</li> <li>・同じ作者の本を読む</li> <li>・読んで考えたことに対する意見をもつ</li> <li>・国語の学習で学んだこと（主題・情景・心情）などを意識しながら読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んだことについて、友達と話すことで仲が良くなる</li> <li>・最近読書をしていませんでしたが、読書が面白いと感じたので、もっと本を読みたい</li> <li>・本の世界に入り込んで読みたい</li> </ul>

## オ 授業実践を通じた生徒の意識について

### (ア) 「分かる授業」について

- ・本単元の学習に限らず「分かる授業」を展開していくために大事なことのひとつとして、生徒が、単元や本時の学習に対して見通しをもち学習に取り組めるようにすることがあげられる。【表1】の①②の結果を見ると、生徒は本単元でどのような学習をし、何ができるようになれば良いのか見通しをもって学習に臨むことができたといえる。
- ・本単元では、単元の言語活動として、読書会を通し「文章の構成や展開、表現について」他者と交流し理解を深化させていくことをねらった。【表1】の③⑤の結果を見れば、ねらいに迫ることができたといえる。また、読書会ルポや単位時間の振り返りの記入を見てもそのことが伺えた。
- ・【表1】の⑥⑦の結果からは、本単元の学習が生徒の読書生活を広げるための一助となったことが伺える。読書会を行うために視点を設け、目的をもって読書することができた結果であろう。また、テーマ別に意図的なグループを構成し読書会を行ったことで、より主体的に本と向き合うことができた。

### (イ) 「できる授業」について

- ・本単元では「どくしょ甲子園」受賞作品のルポをモデルとして、読書会の良さや話題を考えたことにより、生徒は具体的に読書会やルポのイメージをもつことができた。また、第2次での読書会では、内容面の振り返りだけではなく、読書会の進め方や、交流の仕方なども振り返り、全体で交流したことで、第3次での読書会を充実させることができた。
- ・【表1】の⑩の結果からは本単元での学習に達成感があつたことが伺える。自分で読み、そして考えたことを他者と交流する中で理解を深めたり、他者の読みから新たな視点を獲得したりと、意欲的に学習に取り組めたからこそ、生徒にとって学びがいのあるものになったのであろう。

### (ウ) 「役に立つ授業」について

- ・【表1】の⑧の結果を見ると9割の生徒が、本時の学びを次時以降の国語学習に役立てることができると考えている。しかし、【表1】⑨の結果では、学んだことを日常生活の場面で役立てることができると割合が大幅に少なくなっている。理由としては様々あるだろうが、学習と日常生活とのつながりが見えにくい授業であったからであろう。これから社会に出ていく生徒が、様々な場面で必要に応じて文章を選択し読む力、読み取り考えたことを発信する力、他者と協働的に課題解決する力など、授業以外の場面でも役立つ実感をもてるようにすることが課題である。

## カ 授業を通してのまとめ

- (ア) 本単元では朝日新聞社主催の「どくしょ甲子園」のルポをモデル学習材としたことにより、生徒は読書会やルポに対して魅力を感じながら学習を進めることができた。また、年代が近い高校生が作成したルポを読むことで、読書会の様子が伝わり読書会がより身近に感じられるものになった。さらに、単元のゴールを見通すこともでき、生徒がこの単元でどのような学習をしていくのかを理解しながら進めることができた。
- (イ) ほとんどの生徒が芥川龍之介の作品と初めて出会った単元である。近代文学作品を読む機会が少ない生徒にとっては、今回の出会いは貴重な出会いであったと言える。生徒の読書傾向をみると、ライトノベル、ノベライズ本などが多く、近代文学を好んで読む生徒は多くない。本単元の学習を通し、読書や読んだことをもとに交流することが楽しいと感じた生徒が多く、選書の幅を広げることができたと考える。
- (ウ) 本単元では、読書会を通し「文章の構成や展開、表現の特徴を理解すること」、「自分のものの見方や考え方を広げること」を育むことを大きな狙いとした。読書会では、生徒が主体的に活動する場面が多く、学習内容を理解して読書会をさせるために、テーマを設けた。読書会の会話やルポの記述を見ると、本単元で狙った視点に着目してあるものが多く、自分の読みを深化させたり読みの視点を広げたりすることができた。
- (エ) 本単元の学習に限らず、国語科の授業で身に付けた力が他教科、領域の授業や日常生活の中で有効にはたらくということを実感できる学習を展開したいものである。そのためにも、見通しをもった学習や、学習内容を明確にした授業を展開し、生徒が主体的に楽しく学習できる場をつくっていきたい。



## 2 研究協力員による実践授業の実際と検証③

- (1) 授業者 岩手県立岩谷堂高等学校 教諭 陳ヶ岡 海
- (2) 生徒 岩手県立岩谷堂高等学校 第1学年 30名
- (3) 実践日 平成27年11月26日～平成27年12月18日(全6時間)
- (4) 授業の実際 以下57頁まで

### 高等学校第1学年「国語総合」単元構想表（東書；「徒然草」）

#### 【生徒の実態】

#### 【身に付けさせたい力】

○7月に随筆の導入として『奥山に猫またといふものありて』を学習した。単元の最後には、噂に惑わされた経験を交流したが、生徒たちは初めなかなか思いつかなかったようである。「共感」する読みにつながっていなかったと思われる。

○国語総合なので現代文も並行して学習しているが、比較すると古典に苦手意識を抱いている生徒が多い。

「徒然草」の多くの章段を読むことで、紹介文を書くという目的をもちながら、

○文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう力。(C-ウ)

◎幅広く文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりする力。(C-オ)

#### 【単元の言語活動】

「徒然草」を読み、選んだ章段から得られた教訓の紹介文を書く。

#### 【言語活動の特徴】

「徒然草」は各章段が簡潔にまとめられている。生徒たちに「結局何が言いたかったのか」ということを自分で読み取らせることで、「腑に落ちる」という経験をさせたい。

紹介文は形式を設定し、伝える相手をクラスメートに想定した上で、できるだけ簡潔にまとめさせるようにしたい。書き上げた紹介文はグループで発表し合い、自己評価と他者評価を行う。

1. 単元名 「徒然草」から学んだ教訓を紹介文で伝えよう！

2. 単元の目標 「徒然草」の章段を読んで、共感した教訓の紹介文を書くことができる。

3. 単元の評価規準

##### 【国語への関心・意欲・態度】

☆古文に興味を持ち、読み味わおうとしている。

##### 【読む能力】

☆文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりする。(C-イ)

##### 【知識・理解】

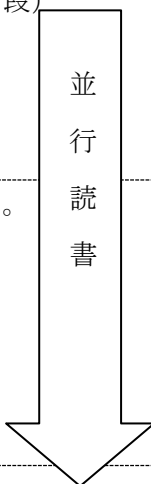
☆文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。  
(伝国イ(イ))

4. 教材 『新編 国語総合』（東京書籍）「徒然草」第51段・第89段・第189段

並行読書資料（第11段・第13段・第18段・第68段・第79段・第85段・第92段・第109段・第117段・第123段・第130段・第150段・第157段・第187段・第211段・第233段）

5. 単元の展開（全6時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・読・知）等
第0次		<ul style="list-style-type: none"> <li>・序段，第89段を読んでいる。</li> <li>・「徒然草」に関する基礎的な知識を学習している。</li> </ul>	
第1次	第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 本文を音読する。</li> <li>2. 「奥山に猫またといふものありて」（第89段）の内容を振り返る。</li> <li>3. 単元の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現代語訳からあらすじをまとめ，教訓を見つけさせる。</li> <li>関 古文に興味を持ち，読み味わおうとしている。</li> <li>読 文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。</li> </ul>
	第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 本文を音読する。</li> <li>2. モデルを学習する。</li> <li>3. 「亀山殿の御池に」（第51段）を読み，あらすじをまとめ，紹介文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現代語訳からあらすじをまとめ，教訓を見つけさせる。</li> <li>○モデルを示し，それに従い紹介文を書く。</li> <li>関 古文に興味を持ち，読み味わおうとしている。</li> <li>読 文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。</li> </ul>
第2次	第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. グループで発表・交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時に書いた紹介文をグループで発表する。</li> <li>○評価シートに沿って相互評価を行う。</li> <li>関 古文に興味を持ち，読み味わおうとしている。</li> <li>読 文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。</li> </ul>
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 紹介する章段を選択する。</li> <li>2. 紹介文を書く。（下書き）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自らの経験をふまえることを確認し，教訓と結びつけさせる。</li> <li>読 幅広く本や文章を読み，ものの感じ方，考え方を豊かにしている。</li> </ul>
第3次	第5時	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 紹介文を完成させる。 ・原稿用紙に清書する。</li> <li>2. 発表に向けて準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手に伝える，相手に読んでもらうことを意識させる。</li> <li>関 文章の構成や展開を確かめ，内容や表現の仕方について評価したり，書き手の意図を捉えたりしようとしている。</li> </ul>
	第6時	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 発表する。 ・代表者を1名選出する。</li> <li>2. 代表者による全体発表を行う。</li> <li>3. 単元の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループでの発表を通して相互評価・自己評を行う。</li> <li>○単元を振り返る。</li> <li>関 文章の構成や展開を確かめ，書き手の意図を捉えようとしている。</li> </ul>







【第2時-①】

一年次 国語総合(古典) 「徒然草」学習プリント

組 番 氏 名

課題

実際に出版されている「教訓本」の書き方を真似て書いてみましょう。

○『きっと勇気がわいてくる 魔法の言葉2 語りつがれた言葉』

笑つ門には福きたる  
いこむせ

いこむせ

幸運は明るい人のところへやってきます。  
人間の明るさは、笑顔に表れます。  
明るい笑顔の人のもとには人が集まります。

意見



物を買うときに、いつもむっつりした感じの店員さんの店と、笑顔であいさつ  
をしてくれる店員さんの店があったら、どちらの店で買いたくなりますか。  
同じ品物で同じような値段なら、笑顔で応対してくれて、「ありがとうございま  
した」と笑顔で喜んでくれる店員さんのいる店で買いたくなりませんか。  
笑顔は、商売(笑売) 繁盛(はなや)の秘訣(ひつてき)ですね。

↓具体例

君も笑顔でいると、きっと良いことが起こります。  
笑顔があるところに幸運がやってきます。

↓意見

↓教訓の  
言い直し

【第2時-②】

(例)

業 で す。	向 き 合 う こ と が 大 切 か 、 気 づ か せ て く れ る 言	つ ま り 、 こ の 教 訓 は い か に 最 後 ま で 真 剣 に	る こ と が で き る の で す。	べ き で す。 そ う す る こ と で 、 大 き な 成 果 を 得	も う 大 丈 夫 だ と 思 っ た 時 こ そ 、 慎 重 に な る	っ て 大 き な も の を 失 う こ と に つ な が り ま す。	こ の よ う に 、 一 瞬 の 気 の 緩 み が 、 自 分 に と	り ま す。	こ と で 、 流 れ を 奪 わ れ 、 勝 利 を 逃 す こ と が あ	そ の 時 、 「 勝 っ た な 」 と い う 油 断 が 生 ま れ た	握 っ て い た と し ま す。 あ と 一 点 で 勝 利 で す。	例 え ば 、 バ レ ー の 試 合 で マ ッ チ ポ イ ン ト を	な く 取 り 組 む こ と が 大 切 で す。	ど ん な こ と で も 、 最 後 ま で 気 を 緩 め る こ と	き に 、 ほ と ん ど 必 ず 起 き る も の で あ る。	徒 然 草 第 一 〇 九 段	失 敗 は 、 安 全 な 所 ま で 降 り て 気 が 緩 ん だ と	る 事 に 候	「 あ や ま ち は 、 や す き 所 に な り て 、 必 ず 仕
	↓教訓の 言い直し			↓意見			↓具体例				↓意見		↓出典		↓口語		↓教訓		

【第2時-③】

「龜山殿の御池に」

「よるがは、その道を知れる者は、やんごとなきものなり。」

何事につけても、その専門に熟達している者は、たいしたものである。

徒然草第五十一段

「いんたことども、専門家という者はすげらしい者である。」

例えば、歯がかけてしまったとする。その痛みにたえられず、何度か痛止め薬を飲んだりもしたが、全く痛みが収まらなかった。その時、歯医者に行つて治療してもらった。痛みはなくなり、治つたのである。

このように、専門的な知識を持つている者は、その物事についてとて詳しく知つているため、すぐに解決してとれる。

もう大丈夫だと思わずに、専門家に頼るのが大切である。

つまり、この言葉はひかに専門家が自分達の事を助けてくれているかを、気づかせてくれる言葉である。

20×20

【第3時-①】

一年次 国語総合(古典) 「徒然草」 兼好法師 学習プリント グループシート

【4班】

課題

「龜山殿の御池に」から生き方を学ぼう。

【あらすじ】

後醍醐天皇が大井川の水を引き入れ水車を作らせようと大井の土民に多くの日数と金銭を設けたが水車は廻らず、宇治の村人に造らんとする廻り。その専門にバリエーションを付けた者だ。

○この話から、教訓として伝えたいことはどのようなことか。

多くの日数や金銭をケチイも、技術のないものは造れない。

大井の専門の人に聞いて造らた方がいい。

○この教訓が生きる、日常的な具体例を考えてみよう。

家を建てる時、何も分からない私たちが造ることを造ることにままならたいけど、大工さんが造ると効率よく丈夫に家を建てるのでいい。

○この話から学ぶ教訓を「格言風」に表現してみよう。

頼りにするのはその道の者

【第3時-②】

一年次 国語総合(古典) 「徒然草」兼好法師 学習プリント

組 番 氏名

課題

自分たちが書いた紹介文を評価し合おう。

☆グループで評価し合おう！

氏名	良い点・アドバイス
	【良い点】意見を上手くまとめられている。 【アドバイス】教訓の言い直しを意見と近い意味にする。
	【良い点】意見がしかりまとめられている。 【アドバイス】教訓の言い直しを工夫する。
	【良い点】教訓の言い直しが上手くまとめられている。 【アドバイス】具休例をもっと少し工夫する。
	【良い点】具休例が具休的。 【アドバイス】意見をもっと少し主張する。

☆最もよく書けていた紹介文

(1) ( ) 班で最も良かった紹介文は ( ) さんの紹介文です。  
理由は

☆グループ発表・全体発表を通して紹介文を書く時に注意する点をまとめよう。

具休例は身近な事に例えた方が伝わりやすい。  
意見をしかり主張する。内容も上手くまとめる。

【第4時】

一年次 国語総合(古典) 「徒然草」兼好法師 学習プリント

組 番 氏名

課題

「徒然草」から生き方を学ぼう！

☆本日の流れ

①別紙の並行読書資料を読む。

②その中から、「共感できる」「納得できる」「理解できる」段を一つ選ぶ。

③「龜山殿の御池に」で学習したシート形式で、紹介文を書くための構成メモを作成する。では、やってみよう

☆私が選択した章段は【第二百十一段】です。

【あらすじ】

何事も人を頼りにしてはいけない

○この話から、教訓として伝えたいことはどのようなことか。

何事も人を頼りにしてはいけない

○この教訓が生きる、日常的な具体例を考えてみよう。

ワークの答えをうらす、  
人の情報そのまき信じる

○この話から学ぶ教訓を「格言風」に表現してみよう。

格言とは・・・教訓(教え)を短い言葉でわかりやすくまとめたもの。

(例)「龜山殿の御池に」の場合・・・『専門家はたいしたものだ!』

何事も人を頼りにするな!



【第5時-①】

問題																				年組	番氏名
「深く信を致しぬれば、かゝる徳もありけるにこそ、深く信仰してゐると、こんど利益もあるも、うたはれぬ。	誰かに何を言われようか、何かを長い間信じ続けることには、後から何か良いことが起るはずだ。	和の知人にある大まな夢を持つ、こゝろの人がいます。	彼女はその夢に向か、一生懸命努力してこゝろを治した。	しかし、不合格が夢は叶いませぬ。彼女は今までの夢と違ひ、違ひに挑戦しようとした。	んは時、彼女の前にある人が現れられた。そのある人は彼女に「さう言ひました。」	「誰だ、さういふ時がある。もう一度挑戦してやれ。」	と。彼女はあんなうさ。下通りもう一度とどかへ。た夢に向か、挑戦しました。あると、彼女は合格し、夢を叶はれたので可。	このように、自分以外の誰かが自分の夢を信じ続けていくだけで、本當に夢が叶うことがあるので可。	「と、良いことが起きるうたと思わせ、くれ、言葉です。」												
600	500	400	300	200	100																

【第5時-②】

問題																				年組	番氏名
「この四つを外を求め、驕とす。」	この四つ以上を求め、のがせたいとある。	徒然草第百二十三段	今の自分の生活に満足してゐるのか。幸せなのかを考へるときがあると思う。そんなとき、今普通に生活すべきであることに感謝する気持ち忘れぬほし。	教訓を挙げている四つとは、食べるもの、着るもの、住むものを、それである。この四つがあれば他に必要のないと言へる。それなのに、今の私たちは普通である暮らしになれてしま、あれも欲しい、これも欲しいと、本當に必要なのが考え、買つてしま。それが今の現状だと思ふ。そんなものを私には悪いことだと思つて、いし悪いことだとも思わなかつたろう。自分を稼いだお金で自分が必要ないものを買つ。当たり前前のことだと思ふ。そんな忘れてはいけなものは、欲しいものど、少しの空腹を満たす食へるもの、食べられない人、食ひたい。	うことと、そんな時代が日本にもあつたというのだ。	このように、今の私たちは全てにおいて感謝の心、幸せだと感じること、がなくなつてきてゐるのだと思ふ。そんなものは、時代の流れが私たちに与へたのかも、しれない。そんな時代、時代の流れのせいにするのではなく、一人一人の気持ち、大切だ。つまりこの教訓は、着るものがあつた、住む場所があること、菜があること、の四つに感謝して、いさうと、買つかせてくれる言葉である。															
600	500	400	300	200	100																

【単元の振り返り－①】

一年次 国語総合(古典) 「徒然草」兼好法師 単元振り返りシート

組 番 氏名

☆「徒然草」の学習を振り返りましょう。あてはまるもの一つに○をつけてください。  
【あてはまる・4 だいたいあてはまる・3 あまりあてはまらない・2 あてはまらない・1】

① 「紹介文を書く」という見通しをもって学習できた。	4 3 2 1
② 文章を読んで、あらすじをまとめる力を高めることができた。	4 3 2 1
③ 「徒然草」を読んで、教訓を見出すことができた。	4 3 2 1
④ 教訓が普段の生活にも生かされることに気づくことができた。	4 3 2 1
⑤ グループワークにおいて、他の人の「良さ」に気づくことができた。	4 3 2 1
⑥ グループワークにおいて、紹介文を書く時に大切な要素を学ぶことができた。	4 3 2 1
⑦ 文章の構成を意識し、紹介文を書くことができた。	4 3 2 1
⑧ 読んでもらうことを意識し、丁寧に書くことができた。	4 3 2 1
⑨ 単元の学習を通して、「徒然草」の面白さを味わいながら読むことができた。	4 3 2 1
⑩ 単元の学習は自分にとって意味のあるものであった。	4 3 2 1

☆「徒然草」を読んでみての感想を書いてください。

徒然草の一つ一つの文章には生活していくうえで人として大切な事柄がたくさん書かれてあるという事に気付きました。また、紹介文を書く事で、自分の感想を相手に伝える事もできました。

【単元の振り返り－②】

一年次 国語総合(古典) 「徒然草」兼好法師 単元振り返りシート

組 番 氏名

☆「徒然草」の学習を振り返りましょう。あてはまるもの一つに○をつけてください。  
【あてはまる・4 だいたいあてはまる・3 あまりあてはまらない・2 あてはまらない・1】

① 「紹介文を書く」という見通しをもって学習できた。	4 3 2 1
② 文章を読んで、あらすじをまとめる力を高めることができた。	4 3 2 1
③ 「徒然草」を読んで、教訓を見出すことができた。	4 3 2 1
④ 教訓が普段の生活にも生かされることに気づくことができた。	4 3 2 1
⑤ グループワークにおいて、他の人の「良さ」に気づくことができた。	4 3 2 1
⑥ グループワークにおいて、紹介文を書く時に大切な要素を学ぶことができた。	4 3 2 1
⑦ 文章の構成を意識し、紹介文を書くことができた。	4 3 2 1
⑧ 読んでもらうことを意識し、丁寧に書くことができた。	4 3 2 1
⑨ 単元の学習を通して、「徒然草」の面白さを味わいながら読むことができた。	4 3 2 1
⑩ 単元の学習は自分にとって意味のあるものであった。	4 3 2 1

☆「徒然草」を読んでみての感想を書いてください。

古典は苦手だ、たけど文章や教訓をまとめることばかりやなくて自分にもできるかなと思えるようになりました。



平成二十七年 一平次国語総合「古典」後期末並行読書資料

# 徒然草



組  
番  
氏名

## ⑦第九十二段

ある人、弓射る事を習ふに、諸矢(もろや)をたばさみて的に向ふ。師の云はく、「初心の人、二つの矢を持つことなかれ。後の矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり。毎度たゞ得失なく、この一矢に定むべしと思」と言ふ。わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろそかにせんと思はんや。懈怠(けだい)の心、みづから知らずといへども、師これを知る。このいましめ、萬事にわたるべし。

道を學する人、夕には朝あらむことを思ひ、朝には夕あらむことを思ひて、重ねて懇(ねんごろ)に修せむことを期(こ)す。況んや一刹那のうちにおいて、懈怠の心あることを知らんや。何ぞ、たゞ今の一念において、直ちにすることの甚だ難き。

### 【口語訳】

ある人が、弓を射ることを習う時に、二本の矢を手にとって的に向かった。すると、その弓の師匠が言うには、「初心者は、二本の矢を持って的方向に向かつてはならない。なぜなら、二本目の矢をあてにして、最初に射る矢をおろそかにする気持ちが生まれるからである。だから、射るたびに、ただ射損なったら次の矢で取り返そうということは考えないで、この一本の矢で決めてやろうと思え」と言う。たった二本の矢である。しかも師匠の目の前で、その一本をいっかげんに射ようと思うであろうか、いや、思わない。しかし、なまげ心というものは、自分では気づかなくても、師匠はよくわかっている。この教訓は弓を射ることに限らず、全てのことに通じるはずである。

仏の道を学ぼうという人は、夕方には、また朝があるということを考え、朝になればまた、夕方があるということを考えて、今は適当に修行し、その時になったら再び心を込めて本気で修行しようと思ふ。このように、一日、半日と、ことを先送りし、なまげの心が起っているのに気づいていない人が、まして、一瞬という短い時間の中において、なまげ心が生まれていることに気づくことができるだろうか、いや、できないだろう。現在のこの一瞬に、なすべきことを後でなどと考えず、思い立った瞬間に実行することが、本当に何と難しいことであるか。



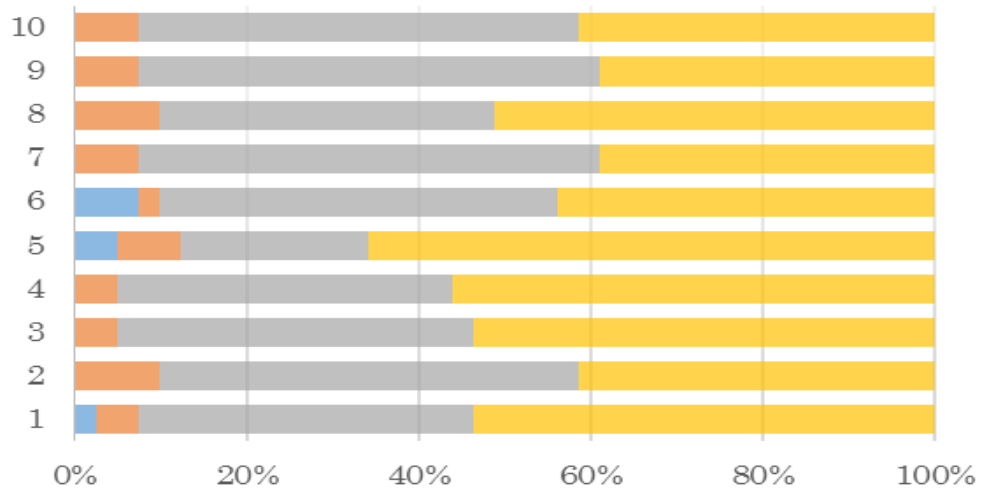
(5) 授業の検証

ア 授業実践を通じた生徒の振り返り

振り返る項目は以下の10項目とした。

- ①「紹介文を書く」という見通しをもって学習できた。
- ②文章を読んで、あらすじをまとめる力を高めることができた。
- ③「徒然草」を読んで、教訓を見出すことができた。
- ④教訓が普段の生活にも生かされることに気づくことができた。
- ⑤グループワークにおいて、他の人の「良さ」に気づくことができた。
- ⑥グループワークにおいて、紹介文を書く時に大切な要素を学ぶことができた。
- ⑦文章の構成を意識し、紹介文を書くことができた。
- ⑧読んでもらうことを意識し、丁寧に書くことができた。
- ⑨単元の学習を通して、「徒然草」の面白さを味わいながら読むことができた。
- ⑩単元の学習は自分にとって意味のあるものであった。

## 「徒然草」の学習を振り返って



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
あてはまらない	2%	0%	0%	0%	5%	7%	0%	0%	0%	0%
あまりあてはまらない	5%	10%	5%	5%	7%	2%	7%	10%	7%	7%
だいたいあてはまる	39%	49%	41%	39%	22%	46%	54%	39%	54%	51%
あてはまる	54%	41%	54%	56%	66%	44%	39%	51%	39%	41%

【図1】学習を振り返っての集計結果

N=30

(ア) 「あらすじをまとめる力」について

この単元で何度も繰り返し指導したのは「あらすじ」のまとめ方である。7月に「奥山に猫またといふものありて」を学習した際に初めて書かせてみたが、多くの生徒は「あらすじ」ではなく「口語訳」をまとめていた。このことから、あらすじに必要なのは「いつ・どこで・だれが・何を・どうした」であることを意識させるように指導し、振り返りとして再び書かせてみた。すると、ほとんどの生徒が2行から3行で簡潔にまとめられるようになった。

あらすじが書けるということは、書かれている内容を理解できていることを示しており、今回の紹介文を書く際に必要な教訓を見出すことにもつながる大切な力である。

【図1】の①を見ると、90%の生徒が「あらすじをまとめる力を高めることができた」と回答している。これは、モデルを示したり繰り返し指導したりすることによって、生徒自身が「自分にもできた」という自信をもつことができたからではないかと考える。

(イ) 「教訓を見出す力」について

共通教材であった「亀山殿の御池に」では、最後の一文である「よろづに、その道を知れる者は、やんごとなきものなり。」が言いたいことであると気づいた生徒は多かった。「専門家は素晴らしい」というところで収めたかったのだが、そこから意識させてしまい「成功するには積み重ねが大切」や「専門家とは苦勞してなれるものだ」等といった解釈が為されていた。その根拠となる一文は導き出せているが、意味を理解していない生徒が少なからずいた。解釈は一つではないかもしれない。どのように教師側が導く手だてを示せば良いのか、苦慮したところである。

振り返りでは【図1】③・④の質問において「だいたいあてはまる」「あてはまる」と回答した生徒が約9割であった。一度目の紹介文を回収して行った添削指導が生かされた結果と考えられる。

(ウ) 「グループワーク」について

今回のグループワークでは、相互評価を重点にして活動させた。その評価から、紹介文を書くにあたり大切な要素は何か気づかせたいと考えたのである。良い点は必ず見つけることを確認させたのだが、アドバイスに関しては「声が小さい」「原稿を見たまま話している」等の発表の仕方だけに触れている生徒もあり、紹介文の要素から離れてしまった。また、ご助言をいただいた点でもあるが、グループの人数について見直す必要があったかと思われる。男女差もあり、なかなか発言できない生徒がいた。その結果、【図1】⑤・⑥において「あてはまらない」が、他の項目と比べて増えてしまったのだと考える。

(エ) 「言語活動の充実を図る授業づくり」について

1年次は「産業社会と人間」という科目で毎時間600字の作文を書いている為、文章を書くことに普段から取り組んでいる。しかし、今回は作文や感想文ではなく「紹介文」であることから、他の人が読んで「徒然草」の内容がわかるものを書かなければならない。そのことに、生徒たちは頭を悩ませながら書き進めていたようである。【図1】⑧の「丁寧に」の部分で、自己評価が低かった生徒が10%いた。これは、教訓本のイメージの示し方が不十分であったためと思われる。

(オ) 「古典の面白さを味わうこと」について

次のAとBは、ある二人の生徒の感想である。

A「徒然草の最初の印象は、古文だからあまり理解できなくてつまらなそうだと思っていたけど、学習を続ける度に面白いなとか、もっと読んでみたいと思うようになって、学習をして良かったなと思っています。」

B「最初は何を言っているか意味が分からなかったけど、学習をしていくと意味も分かるようになったし、だんだん面白く感じてきた。」

生徒Aは普段の授業でも要旨を捉えたり、主張をまとめたりする能力が比較的高いと思われる生徒である。古典に苦手意識はあるようだが、取り組みがとても丁寧である。

一方、生徒Bはまず「分からない」「できない」のような言葉を発する。しかし、今回の授業を通して積極的に質問をするようになった生徒である。

共通しているのはやはり「面白い」と感じたことで学習への意欲が湧いている点である。そしてその「面白い」は「分かった」という感覚に実に大きく関わっている。私が今回の実践を通して生徒に感じて欲しかったのは「腑に落ちる」という感覚である。【図1】⑨において、「だいたいあてはまる」「あて

はまる」の割合が90%であったのは、生徒たちにとって自信につながった学習だったことを表しているのではないかと考える。

(カ) 「学びの意味」について

【図1】⑩について、「あまりあてはまらない」と答えた生徒は7%であったが、その生徒は【図1】①・⑤・⑦においても「あてはまらない」または「あまりあてはまらない」と回答している。グループワーク時には、なかなか発言ができない様子が見られた。少数であるが、そのような生徒にこそ古典を読んで共感するという経験をしてもらいたかったと思う。見通しのもとせ方や導入時に工夫が必要であった。

生徒の感想の中に次のような記述があった。

- ・「徒然草を読む前は、古典の授業はなぜあるのかよく分かりませんでした。でも、徒然草を読み紹介文を書いてみて、古典には教訓など普段の生活において大切なことがあり、それを学ぶことができると分かり楽しかったです。」
- ・「徒然草には様々な教訓があって、それぞれ違う内容で面白かった。ああなるほどな！とか、この気持ち分かる！など、身近な行動を振り返ることができて良かった。共感できるということは今も昔も人間性は変わっていないんだなと思った。」

今回の授業実践を通して、生徒たちに「共感」につながる読みをさせたいと考えていた。紹介文を書くという単元の言語活動を設定したことにより、その目的に向かう課程で章段を多読することができ、教科書教材中心の学習ではなく、広がりをもった単元となった。

イ 授業実践を通して

- (ア) この単元では口語訳を配付する形式をとった。一字一句をしっかりと訳さなければ不安だという生徒が多いため、古典の授業＝口語訳ではなく、現代文と同様に一種の物語のように読むことを意識させたかった。また、そこからあらすじをまとめさせることは、教訓を見つけるために必要な学習であると気づいたようである。
- (イ) 口語訳を提示したが、生徒たちは紹介文に見出した教訓を引用するため本文を読む必要がある。「教科書で読む→並行読書資料で読む→選択した章段を読む→教訓を見つける」という学習の流れの中で自然に多くの古文を読むことができた。
- (ウ) 古文を読んで学習者自身が「分かった」で終わるのではなく、学んだことをいかに簡潔に相手に伝え、さらに、具体例を示すことで相手に共感してもらえよう文章にまとめるという言語活動は、学習が深まり学習に対する意欲の向上へつながるといことが分かった。
- (エ) グループワークや全体での発表での相互評価は概ね効果的であった。今回は特に、「良さ」を見つけることに重点を置いた。「わからない」「できない」を口にする生徒が多いが、それは自己肯定感が低いことが関係しているのではないだろうか。褒め合うことで小さなことでも自信となり、学習への意欲向上につながるのではないかと考える。



2 研究協力員による実践授業の実際と検証④

- (1) 授業者 久慈市立久慈小学校 糸坪 伸宏
- (2) 児童 久慈市立久慈小学校 第6学年1組 31名
- (3) 実践日 平成27年12月1日～平成27年12月8日(全6時間)
- (4) 授業の実際 以下69頁まで

小学校第6学年単元構想表（光村；「この絵、私はこう見る」）

【児童の実態】

【身に付けさせたい力】

○6年生「ようこそ、わたしたちの町へ」の学習では、仙台の人に久慈のよさを伝えるという目的に応じて必要な情報を収集したり、構成を考えて記述したりすることができた。

○授業や1日の振り返りなど、形式に合わせて書くことはよくできるが、自分なりの思いや考えを書くことに苦手意識を感じている子どもがいる。

○文章を書く時に、自分の書きたいことだけを書き、相手にどう伝わるかまで意識できていない子どもがまだ多い。

◎表現の効果を確かめたり工夫したりして書くことができる。(B-オ)

○絵から感じたことの中から書くことを決め、全体を見通して事柄を整理することができる。(B-ア)

○事実と感想、意見などを区別するとともに、必要に応じて絵の様子を簡単に書いたり詳しく書いたりすることができる。(B-ウ)

【単元の言語活動】

図工で友達が描いた作品の鑑賞文を書く。

【言語活動の特徴】

鑑賞文は、関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを書いた文章である。本単元では、友達が描いた自画像から感じたことや想像したことを鑑賞文に書く。作品に描かれた人物の表情や線、背景の彩色等を根拠に、子どもが自分なりの見方を表現することができるように考える。その際、前単元『『鳥獣戯画』を読む』で学んだ着眼点の取り上げ方と評価語彙を生かして書くことができるようにする。最終的に「12才の自分～自画像展覧会～」と題して作品と鑑賞文をセットで校内に展示することとし、相手意識と目的意識をもって学習に臨めるようにする。

1. 単元名 自分なりの見方で鑑賞文を書いて、自画像展覧会を開こう

2. 単元の目標 絵を見て感じたことの根拠を明確にして鑑賞文を書き、表現の効果を確かめたり、工夫したりすることができる。

3. 単元の評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

☆絵画に興味をもち、自分なりに絵から読み取ったことを伝えようとしている。

【書く能力】

☆自分の見方や感じ方が伝わるように、表現を工夫して書いている。(B-オ)

☆絵の中にある情報を、適切に区別したり関連づけたりしている。(B-ア)

☆絵から読み取ったことと感じたことを区別して書いている。(B-ウ)

【言語についての知識・理解・技能】

☆語句と語句との関係を考えながら、文章の中で使っている。(伝国イ(オ))

4. 教材 「この絵、私はこう見る」(光村図書)

## 5. 単元の展開（全6時間）

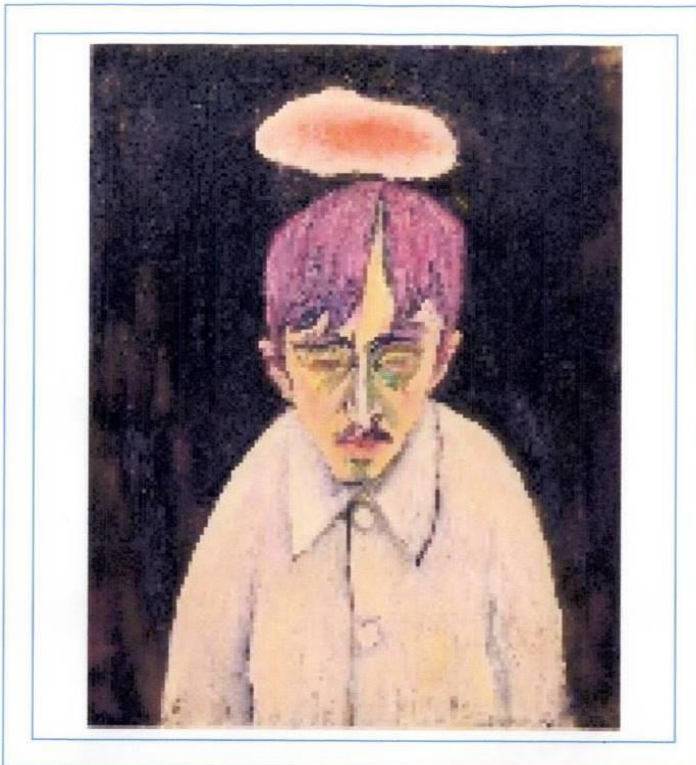
次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・書・言）等
第0次		○ 図画工作の鑑賞についてアンケートを実施し、子どもたちの鑑賞に対する意識やできるようになりたいことを把握する。	
第1次	第1時	1. 図工の鑑賞を振り返る。（5分） 2. 萬鐵五郎の3つの自画像を鑑賞する。（10分） 3. 表現様式上のモデル学習をする。（10分） 4. 学習課題を設定する。（10分） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             自分なりの見方で鑑賞文を書き、自画像展覧会を開こう。           </div> 5. 学習計画を立てる。（10分）	○同じ人物が描いた異なる自画像から、着眼点を確認する。 ○教師が作成した、3つの自画像それぞれの鑑賞文のモデルを提示し、鑑賞文のイメージをつかむ。 関 絵画に興味をもち、自分が感じたことを伝えようとしている。（観察、発言）
第2次	第2時	1. 個人課題を選択する。（5分） 2. 取材する。 ・全体で絵を見る観点を確認する。（5分） ・個人で絵を見る。（10分） ・グループで交流する。（10分） ・再び個人で絵を見る。（10分） 3. 振り返りをする。（5分）	○鑑賞文を書く友達の作品を選ぶ。 ○絵を読む手順として、「着眼点」→「事実」→「感想・意見」の順でシートに書き込むことを指示する。 ○着眼点として、顔の向き、目線、口元、背景の色、背景の模様などが考えられる。 ○個人で見たことをグループの仲間に話し、相手の見方も聞き、再度、個人で取材する時間を取る。 書 絵の中にある情報を、適切に区別したり関連づけたりしている。（ワークシート、発言）
	第3時	1. モデル文の構成や表現を分析する。 ・個人で分析する。（5分） ・グループで分析する。（10分） ・全体で分析する。（10分） 2. 構成を考える。（15分） 3. 振り返りをする。（5分）	○3つのモデル文の構成を、「着眼点」、「事実」、「感想・意見」の3つの観点で分析する。 ○3つのモデル文の共通点を整理し、鑑賞文の構成を考える参考とする。
	第4時	1. 鑑賞文で使いたい表現を確認する。（5分） 2. 記述する。（35分） ・原稿用紙1枚程度 3. 振り返りをする。（5分）	書 絵から読み取ったことと感じたことを区別して書き、表現を工夫している。（原稿用紙）
	第5時	1. 推敲する。 ・全体で推敲の観点を確認する。（5分） ・全体で推敲の仕方を確認する。（5分） ・個人で推敲する。（5分） ・グループで推敲する。（15分） ・全体で交流する。（10分） 2. 振り返りをする。（5分）	○通常の推敲の観点の他に、自画像のよさが読み手に伝わる工夫を加える。 ○全体では、推敲の結果を発表したり、グループで悩んだ点を取り上げたりして、よりよい文章にしようとする態度も育てる。 書 自分の見方や感じ方が伝わるように、文章を直したり、友達に助言したりしている。（原稿用紙、発言）
	第3次	第6時	1. 清書する。 2. 相互交流する。 3. 単元の学習を振り返る。 ・個人（5分）→グループ（5分）→全体（5分）
第4次		☆「12才の自分～自画像展覧会～」を開設する。（課外）	

【第0次に実施した鑑賞についてのアンケート結果（座席表）…第1時に配付した】

6年1組 11月30日 鑑賞についてのアンケート								
鑑賞を書く時に困ることがありますか。はい いいえ ①どこかよい所があるか分からない。 ②よい所を見つけても、それをどう書けばよいか分からない。 ③よい所を書くことはできるが、くわしく書いたり、分かりやすく書いたりすることが難しい。								
児童名	児童名	児童名	児童名	児童名	児童名	児童名	児童名	児童名
はい ③ むとくわしく書けるようにしたい。	いいえ 作った人の気持ちをとらえられるようにしたい。	いいえ 作品を見るスピードを速くしたい。良さをたくさん見つけた。	いいえ いい所をもとくわしく、たくさん書くこと。	いいえ 多くの人の作品を見て、速く書きたい。	いいえ 良い所をたくさん見つけられるように。	はい ① ③ 行を全部うめた。文をくわしく書きたい。	欠席	はい ② たくさんいい所を見つけて、たくさん書くこと。
②困ることがありますか。 ・はい…19人 ①…5人 ②…10人 ③…14人 ・いいえ…10人								
児童名	児童名	児童名	児童名	児童名	児童名	児童名	児童名	児童名
欠席	はい ② もと正確に詳しく書きたい。	はい ② ③ よい所をくわしく書くこと。	はい ③ 例えを使って書いたり、押しいろい書いていたりすること。	いいえ	はい ① ② ③ よさをたくさん見つけた。自分も取り入れた。	はい ② ③ 最初、どこに目をつけるかということ。	いいえ	いいえ 工夫したこと以外のことを書けるようになりたい。
③できるようにしたい。 ・たくさんいい所を見つけて、たくさん書きたい…10人 ・くわしく、分かりやすく書きたい…14人 ・速く書けるようになりたい…5人 ・作った人の気持ちやがんばり、意図などをとらえて書けるようになりたい…4人 ・文系にいろいろな表現を使いたい…1人 ・例え(比喩)を使いたい…1人 ・どの教科にも共通して、書く力を付けたい…1人								
児童名	児童名	児童名	児童名	児童名	児童名	児童名	児童名	児童名
はい ③ その人が一番がんばっているところを自分で見つけて書けるようにしたい。	いいえ もとくわしく書く	はい ② ③ よい所をくわしく書くこと。	はい ② ③ 良い所を見つけても、あきらめくわしく書けない。	はい ③ たくさんいい所を見つけて、もうすぐ分かりやすく書きたい。	はい ③ 良い所をもとくわしく書けるようにしたい。	はい ② いい所をたくさん書けるようにしたい。	はい ① 見えなような工夫はないが、よく見て鑑賞したい。	はい ①
児童名 児童名 児童名 児童名 児童名 児童名 児童名 児童名 はい ③ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ どの教科にも共通して文章をうまく書けるようになりたい。 よい所をくわしく書いたり、分かりやすく書いたりしたい。 1人分を書くのに長かからしもうから、速く書きたい。 いい所が言葉で表せるようにすること、くわしく書いたり、分かりやすく書いたりすること。 文系にいろいろな表現を使うこと。								

【第1時に使用した鑑賞文のモデル】

モデル文A



雲のある自画像には、萬の暗い気持ちが表れている。人物の表情を見つめると、視線は下がり、うつむいているように見える。顔色は、青白く、ひとみもぼんやり描かれている所から、とても弱々しく感じられる。

最も持ちよう的なのは、頭の上にある雲である。これは、萬の心を表しているのだろうか。もしかしたら、何かに失敗して夢や希望が小さくしぼんだ気持ちを表現したのかもしれない。目には見えない気持ちを雲のような形で描いている萬の想像力がすばらしい。

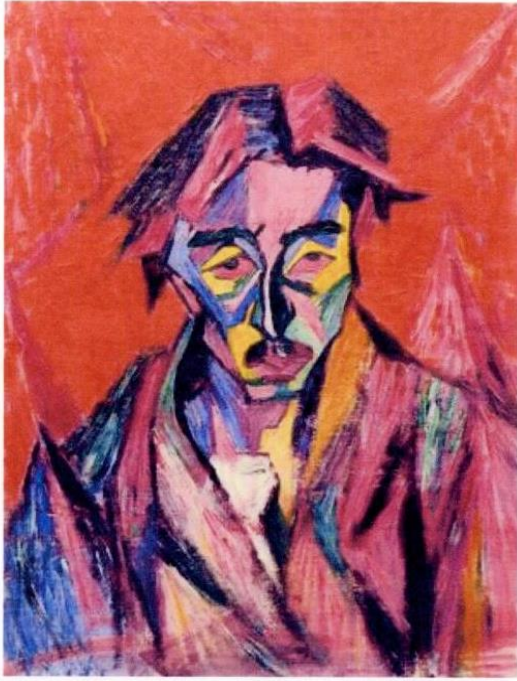
背景の色に目を向けると、全体が黒い色でぬられている。しかし、初めから黒ではなく、他の色でぬった上から黒い色をぬっているように見える。ここから、初めは夢や希望をもっていた萬が、何かの失敗によって「何をやってもだめだ。」という気持ちに変わってしまった様子が伝わってくる。この自画像には、暗く、しぼんだ気持ちが見事に表現されている。

鑑賞文 糸坪 伸宏

題名 雲のある自画像  
 作者 萬 鐵五郎



モデル文B



題名 赤い目の自画像  
作者 萬 鐵五郎

なんと強烈な色づかいだろうか。顔だけに注目してみても、黄色、青、緑、赤、黒など、様々な色が使われている。これはきっと、萬の心の中にある希望や不安、喜びや怒りなど、たくさんの感情がぶつかり合っている様子を表現したにちがいない。

そのことは、背景の模様からも分かる。絵の左側の線をよく見てほしい。オレンジ色の背景に赤で線が描かれている。赤い線が上方から下のうでの所まで折れ曲がりながら伸びており、まるで鏡にひびが入ったようだ。

画家として成長したい萬は、自分の中にある様々な感情をいくつもの色を使って表したのだろう。しかし、思い通りの絵が描けないら立ちも感じており、ひびの入った鏡のような自画像を描いたのではないだろうか。この自画像は、萬の成長したい気持ちとうまく成長できないら立ちが見事に表現されている。

鑑賞文 糸坪 伸宏

モデル文C



題名 自画像  
作者 萬 鐵五郎

この自画像で最もよいと感じたところは、茶色一色で描かれていることだ。顔も頭も服も背景も全て茶色一色で見事に表現されている。おでこや鼻の頭など、光が当たる部分は白を混ぜてぬり、影になる部分は濃い茶色でぬっているから立体的に見える。

それでは、なぜ茶色一色で描いたのだろうか。それには、2つ理由があると思う。1つは、これを描いた時の萬の心が落ち着いた気持ちだったから。もう1つは、色づかいではなく、形で今の自分を表現しようとしたから。

この自画像の顔に注目してみると、目がとても大きく、<sup>まつげ</sup>眉間や口元のしわがくっきりと描かれている。きりりと引きしまった表情から、自分に自信をもっているような印象を受ける。

茶色の濃淡と大きく描いた顔の表情で、今の自分を表現した優れた自画像である。

鑑賞文 糸坪 伸宏




【第2時 鑑賞文の取材に使用した学習シート】

何を感したか。

具体的に言っと...

着眼点



題名 12才の自分  
作者 児童名

鑑賞者 児童名

明るい自分

しっかり開けている

目を開け方

視線

背景の色

着視点

背景の色

青色

何を感したか。

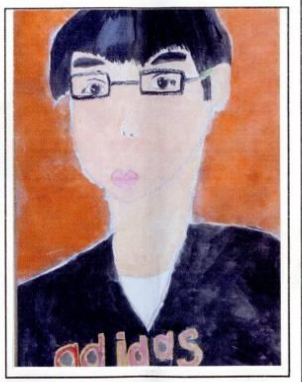
すわやかすがすがしい

スペンディングで少しやって、自分の気持ちも表現している。  
 オレンジで自分の気持ちも感じている！  
 未来を見ているよ。うた。よんだ。いい表現。いいすね。  
 強調したい所がよみ分かる。(人物を強調) ここには、強さや自信の表現がある。  
 何を感したか。  
 すわやかすがすがしい  
 明るい自分

何を感したか。

具体的に言っと...

着眼点



題名 変わっていく自分  
作者 児童名

鑑賞者 児童名

かわかっているよ

体や顔のまわりがみずい

背景の色

目の開け方

背景の色

着視点

視線

何を感したか。

今の自分から変わって、かっこいい強い自分

ローラーでつめば、自分の気持ちも表現している。  
 かわかっているよ  
 体や顔のまわりがみずい  
 なにか、強い意思を表現している。  
 前の自分から明るい自分へ。  
 何を感したか。  
 今の自分から変わって、かっこいい強い自分  
 「強い決心、強い意志」いい表現ですね！



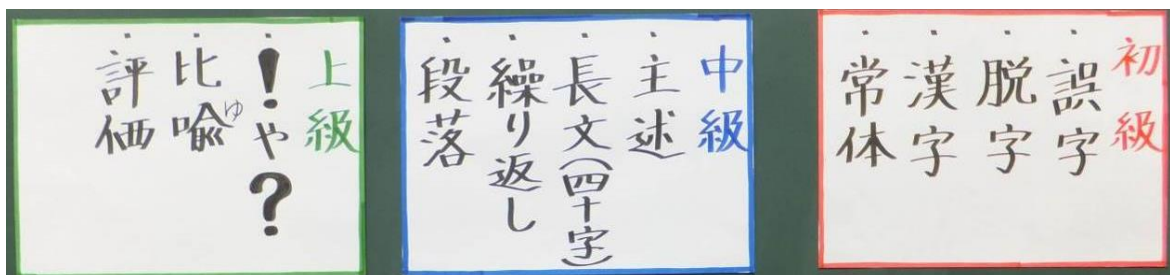


【児童が第4時に書いた鑑賞文を教師が授業後に読んだ際のチェックリスト】

12/4 に書いた鑑賞文 平成27年度 6年1組 担任 糸坪 伸宏

児童氏名	児童氏名	推敲レベル		初級				中級			上級			その他
		誤字脱字	漢字	常体敬体	長文(四十文字)	主述の関係	接続語	段落	繰り返し	同じ表現の繰り返し	評価言葉	例え	疑問かけ	
児童名													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短
													○	短

【第5時に示した推敲の観点】







【第6時 清書した鑑賞文】



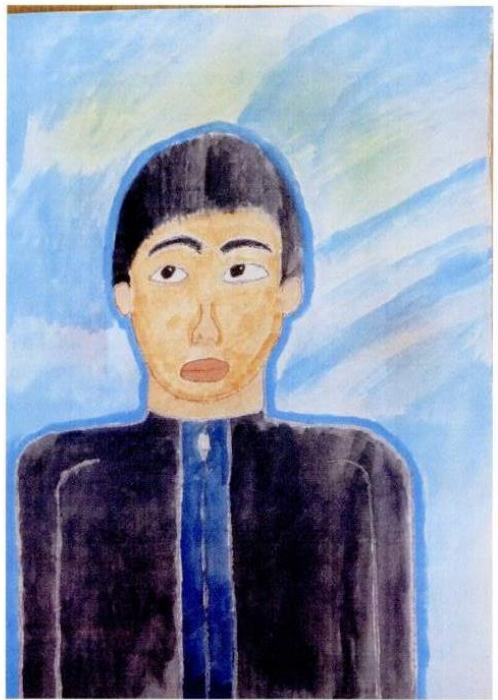
題名 本当の自分  
作者 児童名

この絵を、はじめて見ると、みんなが何を感<sup>じ</sup>たのかは分からないが、ぼくは、明るいと感じる。それはなぜか。口元を見てほしい。笑っている。このことから分かるように、明るいと感じるぼくは、もう思<sup>い</sup>笑<sup>い</sup>ていると自然に楽しいと感じる。この絵をぼくは、前向きな絵だと思<sup>い</sup>、これからも、がんばろうみたいな気持ち<sup>が</sup>伝わってくる。

明るいと感じた理由は、それだけではない。背景の色を見てほしい。色は、黄色と青だ。この色は、2つ合わせると、目<sup>の</sup>色だ。そして、黄色と青の境<sup>目</sup>をよく見てほしい。軽くスパッタリングがされている。ここから分かることは、黄色は明るい感じが分かる。クラクションが鳴<sup>り</sup>ていて、でもきれいだ。青も黄色とはちがって、少し不安などが見える。全体、明るいわけではない。不安もある。

そして、ここまできて思うことは、前向きだということだ。色つきのことから考えても、全体前向きではないけれど、それをふまえてきた自画像だとぼくは思<sup>い</sup>。

鑑賞文 児童名



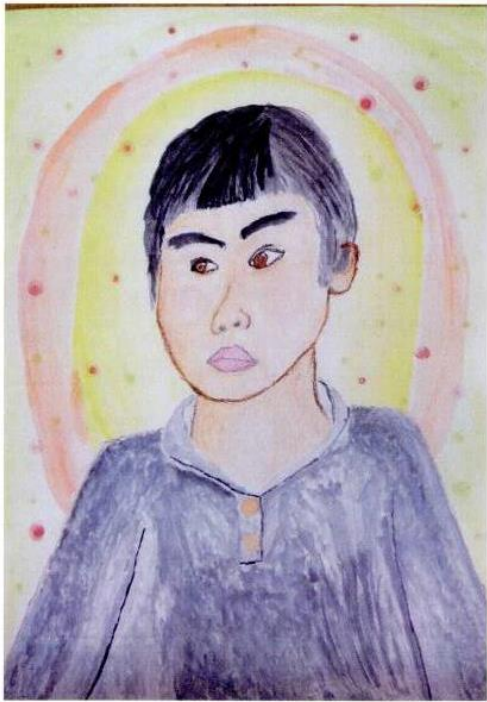
題名 今の自分  
作者 児童名

児童名 さんの自画像には、今の 児童名 の未来へ向けたやる気が表現されている。自画像の目線を見てみると、上の方を向いている。これは、未来に向けた、今の思いを描いているのだろう。

この自画像の背景の工夫に注目しよう。青色の背景の上に、黄色でスパッタリングをしている。全体にやらずに、自分の周りだけを、スパッタリングしている。これは、自分から出ている明るさが輝いているように感じられる。

背景の色に目を向けると、自分の周りをこくねって、囲んでいる。このようにして、自分の周りをこくねって、自分を立たせることで、堂々とした強い態度、やる気を見事に表現している。

鑑賞文 児童名



目の部分をよく見てほしい。視線は上を向いていて、顔は前を向いている。この顔の向きと、視線から自信があるように感じられる。きっとこれは、遠くの未来を見ていることを表現しているのではないだろうか。

そのことは、背景の色と模様からも分かる。絵全体を見ると、赤い色の点々がたくさんあり、視線を描いているように色もぬっている。そこから、自信があるだけでなく希望もたくさんあるということが伝わってくる。

児童名 さんはきっと、今の自分の気持ちやたくさん色を使って表現したのだろう。どんなことがあっても友達と乗りこえられるという印象を受ける。希望・自信があるような の自画像は、実に、見事である。

金監賞文  児童名

題名  自分

児童名



児童名 さんの自画像には明るさが見事に表現されている。人物の顔を見てみると、目が開いていて口が糸はられているように見える。このことからかんばってきたことが伝わってくる。

背景に注目してみよう。人物の周りは夕日のように濃くぬって、黄色のスパッタリングがかかっている。これは が明るくかんばってきたことを表したにちがいない。

背景のオレンジの部分をよく見てほしい。濃淡がはっきりと描かれている。これはいつも明るかったわけではなく、時には、悲しいこともあり明るさが小さくなることもあるのではないだろうか。しかし、それを乗り越えてかんばってきたのだろう。この自画像は の明るい自分とかんばってきたことが伝わってくる素晴らしい作品である。

鑑賞文  児童名

題名  12才の自分

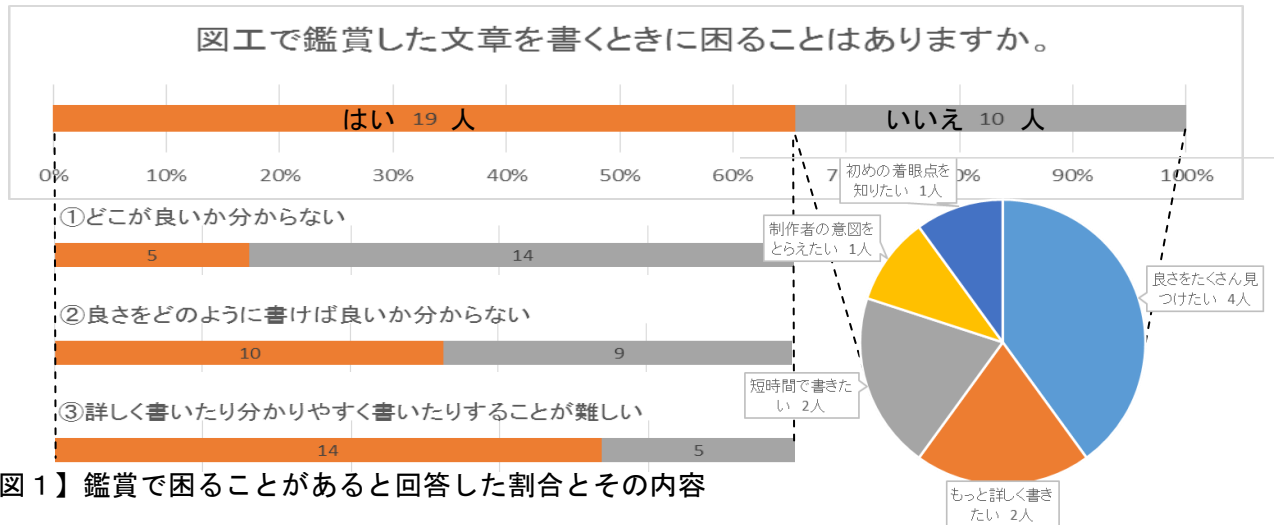
児童名



(5) 授業の検証

ア 児童への意識調査結果

(ア) 授業実践前 (N=29, 「図工の鑑賞についてのアンケート (平成 27 年 11 月 30 日実施)」による)

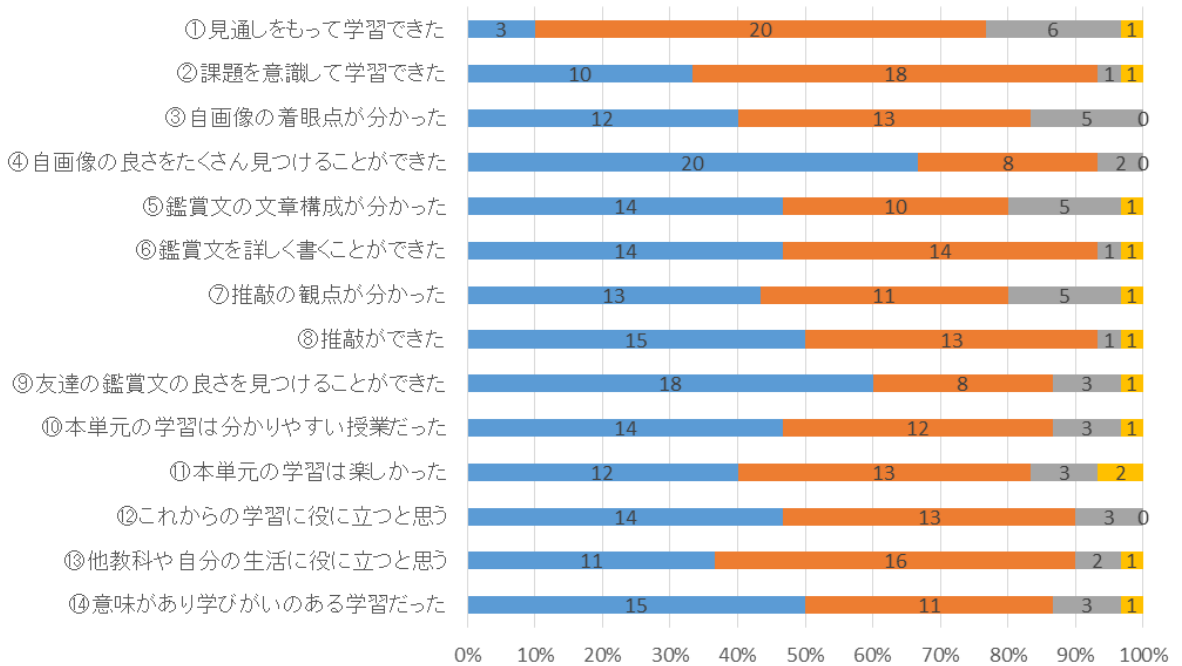


【図 1】鑑賞で困ることがあると回答した割合とその内容

【図 2】困らないと回答した児童ができるようになりたいと答えた内容

(イ) 授業実践後 (N=30, 「鑑賞文の学習アンケート (平成 27 年 12 月実施)」による)

■あてはまる ■だいたいあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない



【図 3】単元終了後に児童が回答したアンケート結果

【表 1】単元終了後の感想の分類

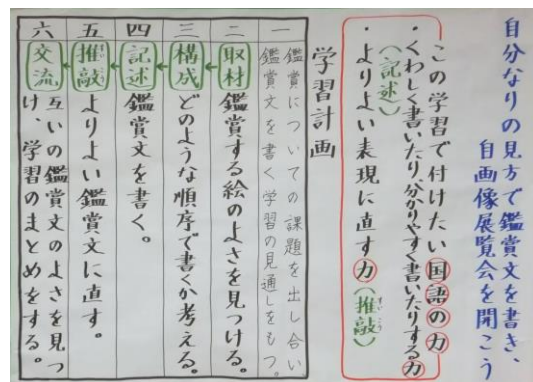
アンケート⑩の回答	記述内容	人数
「楽しかった」 (12 人)	友達の絵の良さをたくさん見つけることができた	17
	モデル文があって分かりやすかった	7
	着眼点が分かった	6
「どちらかと言えば楽しかった」 (13 人)	友達からアドバイスをもらったり、読み合ったりして楽しかった	5
	文章構成をしっかりと考えられた	4
	推敲の仕方がよく分かった	2
	見通しをもって学習できた	1
「どちらかと言えば楽しくなかった」 (3 人)	たくさん気を付けることがあって分かりにくかった	1
	文章を長くするために話題を付け足すところが楽しくなかった	1
	一度書いた文章を直すときに合っているかが分からなかった	1
「楽しくなかった」 (2 人)	文章と友達の絵の良い所を見つけることが難しかった	1
	自分は、鑑賞文を書くことが苦手だから	1



## イ 授業実践を通じた児童の意識結果と考察

### (ア) 「分かる授業」について

- 【図3】の⑩から、本単元は児童にとって分かりやすい授業であったと言える。その理由として、学習計画【図4】、学習課題、学習内容を明確にしたことが考えられる。
- 【表1】の記述にもあるが、モデル文を用意し、分析したことも、児童にとって分かりやすかった要因であると考えられる。



【図4】教室に掲示した学習計画

### (イ) 「できる授業」について

- 【図3】の③⑤⑦と④⑥⑧を比較すると、「着眼点」「文章構成」「推敲の観点」が「分かった」児童が80%程度であるのに対して、同じ項目について「できた」と答えている児童はいずれも90%を超えている。モデル文やグループ学習の効果により、鑑賞文を書くという技能は高まったが、一般化して説明できる知識としては定着していないことが分かる。
- 「できた」と回答した子どもが非常に多かった理由として、本研究の「VI研究の構想 1 研究についての基本的な考え方 (3)言語活動の充実を図る授業づくりについて イ『書くこと』領域における学習過程」に沿って単元を構想したことで、子どもの思考に沿った学習活動を組むことができたためと考えられる。

### (ウ) 「役に立つ授業」について

- 【図3】の⑫⑬⑭の回答は90%前後で、「役に立つ」と感じている児童が多いことが分かる。これは、児童の学校生活の中に位置付けている図画工作における鑑賞と本単元を関連させて実施したことが理由として挙げられる。児童の言語生活の中でのつまずきを出発点とした授業構想が、児童に有用感をもたせたものと考えられる。

### (エ) 「楽しい授業」について

- 【表1】の記述内容を見ると、「できた」「分かった」と感じている児童が「楽しい」と感じており、中でも「友達の絵の良さをたくさん見つけることができた」「友達からアドバイスをもらったり、読み合ったりして楽しかった」のように、友達とかかわりのある学習によって楽しさが膨らんでいることが分かる。
- 一方で、【表1】で「楽しくなかった」と答えた児童は、「分かりにくかった」「難しかった」と理由を述べており、今後、より分かりやすい授業の工夫が必要である。

## ウ 授業実践を通してのまとめ

### (ア) 鑑賞文のモデル文について

今回の実践では、児童が鑑賞文に馴染みが薄いため、モデル文を3つ作成した。構成や表現を意図的に変え、違いを分析する学習を通して、児童は、鑑賞文の構成要素をつかむことができた。その結果、児童が鑑賞文を書く際、モデル文をただ真似するのではなく、構成要素を生かしてその児童なりの見方を表現することができた。このことから、モデル文の数や内容、単元の中での使い方の重要性を考えさせられた。

### (イ) 推敲について

本単元では、推敲の力も付けたい力の一つとして位置付けていた。しかし、一度書いた鑑賞文を直す必要性をあまり感じない児童が多かった。誤字、脱字等の簡単な推敲はできたが、表現の工夫や内容についての推敲をするためには、今後、継続して指導していく必要がある。

### (ウ) 「書くこと」領域における学習過程について

児童は、鑑賞文に初めて取り組んだが、全員が書き終えることができ、自画像展覧会を開くことができた。記述までの指導を丁寧に行ったことで、どの児童も鑑賞文を完成させることができ、達成感や有用感を感じる単元になったと感じる。これからも、単元を構想することを大切にして、分かりやすく楽しい授業を目指していきたい。

2 研究協力員による実践授業の実際と検証⑤

- (1) 授業者 盛岡市立黒石野中学校 苫米地俊亮
- (2) 生徒 盛岡市立黒石野中学校 第1学年 138名
- (3) 実施日 平成27年10月13日～平成27年10月19日(全4時間)
- (4) 授業の実際 以下79頁まで

中学校第1学年単元構想表（光村；「項目を整理して伝えよう 案内文を作る」）

【生徒の実態】

【身に付けさせたい力】

<p>○1年生では、これまでに地元の名物の紹介文を書く活動を行った。盛岡市について観光客に紹介したい題材を選び、パンフレット形式にまとめた。その際、伝える相手や目的を明確にして情報を集めること、説明する観点を決めて情報を整理して記述することを学習した。</p> <p>○授業に対して意欲的で、書く活動にも積極的に取り組む生徒が多い。</p> <p>○文章を書く際には、その場の思いつきで書く生徒が多く、条件を理解して構成を意識しながら書くことが身に付いていない。</p>	<p>案内状を書く活動を通して、以下の2点を身に付けさせることを狙っていく。</p> <p>○伝える事柄に応じて、項目立てて内容を構成する力（B－イ）</p> <p>○伝える事柄について、自分の気持ちを根拠を明確にして書く力（B－ウ）</p>
---	---

【単元の言語活動】

多くの方に来てもらえるような行事の案内状を書く。

【言語活動の特徴】

本単元では、「街道の時間」（本校における総合的な学習の時間の取組の名称）で行った地域交流活動の報告会の案内状を書く活動を行う。多くの地域の方に来校してもらえるような案内状を書くことが目的となり、相手は町内会長を始めとする交流活動でお世話になった地域の方々である。

案内状の内容を「地域の方を行事に誘う内容」と「行事の概要」に分けて項目を立て、構成、記述を行う。書いたものは学校からの案内状と一緒に各地域に配布することで、生徒は具体的な目的をもって意欲的に活動に向かうことができると考える。

<p>1. 単元名 「街道の時間」活動報告会の案内状を書き、たくさんの方に来てもらおう</p> <p>2. 単元の見どころ 伝える内容を項目立てて整理しながら、自分の気持ちを明確にした案内状を書くことができる。</p> <p>3. 単元の評価規準</p> <p>【国語への関心・意欲・態度】</p> <p>☆目的や相手を意識し、わかりやすく伝える工夫をして案内状を書こうとしている。</p> <p>【書く能力】</p> <p>☆案内状を行事の概要と相手を誘う言葉に分け、項目立てて構成している。（B－イ）</p> <p>☆案内する内容について、自分の気持ちを根拠を明確にして書いている。（B－ウ）</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】</p> <p>☆読みやすい字の大きさを意識し、全体のバランスを整えながら読みやすく整った楷書で書いている。（伝国(2)ア）</p> <p>4. 教材 項目を整理して伝えよう 案内文を作る（光村図書）</p>
---

5. 単元の展開（全4時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・書・言）等
第0次		「街道の時間」活動報告会の開催を知り、発表の準備を行う。（総合的な学習の時間で行う）	
第1次	第1時	<p>1. 学習課題を設定する。 ○「街道の時間」活動報告会の案内状を書くことを知る。</p> <p>2. 単元計画を立てる。</p> <p>3. 案内状に書くべき情報を整理する。 ①案内状の行事の概要部分に必要な情報を「必ず必要な情報」「あると親切な情報」の二つの視点で考える。 ②あげられた情報を、項目立てて整理する。</p>	<p>関 案内状を書くという目的を理解し、活動に取り組もうとしている。</p>
第2次	第2時	<p>1. モデルの構成や表現を分析する。 ①小グループで教師の作成した案内状のモデル文を読み、分析する。 ②案内状の分析を全体で交流し、読み手が参加したくなる案内状の要素について検討する。</p> <p>2. 下書きをする。 ○モデル分析を活かして、案内状の下書きを行う。</p>	<p>○ 複数のモデルを示し、比較しながら考えられるようにする。</p> <p>関 目的や相手を意識し、わかりやすく伝える工夫をして文章を書こうとしている。</p> <p>書 案内状を行事の概要と相手を誘う言葉に分け、項目立てて構成している。</p>
	第3時	<p>1. 推敲する。 ○前時に書いた下書きを小グループで読み合い、アドバイスし合う。</p> <p>2. 清書する。 ○地域の方に直接届けるものであることを意識して清書する。</p>	<p>○前時に学習した内容を観点とし、お互いに良さを見つけさせる。</p> <p>書 案内する内容について、自分の気持ちを根拠を明確にして書いている。</p> <p>言 全体のバランスを整えながら読みやすく整った楷書で書いている。</p>
第3次	第4時	<p>1. 交流する。 ○書いた清書を読みあい、それぞれの良さを指摘しながら感想を交流する。 ・小グループで交流する。 ・全体で交流する。</p> <p>2. 単元の学習を振り返る。</p>	<p>関 表現の工夫や自分の文章との相違点を見つけたりしながら、友達の案内状を読もうとしている。</p>
第4次		<p>☆地域の方々に案内状を送る。</p> <p>☆活動報告会を開催する。</p>	



【第1時 単元の概要】

- 1 「これからの授業の流れ（全4時間）」
- ①学習内容、進め方を知る
  - ②案内状に必要な情報を整理する
    - ・ どのような情報があれば報告会に来ることが出来るか
  - ③報告会に誘う言葉を考える
    - ・ どのような内容があれば、報告会に来たくなるか
  - ④案内状の下書きをする
- 2
- ①グループで下書きを交流
    - ・ 四人グループで読み合っ、お互いに意見を交流する
  - ②清書をする
    - ・ 交流した意見を参考に、清書をする
- 3
- 清書をグループで交流
- 4
- 学習のまとめをする



○案内状

【表側】

黒石野中学校 「街道の時間」 活動報告会案内状	○○地区町内会の 皆さんへ
黒石野中学校 1年○組 黒石太郎	

【内側】

「活動報告会」に 来ることが出来る ようにするための 情報	「活動報告会」に 来てもらえるよう に誘う内容
--	-------------------------------

国語学習プリント

一年 組 番 名前

「街道の時間」活動報告会の案内状を書き、たくさんの方に来てもらおう  
 ↳ 構成や伝えたい事柄について、考えを明確にして案内状を書こう

【第1時 案内状に必要な情報の整理】

- ①どんな情報があれば報告会に来ることが出来るか、自分の考えを出そう
- 【絶対必要な情報】
- 開始時刻  
場所  
日  
地区（行き方）
- 【あると親切な情報】
- 報告会の主旨  
何グループあるか  
見どころ  
プログラム
- ②小グループで意見を出そう
- 【絶対必要な情報】
- 校内地図  
持ちもの（くつ）
- 【あると親切な情報】
- くつの置き場  
トイレの場所
- ③グループで出した意見を、全体で交流し、整理しよう
- 【絶対必要な情報】
- ④「報告会」に来ることが出来るようになるための情報の下書きをしよう

国語学習プリント

一年 組 番 名前

課題 地域の方が報告会に来るための情報を整理しよう

「街道の時間」活動報告会の案内状を書き、たくさんの方に来てもらおう  
 ↳ 構成や伝えたい事柄について、考えを明確にして案内状を書こう

【第2時 報告会に誘う文章のモデル分析】

「街道の時間」活動報告会 誘い文 モデル

1年 組 番 名前

モデルA (第 1 位)

こんにちは。黒石野中学校1年の一里塚花子です。8月の交流会では多くの方々にお世話いただき、ありがとうございました。その時の様子の報告会を行うことになりました。私達〇〇地区のグループでは、教えていただいたことを見に来て下さる人にわかりやすく説明する予定です。また、経験したことが伝わるように工夫して発表しようと思います。是非見に来て下さい。来ていただけるのを楽しみにしています。

良い所 自分たちの思いを書いている  
改善点 「予定です」→「あいましたから」  
交流会のお礼をしている 具体的なではない いらぬ

モデルB (第 3 位)

黒石野中学校1年の緑が丘次郎です。8月に行った地区交流活動の報告会を行うことになりました。それぞれの地区で発表を行い、活動の様子の交流をします。私達〇〇地区のグループでは、経験したことを模造紙に書いて説明したり、〇〇地区の方々と交流して作ったものを、実物を見せながら発表するつもりです。今はそのための準備期間中です。当日までにはしっかり完成させる予定になっています。

良い所 ぐくしく発表について紹介している  
改善点 打ていい文がある

※「行きたい」と感じる順に順位をつけて、良い所と改善点を探そう。

モデルC (第 2 位)

こんにちは。剣道部1年の黒石太郎です。8月の交流会では多くの方々にお世話いただき、ありがとうございました。その時の様子の報告会を行うことになりました。私達〇〇地区のグループでは、地区の歴史についてスクリーンに映像を映して紹介したり、教えてもらった郷土料理のひつまみの作りのコツについて実演をしながら発表する予定です。感謝の気持ちと〇〇地区の良さが伝わるよう発表しますので、お暇ならぜひ見に来て下さい。

良い所 とてもいいねに内容を書いている  
改善点 「中学校」がない  
所属部活だけでは伝わりません

モデルD (第 4 位)

こんにちは。黒石野中学校1年の高松美佳です。8月の交流会ではたくさんの方がきてくれてうれしかったです。今回、その時の報告会をすることになったから、よかったら来て欲しいです。私達〇〇地区のグループは、活動の様子を映像を使って説明したり、当日あったエピソードをおもしろい劇でやったりするから、楽しめると思います。工夫して発表するから、ぜひ見に来て下さいね。楽しみにしています。

良い所 発表の工夫を書いている  
改善点 「から」を使わずで文がおかしい

😊 ポイント  
\*感謝 \*具体的 \*丁寧さ

【第2時 案内状下書き用モデル】

平成27年10月 日

〇〇地区の皆さんへ

盛岡市立黒石野中学校1年  
黒石 太郎

「街道の時間」活動報告会について (ご案内)

寒露の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、「街道の時間」活動報告会を下記の通り実施しますので、ご多忙とは存じますが、是非ご来校くださいますようお願い申し上げます。

記

1

2

3

4

Blank form for writing the invitation details.

【第3時 案内状下書きを小グループで交流】

平成27年10月19日

黒石野地区のみなさんへ

盛岡市立黒石野中学校1年

字の大きさのバランスが  
いい

ついて(ご案内)  
はますます健勝のこ  
と、お喜び申し上げます。

さて、「街道の時間」活動報告会を下記の通り実施し  
ますので、「匆忙とは存じますが」是非「来校ください」  
お願いします。

記

1 期日 平成27年10月31日(土)

2 時間 13:30~14:20 (5校時)  
14:30~15:20 (6校時)

3 会場 黒石野中学校 多目的ホール(2階)  
黒石野中学校 第2音楽室(4階)

4 その他

(1)

(2) 見やすく書けていると思います

(3) ハリツい と、12月、1にいい

どんな内容の発表をするのか  
よくわからないから  
早くわしく！

こんにちは。黒石野

す。8月の交流会では多くの方にお世話いただき  
ありがとうございました。その時の様子の報告会を  
字がきれいでとても  
いいと思います。

黒石野地区のグルー  
たことを見に来て下さる

人にわかりやすく説明がもっと具体的な  
感謝の気持ちか  
ほうがいい

発表しようと思っています。是非見に来て下さ  
い。来ていただけるのを楽しみにしています。

行か あきすぎているので  
うめたほうが いい

【第3時 案内状下書き 外側】

平成27年度 黒石野中学校

「街道の時間」活動報告会 案内状

黒石野

地区の皆さんへ

黒石野 地区

1年 組 番 名前



【活動報告会 案内状】

平成27年10月19日

黒石野地区のみなさんへ  
盛岡市立黒石野中学校1年

「街道の時間」活動報告会について(ご案内)

寒露の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、「街道の時間」活動報告会を下記の通り実施しますので、ご多忙とは存じますが、是非ご来校くださいますようお願い申し上げます。

記

1 期日 10月31日(土)

2 時間 13:30~14:20(5校時)  
14:30~15:20(6校時)

3 会場 黒石野中学校  
多目的ルーム、第2音楽室

4 その他

(1)発表中はお静かにお願いします。

(2)くつはブルーシートの上に置いてください。

(3)ビデオや写真の撮影は可能です。

こんにちは。黒石野中学校1年の [ ] です。8月に行った街道の時間の地区活動では、たくさんの方にお世話いただき、ありがとうございました。10月31日にその時の様子の報告会を行うことになりました。私達黒石野地区のグループは、スクリーンに写真を映して紹介したり、模造紙に書いて説明したりする予定です。私のグループは第2音楽室で、ゲーム用品づくりについて紹介します。当日は、感謝の気持ちと黒石野地区の良さが見てくださっている方全員に伝わるような発表をしますので、お忙しいとは思いますが、是非、見に来てください。

平成27年10月19日

緑が丘ヒルズ地区の皆さんへ  
盛岡市立黒石野中学校1年

「街道の時間」活動報告会について(ご案内)

寒露の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、「街道の時間」活動報告会を下記の通り実施しますので、ご多忙とは存じますが、是非ご来校くださいますようお願い申し上げます。

記

1 期日:平成27年10月31日(土)

2 時間:13:30~14:20(5校時)  
14:30~15:20(6校時)

3 会場:多目的ホール または 第2音楽室

4 その他

(1)発表中は、電話等をマナーモードとし、できるだけ静かに発表をお聞かせください。

(2)くつは、生徒昇降口にしているビニールシートの上に置いてください。

(3)会場の位置は、右の

1階	2階	3階	4階
●	●	●	●

図をご覧ください。

こんにちは。黒石野中学校1年の [ ] です。8月の交流会では多くの方々にお世話いただき、ありがとうございました。その時学習した事の報告会を行うことになりました。僕達緑が丘ヒルズ地区のグループでは、地区の歴史や交流会での体験を材料にして4部に分けて発表するので、楽しみにしててください。

また、今回の体験学習が有意義なものとなったことを表現できるように工夫して発表するので是非見に来てください。みなさんに来ていただけるのを楽しみにしています。

平成 27年 10月 19日  
黒石野平地区の皆さんへ  
盛岡市立黒石野中学校1年

「街道の時間」活動報告会について(ご案内)

寒露の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。  
さて、「街道の時間」活動報告会を下記の通り実施しますので、ご多忙とは存じますが是非ご来校くださいますようお願い申し上げます。

記

1 期日・・・平成 27年 10月 31日(土)  
2 日時・・・5校時 13:30～14:20 6校時 14:30～15:20  
3 場所・・・多目的ホール・第二音楽室  
4 その他

(1) 内容・・・地区の活動力で学んだことを発表します。  
(2) くつをおく場所・・・昇降口にブルーシートがあるのでそこへおいてください。  
(3) 何階か・・・多目的ホールは3階の北校舎側で第二音楽室は4階の南校舎側のどちらかです。

こんにちは。黒石野中学校1年の [ ] です。8月の交流会では多くの方々にお世話いただきありがとうございました。その時の様子の報告会を行うことになりました。僕達のグループでは体馬廻したことをパソコンでプレゼンソフトを使ったり劇、実演の3つの役割を協力して発表する予定です。今はそのための準備期間中です。動きやセリフを当日までには覚えて完成させるつもりです。是非見に来て下さい。来ていただけるのを楽しみにしています。

平成 27年 10月 19日  
黒石野平地区の皆さんへ  
盛岡市立黒石野中学校1年

「街道の時間」活動報告会について

寒露の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。  
さて、「街道の時間」活動報告会を下記の通り実施しますので、ご多忙とは存じますが是非ご来校くださいますようお願い申し上げます。

記

1 期日 平成 27年 10月 31日(土)  
2 時間 13:30～14:20(5校時)  
14:30～15:20(6校時)  
3 会場 北校舎3階の多目的ホール  
南校舎4階の第二音楽室  
4 その他

(1) 昇降口から入ってすぐ、ブルーシートがありますので、そこにくつを置いてお入りください。  
(2) 駐車スペースがありませんので、車での来校はお控えください。  
(3) トイレは、各階のはじにあります。

こんにちは。黒石野中学校1年の [ ] です。8月の交流会では、多くの方々にお世話いただき、ありがとうございました。今回は、その時の様子の報告会を行うことになりました。私達、黒石野平地区のグループでは、町づくりのことをスクリーンを使って映像で説明したり、劇では AED を使って、救急救命を再現し、紙芝居ではさんさのことについて、紙芝居と一緒に実際に踊ったり、太鼓を使ったりしてあの時の踊りを再現します。お忙しいとは思いますが、お暇があれば、ぜひ、見に来てください。楽しみにしています。

「街道の時間」活動報告会の案内状を書き、たくさんの方に来てもらおう  
 ↳構成や伝えたい事柄について、考えを明確にして案内状を書く

○学習振り返り用紙

(評価) とても充実していた4 充実していた3 あまり充実していない2 充実していない1

学習日	学習活動計画	評価	感想
10/13	・課題を決める ・授業の計画を立てる ・情報を整理する	3	感想(楽しかったこと、わかったこと、よくわからなかったこと、頑張ったこと、頑張りたいことなど) ガルブでたくさん意見を出すことができた。必要な情報や親の情報を分かった。たし、次からもがんばりたい。
10/15	・報告会に誘う ・内容を考える ・下書きをする	4	報告会に誘うに内容には感謝や丁寧な言葉や具体的な内容を相手にの気持ちや伝えることが大切ということが分かりました。
10/16	・下書きを交流し、アドバイスをし合う ・清書する	4	下書きもしかりと完成させることができたし、アドバイスを相手にもしかりすることができてよかったです。
10/19	・清書を交流する ・学習のまとめをする	4	清書も交流してみても、みなとても良い内容を書いていたし、自分の案内状のためな所がわかったのが良かったです。

「街道の時間」活動報告会の案内状を書き、たくさんの方に来てもらおう  
 ↳構成や伝えたい事柄について、考えを明確にして案内状を書く

○学習振り返り用紙

(評価) とても充実していた4 充実していた3 あまり充実していない2 充実していない1

学習日	学習活動計画	評価	感想
10/13	・課題を決める ・授業の計画を立てる ・情報を整理する	3	感想(楽しかったこと、わかったこと、よくわからなかったこと、頑張ったこと、頑張りたいことなど) ガルブで、どのような情報が必要かを考え、整理することができました。見やすく、分かりやすい案内状になるように、いろいろな工夫ができるようにしたいです。
10/15	・報告会に誘う ・内容を考える ・下書きをする	4	相手が来なくなるには、気持ちを伝えること、会の内容を具体的に書くことが大切だとわかりました。もらってうれしい案内状にしたいです。
10/16	・下書きを交流し、アドバイスをし合う ・清書する	4	他の人の下書きを見て、たしかに気持ちのこもった案内状だと、行きたい気持ちになると思いました。字の大きさや間隔も大切だと思いました。
10/19	・清書を交流する ・学習のまとめをする	4	いろんな人の清書を見て、文の内容も、字のついでいぬいさも、どれも大切だと思いました。自分のにもたくさん意見をもらってよかったです。



(5) 授業の検証

ア 「書くこと」の学習に対する生徒の考え（授業前）

- ・静かに集中して文章を書くのは好き。
- ・書くことはわかるが、どう書けばいいかわからないことが多い。
- ・清書するのはプレッシャーがかかって苦手。
- ・工夫して書いたり、書いたものを読み合ったりするのは楽しい。
- ・字が下手なので、何を書いても上手に見えない。
- ・書くのはいいが、恥ずかしいので、できれば見られたくない。

イ 本単元学習後のアンケート結果

【表 1】アンケートの集計

N=138（単位%）

	質問内容	4	3	2	1
①	単元の見通しをもって学習することができた	8 6	1 4	0	0
②	この単元で取り組んだ社会に発信する活動は、自分のやる気につながった	7 5	1 7	8	0
③	項目を立てて内容を整理しながら書くと、わかりやすい文章になることがわかった	8 6	1 4	0	0
④	項目を立てて内容を整理しながら案内状を書くことができた	3 6	5 2	1 2	0
⑤	報告会に来てほしいという気持ちを伝える案内状を書くことができた	3 2	6 3	5	0
⑥	友達と交流しながら学習することで、学習内容がより理解しやすくなった	9 2	8	0	0
⑦	案内状を書く活動は楽しかった	3 1	6 0	9	0
⑧	この単元で学んだことは、将来役に立つことがあると思う	5 1	4 8	1	0
⑨	この単元のような社会に向けた活動を、今後の国語の学習でもやってみたい	3 4	5 5	1 0	1

4：あてはまる 3：だいたいあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない

ウ 本単元学習後の感想

- ・今回は案内状を書いて、地域の方々に発信することができたので、ポスターやアピールなど、これ以外の活動もやってみたい。
- ・私の地区では、「案内状を見て活動報告会に来たという人が10人もいた」と町内会長さんが言っていて、うれしかった。やってよかったと思った。
- ・普段の教室だけじゃなく知らない人にも見られるので、それなりに仕上げなければならなくて難しかった。でも、たくさんの方が来てくれてすごくうれしかったので、またこういう活動をしてみたいと思った。
- ・相手に伝わるように文章を考えるのは楽しかった。でも、清書をペンで丁寧に書くのは大変だった。
- ・工夫して文章を考えるのは好きだけど、字を書くのは苦手なので苦しかった。
- ・社会に出たときのために、今からいろいろ経験しておくことは必要だと思った。
- ・やり方を学習しながらも、自主的にいろいろ考えながら書く部分が多くて楽しかった。他の人の書いたのを読むのも楽しかった。

## エ 授業実践を通した生徒の意識について

### (ア) 「わかる授業」について

- ・生徒に「授業がわかる」と感じさせるための要素として、学習の見通しをもつことができるかどうかということは大きなポイントになる。【表1】①の結果を見ると、生徒は本単元の流れを意識しながら、見通しをもって毎時間の学習に取り組むことができたと言える。
- ・本単元では、毎時間、4人組の小グループで交流しながらの学習を取り入れた。【表1】⑤の結果から、少人数での学び合いが学習内容の理解の助けになったと感じていたことがわかる。

### (イ) 「できる授業」について

- ・授業前のアンケートから「どう書けばいいのかわからないことが多い」と考えている生徒がいることがわかった。本単元ではモデルの分析から、どのように書けば気持ちが伝わる文章になるのかを考えさせ、実際の自分の作文に生かす形で単元を進行した。その結果、【表1】③⑤からわかるように、目的に沿って文章を書くことができたと感じる生徒が多かった。しかし、【表1】③④の「あてはまる」と「だいたいあてはまる」を比較すると、わかったが書くことが十分にはできなかったと感じている生徒が多いことがわかる。

### (ウ) 「役に立つ授業」について

- ・授業で学んだことが実生活の中でどのように生かされるのかを意識させることは、これまでの国語の学習において大きな課題であった。本単元では学習を教室内で終わらせず、自分たちの住む地域という社会に向けて発信する形式をとることで、授業と実生活の結びつきを感じさせたいと考えた。【表1】②の結果を見れば、それが活動に対する意義を感じて取り組むことにつながったことがわかる。また、【表1】⑧から将来の役に立つと感じた生徒が多かったことも踏まえて考えれば、授業を社会に開いていくことは、授業に対する意欲を喚起することにつながると言えるだろう。

## オ 授業を通してのまとめ

- (ア) 本単元では、第1学年で1年間を通して取り組む「街道の時間」の活動報告会の案内状を書き、実際に地域の方々に届けるという活動を取り入れた。これにより大きく以下の2つの効果があったと感じられた。

- ① 社会に開いた活動にすることで、国語の授業で学んだことが実生活で生きることを実感することができた。
- ② 相手や目的を明確にした活動を行ったことで、意欲や緊張感をもって学習に取り組むことができた。事前のアンケートでは書くことが苦手だと答えていた生徒の中にも、事後には気持ちを伝えるために意欲的に取り組むことができたと答える生徒が多くいた。社会生活における有用感をもたせることが、学習意欲の喚起に有効であることが改めて感じられた。

- (イ) 事後アンケートで学習内容が理解できたと答える生徒が多かった一方で、それを生かして書くことが出来たと答える生徒の割合とは差があった。実際に書くことについては、1つの取り組みで終わらせることなく、今後も折に触れて振り返りながら、多くの活動を設定していくことで定着させていく必要がある。

## 2 研究協力員による実践授業の実際と検証⑥

- (1) 授業者 岩手県立紫波総合高等学校 熊谷 裕子
- (2) 生徒 岩手県立紫波総合高等学校 第1学年 39名
- (3) 実践日 平成27年12月7日～平成27年12月21日(全7時間)
- (4) 授業の実際 以下91頁まで

### 高等学校第1学年「国語総合」単元構想表（大修館；「詩 はる・あどけない話」）

#### 【生徒の実態】

- ・語彙が足りず、表現力が乏しいため文章を書く力が弱い。そのため、「書くこと」に抵抗がある。しかし、「書こう」とする努力を見せる。
- ・短歌、俳句の学習を行っており、俳句を創作し、紫波町の俳句コンクールに応募した経験がある。

#### 【身に付けさせたい力】

- 優れた表現に接して、その条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする力（B-エ）
- 文章の形態や文体、語句などを工夫して書く力（B-ア）

#### 【単元の言語活動】

写真を見て、連想した自身の心情を反映した詩を書く。

#### 【言語活動の特徴】

この単元は、詩を読み味わい、詩の形式や表現の特色を理解することから始まり、そこから自身で詩を創作することをゴールとして設定する。その際、自由に好きなように書かせるのではなく、さまざまな詩から学んだ表現技法を生かし、自身の心情をこめた工夫された詩を書くことをねらいとした。

言葉を選び、吟味し、心情を表現する力を身に付けさせるとともに、見た風景や事象を自身の体験や心情と結びつけて考える気持ちを養いたい。

1. 単元名 写真から連想した想いを詩で表現し、フォトポエムを作ろう！

2. 単元の目標 詩人の詩から、詩の構成や表現技法をとらえ、読み取った内容や形式を生かして自分の心情を込めた詩を書くことができる。

#### 3. 単元の評価規準

##### 【国語への関心・意欲・態度】

- ☆詩を書くという目的をもって、詩を読もうとしている。
- ☆読んだ人に伝わる詩を書くために、語句や表現を吟味している。

##### 【書く能力】

- ☆相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書いている。（B-ア）
- ☆優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。（B-エ）

##### 【読む能力】

- ☆文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むことができている。（C-ア）

##### 【知識・理解】

- ☆文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。（伝国イ(イ)）

4. 教材 「詩 はる・あどけない話」（大修館書店）

5. 単元の展開（全7時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（関・書・読・知）等
第0次		自分のお気に入りの写真を集める。	
第1次	第1時	1. 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2. 高村光太郎「あどけない話」を読む。 ①表現の仕方を読む。個人→全体 ②風景描写の中に込められた作者の心情を読みとる。全体 3. 授業の内容を元に会話型の詩を書く。	○一見すると、ただの風景描写や日常の会話だが、そこに作者の思いがあるのだということに気づかせる。 読表現から作者の心情を読み取れている。 ○「君は言った」という書き出しから、架空の2人を想像し、会話型の短い詩を書く。
第2次	第2時	1. 谷川俊太郎「はる」を読む。 ①構成を読む。 ②表現の仕方を読み、詩に使用される主な表現技法についてまとめる。 個人→全体 2. リフレインを用いて短い詩を書く。	○三連構成であり、すべて平仮名であること、リフレインや体言止めなどに着目させる。 関構成、表現について理解しようとしている。 ○テーマを「冬」としてリフレインを使用した詩を書いてみる。 書学んだ表現技法を使い、詩を書いている。
	第3時	1. さまざまな詩を読み、構成および表現技法を確認する。個人→全体 2. ここまでの学習を振り返り、中間まとめをする。	読さまざまな詩から表現技法を読み取れている。 ○教師が用意した様々な詩を読み、倒置法、体言止め、擬音語・擬声語などを確認し、まとめる。
	第4時	1. 教師の書いたモデルから詩の書き方（手順）を学ぶ。 2. 写真から連想するものをプリントに書き出す。 3. 構成を考える。 ・何連で何行くらいの詩にするかを考える。 4. 表現技法を選ぶ。 ・今まで学習した表現技法の中から自分が使いたい技法を選ぶ。	○これまでの活動で確認したことを踏まえ、どのようにしたら詩が作れるのか学ぶ。 ○あらかじめ自分の好きな写真を選ばせ、持参させる。用意できなかった生徒には教師が選んできたものを何枚か提示し、その中から選ばせる。 関写真から連想する心情を考えている。
	第5時	1. 記述する。	書構成と表現を考え、心情も交えて記述することができている。 書語句や表現を吟味している。
第3次	第6時	1. 書いた詩を推敲する。 ①グループで読み合う。 ②評価のポイントに従って相互評価する。 ③グループで出た意見を全体で発表する。	関評価のポイントをもとにお互いに評価している。
	第7時	1. 前時の話合いで出た意見をもとに推敲し、清書する。 2. 写真を組み合わせて、フォトポエムを完成させる。 3. 単元の振り返りをする。	○画用紙に写真と詩を書いて、フォトポエムを作る。 関出た意見をもとに推敲している。
第4次		☆教室に掲示し、誰でも見られるようにする。	



本時の目標

「あどけない話」を読んで、表現の仕方や「こめられた作者の心情を読み取る。」

あどけない話 高村 光太郎

智恵子は東京に空が無いといふ、  
ほんとの空が見たいといふ。  
私は驚いて空を見る。  
桜若葉の間に在るのは、  
切つても切れない  
むかしなじみのきれいな空だ。  
どんよりけむる地平のぼかしは  
うすもも色の朝のしめりだ。  
智恵子は遠くを見ながら言ふ、  
阿多多羅山の山の上に  
毎日出てゐる青い空が  
智恵子のほんとの空だといふ。  
あどけない空の話である。

本時の流れ

1. 詩を通読する。
2. 表現の仕方を読み取る。
3. 高村光太郎と智恵子の関係を学ぶ。
4. 詩の中にこめられた作者の心情を読み取る。
5. 会話型の詩を書いてみる。

\*どのような表現が使われているか？

会話型

自然・風景描写

色彩表現

日常のひとコマ

\*高村光太郎と智恵子

妻 智恵子(福島県出身)

結婚以前から彼等の死後

まで約三十年間彼等に関

する詩を書いた。(智恵子抄)

「あどけない話」

日常のひとコマ

↓智恵子への愛

↓故郷への想いをもつた詩

智恵子の悲しき

「学習した内容をもとに詩を書いてみよう!」 \*その1\*

「あどけない話」を学習して

「君は言った」の書き出しから、会話型の詩を書いてみよう!

友達や家族との身近な会話を思い出し出して書いたり  
架空の二人を想像して書いたり  
難しく考えずに、短くて良いので考えてみよう!

君は言った おやすみと。  
私も言った おやすみと。  
いつもその言葉が終わる  
なげない夜。



本時の目標

「はる」を読んで、構成と表現技法を学ぼう。

はる  
谷川俊太郎

はなをこえて  
しろいくもが  
くもをこえて  
ふかいそらが  
はなをこえて  
くもをこえて  
そらをこえて  
わたしはいつまでものぼってゆける  
はるのひとつき  
わたしはかみさまと  
しずかなはなしをした

本時の流れ

1. 詩を通読する。
2. 構成を読み取る。
3. 表現技法を読み取る。
4. 学んだ表現技法をもとに詩を書く。

\*構成\*  
**三連構成**

\*使用されている表現技法\*

○全と平仮名  
○あなたたか、優しい  
(春のあなたたか)  
○反復法 **リフレイン**  
↓同じ言葉や文をくり返し使うこと。

では、今日学んだことを  
ふまえた詩を書いてみよう！

「学習した内容をもとに詩を書いてみよう！」 \*その2\*

本時に学習した

を使って詩を書いてみよう！

テーマは「春」

冬の「リフレイン」を学ぼう！

「雪が降る...雪が降る...」を、言葉遊びを繰り返して、自由な詩を書いてみよう。

例\*

「雪が降る」  
なびなびと  
氷が光る  
さびさびと

「冬はかさかさ音がする  
落ち葉  
かさかさ  
お肌  
かさかさ」

「雪が降る」  
街の中、誰にでも  
雪が降る  
森の中、どこへでも  
雪が降る  
雪はどこへでも  
平等で純白なのだ

書いてみよう！

降り雪が  
今年も冬がきたと感じさせて  
降り雪が  
クリスマスを色とり  
降り雪が  
1年という長い月日を見送ってくれり  
また今年も  
雪降る季節が来たよ



国語総合 学習プリント(詩) 二

本時の目標  
様々な詩を読んで、表現技法を確認しよう。

色紙 金子みすゞ  
さよはさびしい曇空  
あんまり淋しくもり空

①文の最後が「曇空」、  
「くもり空」と名詞で  
終わっている。  
文の最後に名詞を置く  
ことを  
(**体言止め**)という。

暗いとはばにあそんでる  
白のお鳩の小さな足に  
赤やみどりの色紙を  
長くつないでやりましょう  
そして一しよに飛ばせたら  
どんなにお空がきれいでしょう

海の風景 堀口大寿  
空のせきばんに  
かもめがABCを書く  
海ははい色のまきばです  
白波はめんようの群れであろう

船が散歩する  
たばこを吸いながら  
船が散歩する  
口ぶえをふきながら

④文の順着をひっくり返し  
(本来は「たばこを吸いながら  
船が散歩する」)  
倒置法

- 本時の流れ
1. 詩を読み表現技法として  
何が使われているか考える。(個人)
  2. 使われた表現技法は何か確認する。(全体)
  3. 中間のふり返しをする。

土 三好達治  
蝶が  
蝶の羽をひいて行く  
ああ  
ヨットのやうだ

②蝶の羽をヨットに  
例えている。  
例えることを  
(**比喩**)という。  
その中で  
「ようだ」を使うものを  
(**直喩**)、  
使わないものを  
(**隠喩**)という。

③「せなかをおす」という言  
葉は夕日を(人間)のよ  
うに書いている。  
この技法を  
(**擬人法**)という。

夕日がせなかをおしてくる 阪田寛夫  
夕日がせなかを おしてくる  
まっかなうで おしてくる  
歩くほくらの うしろから  
でっかい声で よびかける  
さよなら さよなら  
さよなら きみたち  
ばんごはんが 待ってるぞ  
あしたの朝 ねすごすな

\* 詩の主な表現技法まとめ \*

表現技法	意味
リフレイン	同じ言葉や文をくり返すこと(反復法)
擬人法	人間以外のものを人間のよつに書くこと
倒置法	文の順番をひっくり返すこと
直喩	「ようだ」を使う比喩表現のこと
隠喩	「ようだ」を使わない比喩表現のこと
体言止め	文の最後を名詞で終わらせること
擬音語	ものが発する音を表したものを
擬態語	状態や感情などの音発しないものを表したものを

\* 中間まとめ \*

- 「1」までの学習を通して中間のふり返しをしましょう！
- ①あてけない話
  - ②はる
  - ③詩の表現技法を学び、何が理解できましたか？

いろいろの詩を読んで、たこさんの技法が使われしているというところから分りました。技法を使うことにより、詩が伝えたいことや詩の雰囲気がより伝わりやすくなります。自分も詩を書く際にも習った技法などを意識しながら書きたいと思っています。

次回からいよいよフォトポエムを書く準備をしていきます！



①写真から連想したこと(キーワード)

- 雪↓結晶
- 冬↓寒い
- 家↓ぬくもりの家族
- 木↓森の中

本時の目標

教師の書いたモデルを読み、詩の書き方を学び、構成シートを作成しよう。

本時の流れ

1. 詩の書き方を学ぶ。(全体)
2. 構成シートを作成する。(個人)
- ①写真から連想したことを書き出す。
- ②こめたい自身の心情を考える。
- ③何連構成にするか考える。
- ④どのような表現技法を使うか考える。
- ⑤どのようなエピソードにするか考える。

②こめたい自身の心情(想い)

寒い冬、雪の中家に帰ると、ストーブのぬくもりの家族のぬくもりがとってもあたたかいこと。

帰る家があるありがたみ。

③何連構成にするか

4連

④どのような表現技法を使うか

リフレイン↓「寒い冬も、各連の最初でくりかえす。

擬音語↓雪の降る音。

倒置法↓ごまればごごかご使う。

⑤どのようなエピソードにするか

家に帰る。↓夜

ストーブがあたたかい。

次回よいよ下書きです！

①写真から連想したこと(キーワード)

- 夕焼け↓茜色
- 雨上がり
- ↓濡ったアスファルト
- 大と散歩↓毎日一緒に歩くこと
- 大り大切な存在(君)

\*記入例\*

熊谷裕子の場合

\*\*構成シート\*\*

①文の設計図

②こめたい自身の心情(想い)

大と一緒にいられて幸せ。どんな時も共に時間を過ごせることの喜び。

大のことも、この時間も大好きであるという想い。

③何連構成にするか

4連

④どのような表現技法を使うか

リフレイン↓「君と歩く」をくり返す。

笑ったように↓直喩。

倒置法も使いたい！

⑤どのようなエピソードにするか

散歩する(夕方、雨上がり)

どんな時も一緒に歩いた。

夕焼け空に染まる↑まぶしい。

↓笑ったように見えた。

今日もこれからも一緒に歩く。



【第4時 教師の作成したモデルの詩】

国語総合 学習プリント(詩) ④

\*教師モデル\*

茜色の君

君と歩く  
夏も冬も  
晴れた日も雨の日も

君と歩く  
つらいときもかなしいときも  
茜色の空のもと  
いつも君は私の前に立って  
私に道を教えてくれる

空に染まる君の色が  
まぶしくて目を細めた  
そしたら君が  
笑ったように見えたんだ

雨上がり  
湿ったアスファルトをふみしめて  
今日も私は歩く  
茜色の君と

直喩

倒置法

リフレイン

【第5時 下書き】

国語総合 学習プリント(詩) ⑤

本時の目標  
前時に作成した構想シートをもとに下書きをしよう。

題名 ぬくもり

寒い冬  
しんしんと雪が降る中  
自宅へ帰る  
自宅へ帰ればストーブがたいてあり  
自宅のぬくもりを感じられる

寒い冬  
自宅へ帰れば家族がいる  
おがえり、たがいま  
何気ない言葉をかわす  
あたりまえの日々

毎日帰ることかできる家がある  
何気ない言葉をかわすことかできる家族がいる  
あたりまえのようであたしさえでない日々

私は帰る  
今日も明日も明後日も

\*工夫したところ\*  
擬音語、リフレイン、倒置法を使ったところ。

題名、名前を添えて100字以内で書こう。

\* 本時の課題 \*

お互いの詩を読み評価し、さらによくなるポイントを見つけてもらう。

\* グループワークの流れ \*

(1) 係を決める。

(2) 詩を読み合う。

① 時計回りに詩をまわし、読み合う。

② 評価のポイントを見ながら、仲間が作った詩を評価する。

(3) 意見交流する。

各自書いた評価を話し合う。

(4) 班の中で出た意見を発表する。

\* 係の役割 \*

**進行係** スムースに進める。

**記録係** グループ内の意見をまとめて記録する。

**原簿係** ものを集めたり、配ったりする。

**時計係** 話し合いの時間を決めて教えてあげる。

**発表係** グループの意見を発表する。

「L2L3すればさらに良い詩になるか？」

グループ内で話し合ったまとめは…

技法をたくさん使っていた。

リフレイン、倒置法、擬音語、写真と詩が合っていた。

印象に残りやすい言葉を使う。

名前	評価
<p>リフレイン、倒置法を使った。もう少し連玉増やすこと。</p>	<p>あたり前の良さを詳しく書いている。楽しく読むことができた。おかしなところがない。言葉が詩の中にある所が工夫している。リフレインあり。</p>

\* 評価のポイント \*

1. 写真と絵が合っているか
2. 心情がこめられているか
3. 表現技法を使っているか
4. 工夫が見られるか
5. おもしろいと感じたか

\* アドバイスする時の例 \*

「……」「……」があるが、こぼれつつ短くするとリズムがそのうち通じ。」

「……」「……」は倒置法を使うと印象に残りやすくなると思う。」

【グループワークで出た意見をまとめたシート】 (実物はA3判)

④メンバー名前 →

、言葉の表現を工夫する。

、表現技法をたくさん使う。

、リズムを良くすると印象に残りやすい。





ぬくもり

寒い冬

しんしんと雪が降る中

自宅へ帰る

自宅へ帰ればストーブがたいてあり

自宅のぬくもりを感じられる

寒い冬

自宅へ帰れば家族がいる

たたいま おかえり

何気ない言葉をかわす

あたりまえの日々

毎日帰ることができると家がある

何気ない言葉をかわすことが出来る家族がいる

あたりまえのようであたりまえでない日々

私は帰る

今日も明日も明後日も



【フォトポエムにつけた詩の解説】

わたしが作った詩の解説

★なぜこの写真を見て、「この詩を書いたのか」★

雪が降る中、木に囲まれている家の光が暖かさを感ぜられる色で、寒い冬に家へ帰ると感じることが出来るぬくもりについて書いた。

★こめた心情★

いつも何気なく過ごしている日々のぬくもりが好きで、あたりまえのように過ごしている日々を大切にしたいという気持ち。

★グループ活動を通して書き直したところ★

言葉の順番をいれかえた。  
おかえり 　　ただいま  
←  
ただいま 　　おかえり

★書いてみて感じたか★

【四の字】 Aでできた B だいたい C あまりできなかった D できなかった

1 写真と詩はあわせてよかったか A A A A  
2 心情をこめたことができたか B B B B  
3 表現技法を使えていたか C C C C  
4 工夫できたか D D D D  
5 書いてみるの感想

最後にまとめて終わらせるのが大変だった。

【本時の振り返り】

国語総合ワークシート  
「フォトポエムを作ろう！」  
生徒の名前

★学習計画(学習の流れ)★  
まずはお気に入りの写真を準備しよう！

単元の学習課題  
詩の講成や表現技法をとりえ自分の心情をこめた詩を書く。

①「あおけない話」の学習  
②「はひ」の学習  
③表現技法と詩の書き方の学習  
④⑤詩を考え、書く！  
1. 写真を元で連想するものを書き出す  
2. 構成と表現を考える  
3. 下書きをする  
⑥下書きを読み合う(グループ)  
1. 推敲する  
2. 清書する  
⑦グループで交流する  
1. 代表を決める  
2. 代表者が発表する  
まとめ単元の振り返りをする

⑦	⑥	⑥	④	③	②	①	評価
(2月 21日)	12月 16日	12月 15日	12月 14日	12月 10日	12月 9日	1月 8日	
A	A	A	B	A	A	B	
<p>身についてた(学習で理解できた)と 詩はあまり読んだことはなかったのが俳句などは長文で詩の内容が分かりやすく、深いなと思いました。詩にもいろいろな技法があるくり返りリフレインという技法を使っ2つ書くことか歌の歌のかしにも使われていることも知りました。皆さんの詩を読んだ今まで出たことなかった技法について学習した、知っていたものもあつたけれどさらに覚えたい構成シートを書いたが、連想したことは書きやすけれど心算やエピソードなどは書きにくく難しい。詩を考えた最後まがけ書けたけどもう少し考えたいと思えました。一連はうまくいけたけど二連目を工夫したい。みんなの詩を見ておかえりなどの言葉を使ったのが印象に残ります。いいと思った。意見、悪い意見も2つあった。詩の説明と紙には2つたくさん感想を書いた。説明では分かりやすく書けたのがよかったです。</p>							

完成おつた様!?

よく考えられていて 写真を見た自分の感想はコメントにする? good



【単元の振り返り】

国語総合ワークシート  
「フォトホームを作ろう」写真から連想した想いをもとに詩をつくる

生徒の名前

\*単元の振り返り  
今までの学習してきた単元の内容を思い返し、自分の学習を振り返ってみましょう。

\*数字「〇」を記入してください。  
4...あてはまる...だいたいあてはまる...あまりあてはまらない 1...まったくあてはまらない

① これからは何をするか見通しをきめて学習することができた。	4	3	2	1
② 何ができるかいついかなればよいかをきかんで学習することができた。	4	3	2	1
③ 単元や今日の課題を意識して学習することができた。	4	3	2	1
④ 何がわかったか、何が大事だったか説明できた。	4	3	2	1
⑤ 今回学んだことは国語以外の学習に役立てることができた。	4	3	2	1
⑥ 今回学んだことは国語以外の教科でも役立てることができた。	4	3	2	1
⑦ 今回学んだことは自分の将来に役立つ大切なものとなった。	4	3	2	1
⑧ 今回の学習は自分にとって意味のあるものだった。	4	3	2	1

\*最後にこの学習を通しての感想を書いてください。  
(何がわかったか、何がわからなかったか、自分の中で変化はあったか、何がおもしろかったか、など)

この詩の学習では、最初から、どのようなテーマで詩を作るかというところから自分で考えて始めるものばかりで、構成を考えたり、どんな表現を使っていくか悩むことが多かったです。しかし、途中のグループでの意見交換など、友達からのアドバイスをもらったり、何れ何れ使った詩は中々り出来になったと思えます。

友達との詩を読み合っても、自分と違った詩の作り方が見れて楽しかったです。

交流を通して自分の詩を見つめ直したのですね！

(5) 授業の検証

ア 詩に対する授業前の考え

- ・詩は過去の国語の授業でたくさん学び、印象に残っている詩もたくさんある。
- ・詩は読んでも書いた経験はない。
- ・国語の授業以外で詩を読もうと思ったことはあまりない。
- ・詩を読んでもそれが自分の生活に役に立つと思ったことはない。

イ 単元学習後の生徒の振り返り

【表 1】生徒の回答の集計

N=39 (単位%)

⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	質問内容
46	52	36	51	26	61	56	43	あてはまる
49	38	43	43	59	36	41	54	だいたいあてはまる
3	8	5	5	13	0	2	2	あまりあてはまらない
2	2	2	2	2	2	2	2	まったくあてはまらない

ウ 単元学習後の生徒の振り返り（生徒の自由記述より）

(ア) 表現技法について

- ・中学校の時には理解しきれなかったものを理解することができた。
- ・表現技法を使うと詩の表現の幅が広がることがわかった。
- ・表現技法の種類は理解できても、うまく取り入れて詩を書くということが難しかった。

(イ) 詩を書くことについて

- ・構成を一から考えて書くことが難しかった。
- ・最初は何も思いつかなかったが、連想する言葉を考えたときに自然に言葉が出てきてよかった。
- ・詩を書く経験は初めてだったが、意外とおもしろかった。

(ウ) グループワークについて

- ・自分で良いと思っても周りの人の意見によって直したいところが出てきて勉強になった。
- ・他の人の詩を読んで視点や考え方がそれぞれ違っていておもしろかった。
- ・良いところを見つけることは簡単だったが、アドバイスできる場所を探ることが難しかった。

エ 授業実践を通した生徒の意識について

(ア) 「分かる授業」について

- ・生徒自身が見通しをもって学習に取り組めるよう、随時課題を提示した。【表1】の①～③の結果を見ても、見通しをもって学習や活動をできていたことがわかった。
- ・詩を書く活動の前段階である表現技法の確認では、「中学生の時には理解できなかったが、この単元の学習を通してできるようになった」という意見が多く見られた。
- ・【表1】の④の結果から、何が分かったか自信をもって言える生徒が少ないことがわかる。学習する内容が多かったため、要点をまとめていくことが今後の課題である。

(イ) 「できる授業」について

- ・あらかじめモデルとなるものを提示したため、何をどのように書けばよいかイメージをもつことができ、前向きに取り組んでいた。
- ・普段の授業で意欲的に取り組めない生徒の中にも「今回の授業は楽しい」と答えた生徒がいた。「難しかったけれど、何とか書けた。」「工夫して書いてよかった。」という自由記述もあり、「自分でも詩を書けた」という思いから授業を楽しみと感じたのだと考えられる。

(ウ) 「役に立つ」授業について

- ・【表1】の⑦⑧の結果から、生徒たちは「普段あまりなじみのない詩が自分にとって大切である」と感じていたことが分かった。自由記述の中に「言葉を吟味し組み合わせることが難しかったが、この力は作文などにも使えると思った」という意見もあり、詩の学習で習得した力を今後にも生かそうとする姿勢が見られた。
- ・「あまりあてはまらない」と答えた生徒もいることから、詩を書くという活動は日常的に行うものではないため、普段の生活や学習に結びつけられないという生徒もいたことが分かる。単純に「詩を書く力」ではなく「書く力」として意識させ、今後の国語の学習や他教科の学習と結びつける必要があった。

オ 授業を通してのまとめ

(ア) 初めに、中学校までに学習した詩をいくつかあげさせたが、その際に、「懐かしい！」「やったやった！」という声が多く聞かれた。詩について興味をもたせることができた。興味・関心が意欲に大きく影響する生徒たちであるため、中学校までの学習を振り返らせることが重要な役割であると感じた。

(イ) いきなり詩を書くのではなく、少しずつ短い詩を書かせたことで、初めは苦手意識をもっていた生徒も次第に書くことに抵抗がなくなっていく様子が見えてきた。「自分でもできる」という気持ちをもたせることが必要であると実感した。また、言葉を選び吟味する楽しさもあったようだ。

(ウ) 写真について、初めは教師が提示してそれをもとに書かせる予定だったが、生徒自身が気に入ったものを選び持参する流れに変更した。生徒は自分の選んだ写真であったため、連想する言葉をたくさん出すことができていた。また、心情も込めやすかったため、生徒に選ばせることにして良かったと思う。

(エ) 今回の授業で、「推敲の仕方」は詩だけでなく今後の学習にも使えるポイントだと考え取り組ませたが、教師の提示した「推敲するための評価の観点」があいまいであったため、生徒がアドバイスするポイントを見つけられず難しいと感じていた。ポイントを絞りそれを明確に生徒に指示し、理解させてから行うべきだった。



2 研究協力員による実践授業の実際と検証⑦

- (1) 授業者 大船渡市立大船渡北小学校 芳賀 雅之
- (2) 生徒 大船渡市立大船渡北小学校 第4学年 26名
- (3) 実践日 平成27年11月4日～平成27年11月19日(全7時間)
- (4) 授業の実際 以下101頁まで

小学校第4学年単元構想表（東京書籍；「クラスで話し合おう」）

【児童の実態】

【身に付けさせたい力】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「案内係になろう（4年上）」の学習では、問い合わせに対して、最低限の必要な内容を答えることはできていたが、役立つ情報など相手の立場に立った内容で答えることができた児童は少なかった。</li> <li>・「メモの取り方をくふうして聞こう（4年上）」の学習では、ほとんどの児童が箇条書きや記号などを使って短くメモを取ることができるようになってきた。ただ、説明の内容が長くなると、メモに気を取られすぎて、大事なことを落としてしまう児童も見受けられた。</li> <li>・学級会などでの話し合い活動では、自分の意見を発表できる児童が限られている。また、話し合いの進行が苦手な児童も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○司会者                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話し合いの進め方」に沿って進行する。</li> <li>・「話し合い」では、出てきた意見を整理したり、議題からそれないように注意したりする。</li> </ul> </li> <li>○提案者                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員がよく分かるように提案した理由を説明する。</li> </ul> </li> <li>○記録者                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・出された意見や決まったことを正確に記録する。</li> </ul> </li> <li>○参加者                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いでは、進行に沿って話し合う。</li> <li>・発言する時は、他の人の発言をよく聞いて、議題に沿って発言する。</li> <li>・聞く時は、自分と友達の意見の共通点と相違点を考えながら聞く。</li> </ul> </li> </ul>
---	---

【単元の言語活動】

話し合いでの役割を理解して、司会者、提案者、記録者、参加者（質問や意見）のワザ（方法）を使って話し合う。

【言語活動の特徴】

本単元で学習する司会者、提案者、記録者、参加者（質問や意見）のそれぞれの役割を理解し、ワザを使って話し合い活動を行う。

1. 単元名	クラスで話し合おう
2. 単元の目標	司会者、提案者、記録者、参加者というそれぞれの役割を意識しながら、議題に沿って話し合うことができる。
3. 単元の評価規準	<p>【国語への関心・意欲・態度】</p> <p>☆自分の役割を意識して、話し合いをよりよく進めることに意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>【話す聞く能力】</p> <p>☆話し合いの目的や進め方をとらえ、互いの考えの共通点や相違点を考えて、司会や提案者、記録者、参加者などの役割を意識して、議題に沿って話し合っている。（A－オ）</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】</p> <p>☆言葉には、考えたことや思ったことを表したり伝えたりする働きがあることに気づいている。（伝国イ（ア））</p>
4. 教材	「クラスで話し合おう」（東京書籍）

## 5. 単元の展開（全7時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（ <b>関</b> ・ <b>話聞</b> ・ <b>言</b> ）等
第0次		学級で話し合いたいことを自由に投函できる議案箱を設置し、その中から事前に議題を選べるようにしておく。 （話し合いのグループは、それぞれの議題に対する意見を勘案して、事前に決定する。）	
第1次	第1時	○普段の話し合いの様子を振り返る。(25分) ○教材文を読み、この単元でのねらいを確かめ、学習計画を立てる。(15分) ○話し合いの議題について、確かめる。(5分)	○話し合いの様子をビデオ撮影しておき、導入時にビデオから普段の話し合いの様子を振り返る。 <b>関</b> 今までの話し合いを振り返り、この単元で役割を意識して話し合うことに意欲的に取り組もうとしている。 （観察・発言）
第2次	第2時	○教科書 P42 を読み、話し合い活動の進め方と役割を確かめる。(10分) ○「島村さんのクラスの話し合い」を役割分担して読み、それぞれの役割ごとに気づいたことや必要なことなどをまとめる。(35分)	○司会、提案者、記録者、参加者のそれぞれの役割があることを確かめる。 ○議題ごとの役割分担は、事前に決定しておく。 <b>話聞</b> 話し合いの進め方と、話し合いに必要な役割を理解している。(発言・ワークシート)
	第3時	○役割ごとに集まって、話し合いのワザ（方法）をまとめる。(20分) ○役割ごとにまとめたワザを、全体の場で共有する。(25分)	○それぞれの役割ごとに、話し合い活動でのワザ（方法）を考えさせ、まとめさせる。 ○どの役割でも対応できるように、まとめたことを全体の場で確かめ合う。 <b>話聞</b> それぞれの役割に応じたワザを考え、まとめている。 （発言・ワークシート）
	第4時	○それぞれの役割ごとに、話し合いのための準備をする。(45分)	○進行の仕方や提案の仕方、自分の意見をまとめるなど、それぞれの役割に応じた、話し合いのための準備を行う。 <b>話聞</b> 自分の役割について、話し合うための準備ができている。(ワークシート)
	第5時 ・ 第6時	○本時の見通しをもつ。(5分) ・前時想起 ・学習課題の確認 ・本時の見通し ○課題を解決する。(35分) ・話し合い活動（グループ） ・振り返り（グループ） ・交流（全体） ○本時の学習を振り返る。(5分) ・振り返り（個人）	○前時までまでにまとめた話し合いのワザを使って、話し合いを行う。 ○議題に対する提案を短冊に書き、提示しながら発言することで、視覚的に見えるようにする。 <b>話聞</b> 自分の役割を意識しながら、司会の進行に沿って話し合っている。(発言・行動観察)
	第3次	第7時	○話し合いの様子を振り返る。(20分) ・役割のワザについての振り返り（個人） ・交流（全体） ○今後の話し合い活動で気を付けたいことを発表する。(20分) ・交流（全体） ○単元の学習を振り返る。(5分) ・実用的なワザについてまとめる（全体）
第4次		○この単元では設定しない。	

【第1時 これまでの話し合いの振り返り】

○クラスで話し合おう No.1

名前)

課題

これまでの話し合いを振り返りこの単元での学習内容をたしかめよう。

☆ 普段の話し合いの様子を振り返って記入しよう。

① 良いと思うこと

《司会》 しっかりと聞く声で発言していた

《発言》 しっかりと聞く声で発言していた

② かいぜんした方がいいと思うこと

《司会》 ・途中で止まっているところがあった

《発言》 ・ほとんどが同じ人が手をあげていた

本単元での学習のゴール

話し合いを論じてそれぞれの役わりの役割を覚えよう

☆ 話し合いに必要な役割

司会、提案者

記録者、参加者

○クラスで話し合おう No.2

名前)

課題

話し合い活動での進め方と役割をたしかめよう。

☆ 話し合いの進め方

① 議題をたしかめる

② 意見を出し合う

③ それぞれの意見についてしつ問する

④ それぞれの意見について話し合う

⑤ 意見をまとめる

☆ それぞれの役割をたしかめよう。

○司会者

議題をたしかめる  
意見をまとめる  
話し合いを進める

○提案者

議題を分かりやすく提案する

○記録者

出された意見などを記録する

○参加者

話し合い活動にやるかする(しつ問や意見を出す)

【第2時 話し合い活動の進め方と役割を確かめる】



課題

役割ごとの話し合いのワザを  
よこめよう

【ワザ】とは・・・話し合いをスムーズに行うためのやり方(方法)

☆

提案者

のワザ(方法)

① 議題をたしかめる。

理由を言う



② 意見を出し合う。

③ それぞれの意見について、しつ問する。

④ それぞれの意見について、話し合う。

⑤ 意見をまとめる。

【提案者のワザ】

【提案者のワザ】

☆提案することと理由を分かりやすく話す。

☆まず、結論(提案内容)を先に言う。(ワザ)

(私は〜のために、〇〇をするということを提案  
します。)

☆次に、理由を説明する。(ワザ)

(理由は、〜だと考えたからです。)

・例を挙げて(例えば、…)

・順序を考えて(まず、次に、そして、…)

※ 考えが伝わるように、分かりやすい言葉を使  
って説明する。

## 【提案のある話し合いの進行】

### 1 議題をたしかめる (約1分)

☆これから〇〇について話し合いを始めます。

☆話し合いの進め方を確認します。(ウザ)

始めに、提案者から議題に対する意見を提案してもらいます。次に、

### 2 提案について質問する (約3分)

☆〇〇さん、提案をお願いします。

☆〇〇さんの提案に質問はありませんか。

(よく分からないことやよくわしく聞きたいことなどを質問してもらう。)(ウザ)

※ 司会者や記録者が質問してもよい。

### 3 提案についての意見を発表する (約5分)

☆〇〇さんの提案について、それぞれの意見を発表して下さい。

(一人ひとりが賛成、反対の立場をはっきりさせて、その理由もつけ加えさせる。)(ウザ)

※「反対」の立場の人には、自分の意見も発言させる。(ウザ)

※(出ないと思ったら、出された意見をたしかめる。)(ウザ)

### 4 出された意見について、話し合う (約5分)

☆出された意見について、良い点や問題点を話し合います。まず、△△という意見については、どうですか。

(良い点や問題点をさせます。)(ウザ)

(同様に出了された意見について話し合う。議題にそって話し合うようにする。)(ウザ)

※ 意見が出ない場合(ウザ)

○わたしは、△△という意見について□□と思うのですが、うさんはどう思いますか。

※ 賛成や反対だけをいう人には、理由もたずねる。(ウザ)

### 5 意見をまとめる (約1分)

☆△△がいいという意見が多く出ましたね。

☆では、〇〇という議題については、△△をするということでもいいですか。

☆これで、話し合いを終わります。

※1 間があかないように進めよう。

2 みんなに聞こえる声で進めよう。



# 【記録者のワザ】

1

## 議題をたしかめる

- ☆議題（話し合いのテーマ）
- ☆司会、提案、記録の記名
- ☆提案内容（理由もかん単に）

2

## 提案について質問する

- ☆提案された意見（かん単に）
- ☆提案された意見への質問の回答（かん単に）
- ※ 短い言葉にしたり記号を使ったりするなど素早くメモをとる（ワザ）

3

## 提案についての意見を発表する

- ☆賛成、反対の数をチェック（ワザ）
- ☆反対の場合の意見（かん単に）
- ※ 短い言葉にしたり記号を使ったりするなど素早くメモをとる（ワザ）

4

## 出された意見について話し合う

- ☆参加者の意見のチェック（賛成か反対か）（ワザ）
- ☆良いという意見のチェック（ワザ）

5

## 意見をまとめる

- ☆最終的に決まった意見（結論）を記録する
- ※ よゆうがあれば、なぜその意見がいいのかという理由も付け加えておく（ワザ）
- ※ 1 記録者は、司会者の補助も行う。（司会者がこまった時に、手助けをする。）
- 2 記録者は、意見や質問があれば、参加して発言して良い。



## 参加者のワザ

2

### 提案について質問する場面で：

☆よく分からないことやよくわしく聞きたいこと、知りたいことなどを質問する。(ワザ)

※ 質問の回答がよく分からないと思ったときは、もう一度聞き返す。

3

### 提案についての意見を発表する場面で：

☆まず、「賛成・反対」の立場をはっきりさせる。

(わたしは、○○という提案に賛成です。)

☆次に、理由をつけ加える。(ワザ)

(理由は、だからです。)

・例をあげて(例えば、…)

※ 自分の意見があれば、つけ加えて発言する。

(ワザ)

4

### 出された意見について話し合う場面で：

☆出された意見について、良いと思う点や問題点を  
出し合う。(ワザ)

☆友達のことを聞いて、「良い」と思ったら受け入れる。

☆立場を明確にしながらかつ話す。(賛成、反対など)

☆議題にそって、最も良いと思う意見を考える。

(○○の意見を聞いて、△△と思った)

(○○と□□の意見を合わせて、◇◇にしてはどう

か)など

※ 賛成か反対かでまよった時(ワザ)

(自分が実際にできるかどうかを考える。)

(その意見で困る場合がないか考える。)

※1 進んで発言しよう。(3回以上)

2 反応しながら話し合いに参加しよう。

【第5・6時 話し合い活動（話し合いグループ）】

○クラスで話し合おう No.4 名前( )

課題  
話し合いを通して司会者と参加者の必要なワザや新しいワザを見つけよう。

(D) グループ  
自分の役割《参加者》

議題【みんなが楽しめるようなお祭りにしたいならどんな内容がいいか】  
議題に対する提案

ビュンゴをする

出された意見

時間を決めてやる

《自分の立場》

替り成

《理由》

そうすればたぶんみんながルールを知っていると思うので楽しくすることができると思います。

《自分の意見》

まとめ

室内でゲームをする

振り返り1 《話し合い活動を通して》

【自分の役割でうまくできたことやうまくできなかったことを書きましよう。自分から意見を言えたので良かったです。】

振り返り2 《ワザについて》

【今後使っていきたいと思ったワザ、授業を通して気づいたこと、もっと知りたいこと、疑問など気づいたことを書きましよう。】

よく分からないことを質問する。

自己評価 (○○○)

①自分の役割ができたか。

②話し合いのワザを利用できたか。

③スムーズな話し合いに協力できたか。

○○○

【第5・6時 話し合い活動（モニタリンググループ）】

○クラスで話し合おう No.5 名前( )

課題  
話し合いを通して司会者と参加者の必要なワザを見つけよう

☆ 「話し合い」の様子をモニタリングし、ワザについて気づいたことをまとめよう。

② 回目 《A》グループ

① 司会者・記録者

《必要なワザ》  
話し合いの進め方をかくにしている。

《新しく考えたワザ》  
司会者がこままっている時記録者が教えていた。

② 提案者・参加者

《必要なワザ》  
けつろんを言っている

《新しく考えたワザ》

③ 話し合いをモニタリングしての感想（グループの話し合いの様子から）  
間が合っていた。

。声が小さかった。

。司会者がはっきりした声で言っていた。

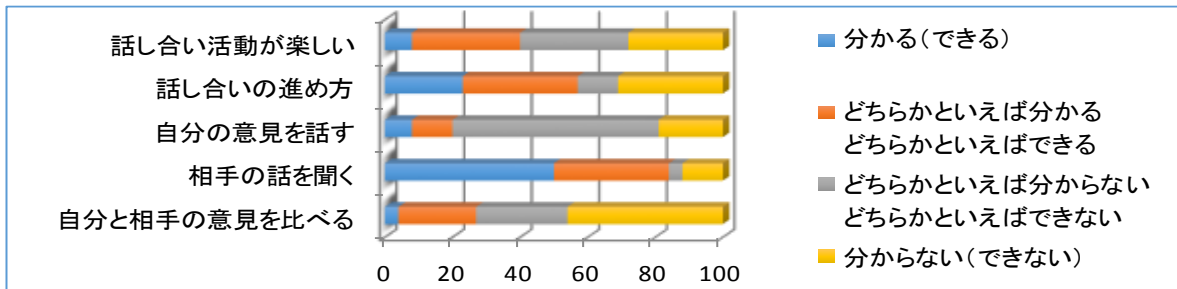
振り返り2 《ワザについて》

【今後使っていきたいと思ったワザ、授業を通して気づいたこと、もっと知りたいこと、疑問など気づいたことを書きましよう。】  
司会者がこままっている時記録者が教えているのを、よく聞いていました。

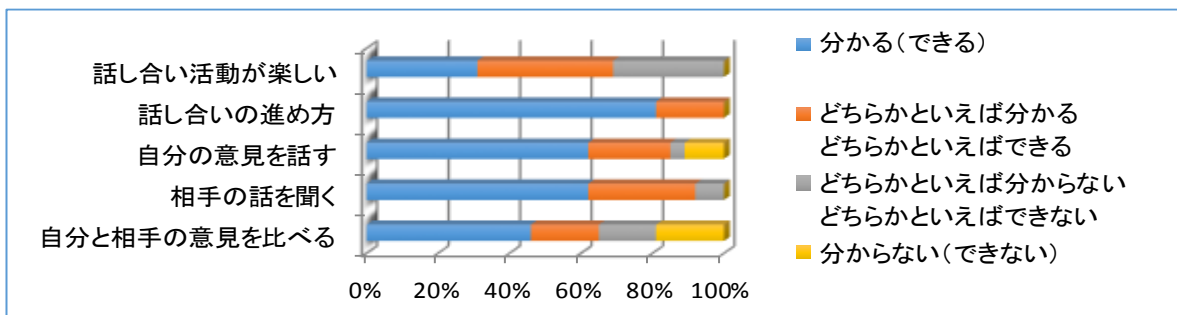
(5) 授業の検証

ア 児童の意識調査から

(ア) 授業実践前「話す・聞くアンケート結果(平成 27 年 10 月実施)による」 N=26



(イ) 授業実践後「話す・聞くアンケート結果(平成 27 年 11 月実施)による」 N=26



(ウ) 授業後に実施したアンケートの記述内容 N=26(複数回答)

項目	記述内容	記述数
話し合い活動で学んだこと	役割ごとの様々なワザ	17人
	意見が出ないと司会者が大変だということ	2人
	立場を明確にすること	2人
	意見をまとめること	2人
	司会者は間をあげないような進行をする	1人
	話し合いの仕方	1人
	参加者は進んで発言すること	1人
話し合い活動で難しかったこと	話し合いが止まらないように意見を出すこと	7人
	意見をまとめること	3人
	ワザを使うこと	2人
	意見を出すこと	1人
	意見を比べること	1人
	問題点を話し合うこと	1人
単元での学習を通しての感想	これからもワザを使っていきたい	8人
	新しいワザを考えることができてうれしかった	2人
	以前よりも話し合いを進められるようになった	2人
	司会者の役割が難しい	2人
	楽しかった	1人
	もっと話し合いをしてみたい	1人
	他の教科でもやってみたい	1人
	意見をまとめられた	1人

(エ) 授業実践を通じた児童の意識について

① 話し合い活動について

- ・「楽しい」と答えた児童の割合は、8%から31%に大幅に増加した。「どちらかという楽しい」と答えた児童の割合を合わせても、40%から69%と増加し、半分以上の児童が話し合い活動を楽しいと実感することができた。
- ・(ウ)の記述を見ると、学んだことの中で、「役割ごとのワザ」をあげる児童が半数以上いた。ワザを意識して話し合いに参加することで、話し合いの中での自分の立場を明確にして話し合うことがで



きた結果であると考えられる。1回目よりも2回目の方がスムーズな話し合いになり、意見も多く出されるようになった。そのことから、話し合い活動に慣れ、楽しんで意見交換できるようになったことが推測できる。

② 話し合いの進め方について

- ・「進め方が分かる」と答えた児童の割合は、23%から81%に大幅に増加した。「どちらかという分かる」と答えた児童の割合を合わせても、57%から100%と増加しており、学級の児童全員が「分かった」と回答した。このことから、この単元での学習を通して、話し合いの進め方が理解できたといつてよいと考えられる。
- ・前頁(ウ)の記述を見ると、学んだこととして、「役割ごとのワザを使う」「立場を明確にする」「話し合いの仕方」など、話し合いの進め方に関わる記述が多く見られた。

③ 自分の意見を話すことについて

- ・「できる」と答えた児童の割合は、8%から62%に大幅に増加した。「どちらかというできる」と答えた児童の割合を合わせても、20%から85%と大幅に増加しており、話し合い活動では「自分の意見」を話す重要性に気づくことができた。自分の意見をもって話し合いに参加したということもあるが、意見を出し合うことで話し合い活動になるということが、実際の話し合い活動を通して理解できたためと考えられる。
- ・前頁(ウ)の記述を見ると、学んだこととして、「立場を明確にする」「意見が出ないと司会者が大変」など、話し合い活動では一人一人の意見が大切だということに気づくことができた。

④ 相手の話を聞くことについて

- ・「できる」と答えた児童の割合は、50%から62%に増加した。「どちらかというできる」と答えた児童の割合を合わせても、84%から92%と微増している。

⑤ 自分と相手の意見を比べることについて

- ・「できる」と答えた児童の割合は、4%から46%と大幅に増加した。「どちらかというできる」と答えた児童の割合を合わせても、27%から65%と大幅に増加している。④・⑤の結果から、相手の話を聞きながら話し合い活動に参加するという意識が高まってきたことがうかがえる。
- ・前頁(ウ)の記述を見ると、④・⑤に関しては学んだことや難しかったこととして、「意見を出すことや比べること、まとめること」についての記述が見られた。全体的に、意見を聞くことはできるものの、意見を比べたり深めたりすることが難しいと感じている児童が多いことが分かる。

イ 授業者の観察から

- (ア) 「役割のワザ」を意識した話し合い活動をすることで、どの役割が何をするのが明確になり、話し合い活動での役割分担が分かりやすくなった。
- (イ) 「役割のワザ」を取り入れながら話し合い活動をすることによって、「話し合いの進め方」や「それぞれの役割の大切さ」、「自分の意見をもつことの必要性」などについて、児童が実感することができた。
- (ウ) 教科書で示されている役割のワザ(方法)以外にも、自分たちでワザを考えながら取り組むことで、話し合いの進め方やワザに気づき、自分たちで話し合い活動を進めていく「楽しさ」にも気づくことができた。
- (エ) 話し合いの「役割のワザ」という部分に着目したことにより、この単元で学習したことが他の教科や特別活動などの場でも生かされるような学習になった。
- (オ) 一部の児童の意見で決定することが多かった話し合いが、みんなが意見を出し合う場というような意識が出てきたことが大きな収穫であった。

ウ 授業実践を通してのまとめ

- (ア) 「役割のワザ」を意識することで、話し合いの進め方を理解することができ、それぞれの役割分担についても理解することができた。
- (イ) ゴールを設定した単元構想表を作成することによって、単元全体の見通しをもつことができた。
- (ウ) 一単位時間の学習の流れを提示することで、児童はどこで何をするのが明らかになり、見通しをもった授業を展開することができた。

## 2 研究協力員による実践授業の実際と検証⑧

- (1) 授業者 陸前高田市立横田中学校 吉田 亜矢子
- (2) 生徒 陸前高田市立横田中学校 第2学年 4名
- (3) 実践日 平成27年11月19日～平成27年12月18日(全8時間)
- (4) 授業の実際 以下111頁まで

### 中学校第2学年単元構想表（光村；「身近な人の『物語』を探る」）

#### 【生徒の実態】

- ・スピーチの学習を通し、目的に応じた音量、速度、間の取り方について学習してきている。
- ・講話などを聞き、事前に準備した質問、一問一答式の質問に関しては出すことができても、自分のねらいに応じた関連質問や、その場で考えたアドリブの質問はできない生徒が多い。
- ・聞いた内容を羅列する生徒が多く、文章の構成や展開を意識し、再構築することを苦手としている。
- ・視点をもって推敲する指導が弱かったため、誤字脱字の指摘のみに終わってしまうことが多かった。

#### 【身に付けさせたい力】

- 社会生活の中から話題を決め、インタビューするための材料を集め、整理する力（Aーア）
- 要点をとらえながら相手の思いを聞き、自分の考えと比較する力（Aーエ）
- 記事として伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫する力（Bーイ）
- 書いた記事を互いに読み、文章の構成の仕方や表現の仕方などを交流する力（Bーオ）

#### 【単元の言語活動】

復興を支える地域の職業人にインタビューし、記事にまとめる。

#### 【言語活動の特徴】

この単元は「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の複合単元である。単元のゴールとして、復興を支える市内の職業人の生き方についてインタビューし、新聞記事にまとめるという言語活動を設定する。岩手日報社の復興特集記事「いまを生きる」をモデルとし、書いた記事で、被災地の中で一生懸命働いている大人の輝きを内陸の中学生に紹介するという目的意識をもたせる。

職場体験や新聞記事、家族からの話などを参考に、取材対象と取材内容を決め、復興に向けての思いや生き方を取材する。その取材対象の話から、自分が地域に伝えたい内容を選択し、800～1000字にまとめるという活動である。

「書くという目的をもちながら聞く」というねらいを意識させ、取り組ませたい。今回は、ボイスレコーダーを使用し、メモは必要最低限のものとした。

1. 単元名 いまを生きる～復興を支える職業人にインタビューし、記事にまとめよう～

2. 単元の目標 取材相手から仕事や復興に対する思いをインタビューし、その人の魅力を伝えられるように新聞記事にまとめることができる。

#### 3. 単元の評価規準

##### 【国語への関心・意欲・態度】

☆記事にまとめるために、取材相手からの的確に話を聞き、まとめようとしている。

☆読者に取材相手の魅力や思いが伝わるように、記事にまとめようとしている。

##### 【話す・聞く能力】

☆取材相手から必要な情報を引き出すために、適切な質問をしている。（Aーア）

☆取材相手の話の要点を押さえながら聞き、自分の考えと比較している。（Aーエ）

##### 【書く能力】

☆伝えたい事実や事柄を、効果的に構成し、記事にまとめている。（Bーイ）

☆友人の書いた記事に対し、視点に応じたアドバイスしている。（Bーオ）

##### 【言語についての知識・理解・技能】

☆文章を学年別漢字配当表に示されている漢字を使って書くことができる。（伝国ウ（イ））

4. 教材 「身近な人の『物語』を探る」(光村図書), 岩手日報の記事「いまを生きる」

5. 単元の展開 (全8時間)

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント (○) 学習活動に即した評価規準 (関・話聞・書・言) 等
第0次		○学習旅行で, 新聞記者に取材するときの思いや工夫を聞く。 ○新聞を読み, 復興記事に興味のある記事をスクラップする。	
第1次	第1時	1. スクラップ, 職場体験で一番興味をもったものを紹介する。 2. 今までの「話すこと・聞くこと」の学習を振り返る。 3. 学習課題を設定する。 4. 実際の新聞記事を読み, ゴールをイメージする。 5. 取材相手を決め, 学習計画を立てる。(個人→グループ) ☆「取材」「構成」「記述」「推敲」「交流」	<b>話聞</b> 社会生活に関心を持ち, 記事を探し, 取材相手を決めることができる。  ○作った新聞を目的に応じて, どこに発信するのかを話し合わせる。
第2次	第2・3時	1. モデル文の書かれている内容を分析する。(個人→グループ) 2. 質問を予想する。(個人) 3. インタビュー構成表と, インタビューのモデルビデオを見て, どのような質問をしているのか, コツがあるのかを話し合う。(グループ) 4. インタビューの練習をする。 ☆校内の先生に対し, 一人の生徒がインタビューし, もう一人は記録と評価をする。(交代で)	<b>書</b> 記事の構成の工夫を理解することができる。 ○付箋を使って交流させる。  <b>話聞</b> 効果的な質問の出し方, 応答の仕方について理解し, 意識しながら話すことができる。 ○タブレットを使い, 相互評価, 自己評価を行わせる。
	第4時	1. 事前調査から質問事項を考え, インタビュー構成表を作る。(個人→グループ交流) 2. 構成表を修正する。 3. インタビューの練習をする。	<b>話聞</b> 取材相手について事前に情報を収集し, 適切な質問を考えることができる。
☆取材対象者に依頼し, 休日や放課後などを使って, インタビューする。			
第3次	第5・6時	1. モデル文の書き方の工夫を分析する。(個人→グループ) 2. 構成を考える。(個人→グループ) 3. 記述する。(個人)	<b>書</b> モデルを分析し, 効果的な構成や書き方について理解し, 記事を書くことができる。
	第7時	1. 書いた文章を交流し, 推敲する。 ☆推敲の視点に基づき, グループで読み合い, 推敲し合う。	<b>書</b> 互いの文章を推敲し, よりよい表現について考えることができる。 <b>言</b> 学年別漢字配当表に示されている漢字を使って書くことができる。
	第8時	1. 清書する。(個人) 2. 書いた文章を読み, 評価し合う。 3. 単元を振り返る。	<b>書</b> 書いた文章を互いに読み合い, 文章の構成の仕方や表現の仕方などを交流することができる。
第4次		☆内陸の中学生や地域の方々に送り, 読んでいただく。	



【第1時 学習計画を立てる】

<p>個人の考え</p> <p>インタビューの相手を決める。 女性の方がいい。 事前学習 インタビューする インタビューの内容をまとめる。 記事を書き、構成を考へる。 新聞完成</p>	<p>グループの話し合い</p>
--	------------------

3 学習計画を立てよう。

1 今日の記事の持つ良さについて考えよう。  
新聞記事の持つ良さについて考えよう。  
写真を使うことで、ひと目見るだけで分かる。  
書き方によってその場をくわしく、そして

2 どんな相手に新聞記事を紹介したいか考えよう。  
川崎中学校  
教育長・市長  
岩手日報

情報を知ることが出来る 写真など  
くわしく分かる その場  
新聞で復興のかわり  
取り組みが分かる、止むを得ず  
気まぐれがよみかえる、ほかの意見

氏名 ( )

①

学習シート「いまを生きる」復興を支える職業人にインタビューし、記事にまとめる

- ・学習旅行で聞いてきた「風化させない」という意図を想起させた。生徒たちは、地元の人たちにも読んでもらいたいが、震災後交流のある内陸の中学校に発信したいと話し合った。
- ・新聞記事を書くためには、どのような学習が必要か、今までの経験を想起させ、計画を立てさせた。

【第2時 モデル文を分析する】 岩手日報の記事「いまを生きる」より

4年11月14日 2015年2月3日 2015年

及川さんの目標  
これからの未来、情熱

震災後のがんばり 成果

目指す古里のすがた  
今までの取り組み

高校時代のこと

古里の若者の思い

数種類の新聞記事の中から、一番まねてみたい記事の構成を付箋で分析させた。

【第3時 モデルビデオを見て、インタビューの仕方について分析する】

言葉	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	質問13	質問14	質問15	質問16	質問17	質問18	質問19	質問20	質問21	質問22	質問23	質問24	質問25	質問26	質問27	質問28	質問29	質問30	質問31	質問32	質問33	質問34	質問35	質問36	質問37	質問38	質問39	質問40	質問41	質問42	質問43	質問44	質問45	質問46	質問47	質問48	質問49	質問50	質問51	質問52	質問53	質問54	質問55	質問56	質問57	質問58	質問59	質問60	質問61	質問62	質問63	質問64	質問65	質問66	質問67	質問68	質問69	質問70	質問71	質問72	質問73	質問74	質問75	質問76	質問77	質問78	質問79	質問80	質問81	質問82	質問83	質問84	質問85	質問86	質問87	質問88	質問89	質問90	質問91	質問92	質問93	質問94	質問95	質問96	質問97	質問98	質問99	質問100
お礼の言葉	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	質問13	質問14	質問15	質問16	質問17	質問18	質問19	質問20	質問21	質問22	質問23	質問24	質問25	質問26	質問27	質問28	質問29	質問30	質問31	質問32	質問33	質問34	質問35	質問36	質問37	質問38	質問39	質問40	質問41	質問42	質問43	質問44	質問45	質問46	質問47	質問48	質問49	質問50	質問51	質問52	質問53	質問54	質問55	質問56	質問57	質問58	質問59	質問60	質問61	質問62	質問63	質問64	質問65	質問66	質問67	質問68	質問69	質問70	質問71	質問72	質問73	質問74	質問75	質問76	質問77	質問78	質問79	質問80	質問81	質問82	質問83	質問84	質問85	質問86	質問87	質問88	質問89	質問90	質問91	質問92	質問93	質問94	質問95	質問96	質問97	質問98	質問99	質問100

インタビューの構成表にメモを取る形で、ビデオを見せた。Aのビデオは、一問一答式のもの。Bのビデオは、ねらいに沿うように、追加で質問したり、反応を工夫したりしたものである。

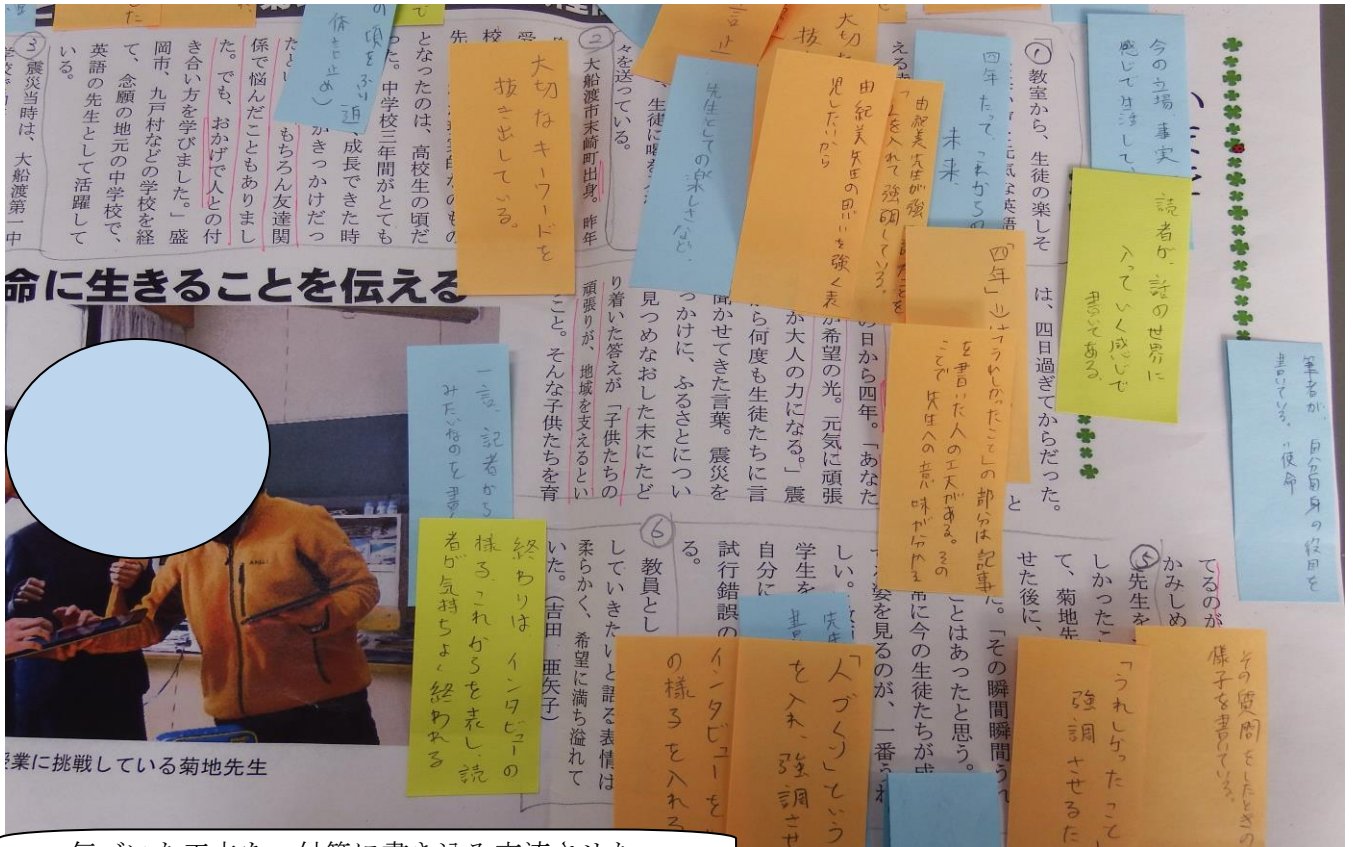
【第4時 インタビュー構成表を作る】

言葉	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	質問13	質問14	質問15	質問16	質問17	質問18	質問19	質問20	質問21	質問22	質問23	質問24	質問25	質問26	質問27	質問28	質問29	質問30	質問31	質問32	質問33	質問34	質問35	質問36	質問37	質問38	質問39	質問40	質問41	質問42	質問43	質問44	質問45	質問46	質問47	質問48	質問49	質問50	質問51	質問52	質問53	質問54	質問55	質問56	質問57	質問58	質問59	質問60	質問61	質問62	質問63	質問64	質問65	質問66	質問67	質問68	質問69	質問70	質問71	質問72	質問73	質問74	質問75	質問76	質問77	質問78	質問79	質問80	質問81	質問82	質問83	質問84	質問85	質問86	質問87	質問88	質問89	質問90	質問91	質問92	質問93	質問94	質問95	質問96	質問97	質問98	質問99	質問100
お礼の言葉	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	質問12	質問13	質問14	質問15	質問16	質問17	質問18	質問19	質問20	質問21	質問22	質問23	質問24	質問25	質問26	質問27	質問28	質問29	質問30	質問31	質問32	質問33	質問34	質問35	質問36	質問37	質問38	質問39	質問40	質問41	質問42	質問43	質問44	質問45	質問46	質問47	質問48	質問49	質問50	質問51	質問52	質問53	質問54	質問55	質問56	質問57	質問58	質問59	質問60	質問61	質問62	質問63	質問64	質問65	質問66	質問67	質問68	質問69	質問70	質問71	質問72	質問73	質問74	質問75	質問76	質問77	質問78	質問79	質問80	質問81	質問82	質問83	質問84	質問85	質問86	質問87	質問88	質問89	質問90	質問91	質問92	質問93	質問94	質問95	質問96	質問97	質問98	質問99	質問100

- どのような順番で、どのような言葉で質問したらいいのかを個人で考えさせた。その後、互いにアドバイスさせあい、修正させた。
- 下の欄は、実際のインタビューのメモとして使った。今回はボイスレコーダーを活用したため、最低限のメモのみで良いこととした。



【第5時 モデル文を分析し、書き方の工夫を学ぶ】



・気づいた工夫を、付箋に書き込み交流させた。

【第5時 新聞記事構成表を作り、パソコンで記述】

6	5	4	3	2	1
復讐(じゅうごう)	西尾(にし)の復讐(じゅうごう) カメラマンに対する思いが表れた。そして、よほど	西尾(にし)の復讐(じゅうごう) たくさんの接(つれ)をもちろ	3月(さんげつ)11日(じゅういちにち)のこと	仕事(しごと)の様子(ようす)	カメラマン(カメラマン)への思い(おもい) 大切にしていること
復讐(じゅうごう)	西尾(にし)の復讐(じゅうごう) カメラマンに対する思いが表れた。そして、よほど	西尾(にし)の復讐(じゅうごう) たくさんの接(つれ)をもちろ	3月(さんげつ)11日(じゅういちにち)のこと	仕事(しごと)の様子(ようす)	カメラマン(カメラマン)への思い(おもい) 大切にしていること

【新聞記事構成表】  
内容  
実際のコメント

学習の流れ  
(1) モデル文を読み、付箋に何が書かれているのか記入する  
\*どんなことが書かれているのかを書く(オレンジ)  
(2) 交流する  
(3) 自分の記事の構成表を作る。

氏名( )  
復讐(じゅうごう) 30%

・分析したのは一つのモデル文だが、もう一つのモデル文も提示し、自分の記事の構成を考えさせた。記述は、見た目を実際の新聞記事に近づけたいという思いから、パソコン入力とした。



【第7時 書いた作品を推敲しあう】

学習シート「いまを生きる」復興を支える職業人にインタビューし、記事にまとめる」⑤

氏名 ( )

学習課題 記事の下書きを推敲し、清書しよう

【学習の流れ】

- 互いの文章を読み、視点に応じ、気づいたことをメモする。

【推敲の視点】

- 記事の構成（どんな順番で記事を構成しているか）は効果的か。
- 文末表現は適切か。（同じ表現が続いていないか。体言止めなどを効果的に使っているか）
- 「 」の使い方（どこをどのように強調させているか）
- 読者にとって、意味のわからない部分がないか。
- （詳しく説明する必要がある部分、省略してもいい部分）
- 見出しは、読者を引き付けるものとなっているか。
- 写真の構図は適切か。
- 取材相手のインタビューから受けた印象を、効果的に書いているか。

☆取材した相手の仕事に対する思い、復興に対する思い、生き方が魅力的に描かれ、読者に伝わる文章になっているか

←

- 友達のアドバイスを参考に、文章を検討し、清書する。
- 互いの文章を読み、良いところを交流する。
- 単元の振り返りをする。（別紙、裏の評価カード）
- 自分たちが紹介した内陸の学校に手紙を付けて送る。

・提示した推敲の視点のプリント。その後、互いの文章を読み、修正を加えたほうがいい点について、交流させた。

【第8時 清書し、交流する】

いまを生きる

徳さん（陸前高田市）

小野寺さんの中学生時代の夢は警察官や消防士だった。大学に入った後、東京に就職。しかし、親が寝たきりの状態だったため、実家に戻る。その後、仕事をなくしたのだが義理の兄に土屋君の紹介をされ、この世界に入ったという。若し人、経験者が多いため、始めた頃は「不慣れ」を感じたという。

「このま言さ方は、読者に悲しみを伝えさせしつみりした感じをまなしてきている。God」

「自分の使命としてのかがと、もちつていね。」

現在、道路の... 上げなど、復興は着実に進んでおり、「新しい町」を作り上げようと、建築業界全体が団結し、仕事に取り組んでいる。苦しいこともあるが、努力して仕事に取り組んでいるという。

「これからは若者が復興に関わってほしい。若い人は高田の活力だ。」という。これらの世代に伝えていくことが「自分の使命」だと力強く、希望に満ち溢れるように語っていた。

陸前高田の復興状況を熱く語る小野寺さん



カメラマンとしての誇り 佐々木宏さん（陸前高田市）

いまを

生きる

「記憶というのは忘れていくもの。でもそこに写真があれば、思い出はよみがえる。」震災後、この思いが強くなったと話する。現在、矢作町に店を構える「スタジオヒロシ」の店主、佐々木宏さんである。カメラマンとして十八才から四十年間この仕事を続けていた。子供のころは別の仕事を目標していたというが、今はこの仕事に誇りを持つている。

常に笑顔でお客さんに接し、会話を盛り上げている。会話の内容は、ほとんどが世間話。コミュニケーションを大切にしながらも、仕事は丁寧で正確だ。お客さんとの約束は大事にし、どんな相手にも誠実に応対することを心がけている。

そんなヒロシさんも元々は、高田町に店を構えていたが、あの東日本大震災で被災し、矢作町に移転してきた。震災直後のことについて、話してくれた。「あの時は、まず生きる事を最優先に考えたね。寝るところを探して高田一中に行った。避難所はやっぱり人数が多くていろいろ大変だったのを覚えてい

写真を通して未来をつなぐ



マイナンバーの証明写真を撮影しているヒロシさん

その後、どうしてこういうこと、迷っているところに「うれしい出来事」が起きた。それは、全国からたくさんの方の支援を頂いたこと。同じ職業である全国のカメラマン、神奈川県で共にカメラマンの修行をした友達などから、中古のプリンター、レジスターなどなどたくさん道具を買ったと言った。一人一人のつながりは大切。感謝の気持ちでいっぱいだ。」

震災後、この仕事に対する思いが変わったという。「戻りたくても戻ることはできない。だから写真としていつまでも残したい。そして、これからの子供たちに震災のことを伝えていきたい。」

顔が見られるように表情に笑顔が現れるようになった。「やっぱり家族との繋がりが、『絆』は大切だ。」と話した。復興率三十%。まだ復興は始まったばかり。「ここまでこられたのは支援があったから。次に誰か困った人がいたら、自分が助けられたように、支援していきたい。」熱心にインタビューに答えてくれたその表情は、温かくこれからの未来を思い描いているように見えた。

【振り返りシート①】

8	7	6	5	4	3	2	1	
交流	すいこう	記事の下書き	記事の分析	質問を考える	質問を練習	モデンの分析	単元の見直し	学習活動計画
A	A	A	A	A	B	A	A	評価
他の人の作業から学び、次の学習に活かすことのできるよう、素敵は文章でしなよ。	よりよい文章にするこができた。ほかの人の意見をもらったおかげで、いろいろな書き方を学ぶこと、文章のよさを、お互いの文章と自分の文章のよさを、知るこができた。また、それだけインタビューした内容を知ることができた。	実際の新聞のように、文末や文章の順番を、考えて作るこができた。言葉などを、工夫して強調させるこができた。	構成員が、自分か記事を書くこを、止めた。自分か記事を書くこを、止めた。自分か記事を書くこを、止めた。	質問を考えるこが、大切だ。質問を考えるこが、大切だ。質問を考えるこが、大切だ。	実際にインタビューして、その悪い点を、指摘して、改善するこが、大切だ。	ビデオを見て、インタビューをするこが、大切だ。	学習や作業をしなけれならぬこが、大切だ。	振り返り(学んだこと)

学習の振り返り「いまを生きる」復興を支える職業人にインタビューし、新聞記事にまとめよう」

氏名 ( )

【単元の目標】インタビューし、新聞記事にまとめる活動を通して

① 取材相手から情報を聞き出すために、効果的な質問をする力を身に付けよう。

② 取材相手の話を、要点を押さえるながら聞く力を身に付けよう。

③ インタビューした内容を、効果的に構成し、新聞記事にまとめる力を身に付けよう。



【振り返りシート②】

【今までの話す・聞く活動を振り返って】

インタビューをしたとき、  
に質問した後、ついでに質問するのが遅れる。  
質問した後、メモをするのがうまくできていない。

【インタビューで大切なこと】

相手を見ながら質問すること。  
事前に考えていた質問以外にも質問の答えに気がついたら、質問を返す。  
メモをとりながら聞くことも、相手を見ながら下を向かすことがない。  
ローリング、  
オーディオ録音、  
相手が無感していると思えないようにする。  
つねに質問を返すようにする。

【単元を振り返って】

インタビューするのは、難しくとても緊張したけど、事前に考えた質問についていかして質問をできた。最初は、いろいろ分かんなくて大変だったけど、学習をしよううちに、できるようになった。文章をまよくのも、太受だったけど、がんばってまよけた。インタビューをするので、自分にはない考えを相手からもらえる。こういうことが分かった。これから新聞を読んだとき、この大変さを、知りながら、読みたいと思います。そして、何より、震災のことについていろいろと知ることができてよかったです。

学習シート「いまを生きる」復興を支える職業人にインタビューし、記事にまとめる」  
氏名 ( )

【単元の振り返り】

① これから何をやるのか、見通しをもって学習することができた。

② 新聞記事を書くという目的をもって、毎時間の学習に意欲的に取り組めた。

③ 記事にまとめるために、地域の中で働く人に興味を持ち、質問内容を考えることができた。

④ 取材相手の話を、要点を捉えながら聞き、足りない部分は追加で質問をすることができた。

⑤ 取材相手の見方やものの考え方に對し、自分の考えをもつことができた。

⑥ 取材相手の魅力を効果的に伝えるための構成を考え、記事を書くことができた。

⑦ 取材相手の魅力を効果的に伝えるための描写を工夫して、記事を書くことができた。

⑧ これからも表現活動の一つとして、記事を書いていこうと思った。

⑨ 人の話を聞くことが楽しいと思った。

単元の学習を振り返ろう

4 あてはまる  
2 あまり当てはまらない

3 だいたいあてはまる  
1 まったく当てはまらない

\*○をつけよう。

	4	3	2	1
① の質問	4	3	2	1
② の質問	4	3	2	1
③ の質問	4	3	2	1
④ の質問	4	3	2	1
⑤ の質問	4	3	2	1
⑥ の質問	4	3	2	1
⑦ の質問	4	3	2	1
⑧ の質問	4	3	2	1
⑨ の質問	4	3	2	1

\*単元の振り返りの集計 N = 4

	あてはまる	だいたいあてはまる
① の質問	4人	
② の質問	3人	1人
③ の質問	4人	
④ の質問	2人	2人
⑤ の質問	4人	
⑥ の質問	4人	
⑦ の質問	3人	1人
⑧ の質問	3人	1人
⑨ の質問	3人	1人



## (5) 授業の検証

### ア 授業実践を通じた生徒の意識変容について

#### (ア) 「わかる授業」について

- ・単元の言語活動である「新聞記事」をゴールとし、自分たちで必要な学習の計画を立てた。そのことで、一時間一時間の学習のねらいを全員が理解し、学習に取り組むことができた。また、教室内に「単元の流れ」と、「モデル文」を掲示し、毎時間意識させたことも効果があった。
- ・小学校からの系統的な学習の中で、インタビューのコツなどを理解はしているものの、本校の生徒は苦手意識が強かった。今回、モデルビデオを活用したことで、視覚的にもコツを実感することができた。
- ・座席を4人で向き合う形で、話し合いながら授業を進めたことで、他から学ぶ楽しさを実感することができた。しかし、話し合いを充実させるという点については、まだまだ課題がある。話し合いの形態の工夫と、明確な視点の提示を行うことで、「学ぶ楽しさ」を実感させられるのではないかと考える。

#### (イ) 「できる授業」について

- ・「話すこと・聞くこと」の力を付けるためには、系統的に繰り返し体験させることが大切だと考える。総合的な学習の時間や行事などで体験型の活動が増え、生徒が「話す・聞く」場面は増えてきている。しかし、自分自身の指導を振り返ると、教師からの一方的な指導のみで活動してきたために、生徒が「できる」と実感させる場面が少なかったように思う。今回、国語の授業として、指導事項について「生徒の気づき」を大切に、授業を組み立てたことで、実際の活動の充実を図ることができた。

#### (ウ) 「役に立つ授業」について

- ・「話す・聞く」活動は、社会生活の中で欠かせない力である。しかも、用意した原稿を読み上げる機会よりも、その場で要点を捉えながら聞き、話す内容を考える場面の方が多い。さらにコミュニケーションを図る上でも大切な力である。今回の学習をしたことで、もっとうまく「話す・聞く」ことができるようになりたいと生徒自身が感じたことは、今後の学習を充実させるために、効果的であった。

### イ 授業を通してのまとめ

- (ア) 震災から約5年。被災地でありながら、本校では、復興について実感する機会が少ない生徒もいる。今回、辛い思いをしながらも、生き生きと仕事に取り組む大人から直接話を聞くことで、生徒たちが感じたものは大きかったように思う。「話す」「聞く」「書く」力をすべて使う複合単位としたことで、「学びの価値と楽しさ」を感じた生徒も見られた。この力が、本単元のみのもものとならないように、他の学びへと発展させられるような学習を展開することが重要だと感じる。
- (イ) 生徒たちのインタビュー後の感想を聞くと、「その場で聞きながら、深めるための質問を考えることが難しかった」というものが多かった。1000字の記事を書くために、主要な質問は8つくらい用意していき、インタビュー時間はどの生徒も30分程度だった。実際に記事を書いてみると、「ここについても質問をするべきだった」などという反省が聞こえてきた。また、量が足りずに苦戦した生徒もいた。その「気づき」が、「どんな質問が、深めながら聞くことにつながるのか」という学びにつなが

ったように思う。

- (ウ) 単元構想の段階で、教師自身の言語活動の経験が必要だと改めて実感した。今回、新聞とビデオのモデル文を作成し、生徒の気づきを促すことを意識した。ねらいに応じた適切なモデルは生徒の思考を促すために効果があるので、今後さらに充実したものを作っていきたい。また、ビデオやタブレット、ボイスレコーダー、パソコンなどの機器も活用したが、生徒自身が効果的に活用するためには、さまざまな場面で使わせることだと思う。今後、より効果的な活用を心掛けたい。
- (エ) 作品の推敲については、誤字脱字の指摘で終わってしまっていた。視点を与えることで、内容面のアドバイスをする生徒も出てきたが、適切な指摘には至っていなかった。構成の仕方、より豊かな叙述などの例を日常的に紹介していくことで、豊かな表現へとつながっていくだろう。
- (オ) インタビューするためには、取材相手へのある程度の予備知識が必要である。しかし、時間の都合で不十分なまま出かけてしまった生徒もいたのが反省点である。相手の生き方を魅力的に伝えるためには、質問が重要となる。その質問を考える段階で、事前の調査をもっと大切にすべきであった。
- (カ) 今回は、実際の新聞記事に近づけるために、自分の感想は、文中の叙述（表情、語り方、鍵かっこの使い方）での工夫で表現することとした。しかし、それだけでは不十分だった面もあるので、感想欄を設けたり、お礼のお手紙を書かせたりした方が良かったかもしれない。

## 2 研究協力員による実践授業の実際と検証⑨

- (1) 授業者 岩手県立西和賀高等学校 高橋 美紀子
- (2) 生徒 岩手県立西和賀高等学校 第2学年 28名
- (3) 実践日 平成27年9月18日～平成27年10月21日(全9時間)
- (4) 授業の実際 以下121頁まで

### 高等学校第2学年「現代文B」単元構想表（明治書院／精選現代文B；「実用的な文章」）

#### 【生徒の実態】

#### 【身に付けさせたい力】

<ul style="list-style-type: none"><li>・授業で、ペアまたは小集団での意見交換をしており、学習内容に対して自分の意見をもつことができているが、全体での発表は苦手な生徒が多い。</li><li>・自分が考えていることを伝える必要性については、8割以上の生徒が「必要である」と意識しているが、「自分の考えを発表できている」と考える生徒は6割弱に留まる。(そのうち「きちんとできている」と感じている生徒は1割)</li></ul>	◎目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する力（A－エ）
--	---

#### 【単元の言語活動】

自分たちに必要な情報を収集してまとめ、自主研修プランのプレゼンテーションを行う。

#### 【言語活動の特徴】

12月に自分たちが行く修学旅行の自主研修プランを企画し、発表するものである。社会に出た際に必要になるであろう情報収集力や企画力、論理的な説明力を養うことを目標とする。大勢の人の前での発表が苦手な生徒も、小集団学習であれば「話す力」を身に付ける練習になる。個人・ペア・グループ・全体と、少しずつ規模を大きくしてブラッシュアップを行うことも、「話す力・聞く力」を高めることにつながると考える。自分たちで実現できる内容となるので、意欲的な活動が期待される。

1. 単元名	修学旅行をプロデュース ～情報を収集して企画を練り、まとめて発表する～
2. 単元の目標	目的に応じて情報を適切に収集し、分析、整理してまとめることができる。作成した資料を活用し、考えが伝わるよう、聞き手を意識した発表をすることができる。
3. 単元の評価規準	<p><b>【国語への関心・意欲・態度】</b> ☆目的に応じて情報を適切に収集し、分析、整理して企画書をまとめようとしている。 ☆資料の示し方、話し方などを工夫し、目的や場にふさわしい発表をしようとしている。 ☆相手の発表を評価しながら聞こうとしている。</p> <p><b>【書く能力】</b> ☆相手に伝わるよう論理的に文章を構成し、企画のメリットや必要性をまとめている。(現B－エ)</p> <p><b>【話す・聞く能力】</b> ☆資料の示し方、話し方などを工夫し、目的や場にふさわしい発表をしている。(現B－エ) ☆相手の発表を評価しながら聞いている。(現B－オ)</p> <p><b>【知識・理解】</b> ☆社会生活で必要とされる実用的な文章の特色についてとらえ、自分の表現に役立てている。(現B－オ)</p>
4. 教材	「明治書院／精選現代文B「実用的な文章—企画書を書く」、京都に関する資料



5. 単元の展開（全9時間）

次	時	学習活動	言語活動に関する指導上のポイント（○） 学習活動に即した評価規準（ <b>関</b> ・ <b>書</b> ・ <b>話聞</b> ・ <b>知</b> ）等
第0次		○修学旅行の自主研修について知り、情報を集めておく。	
第1次	第1時	1. これまでの「企画」体験を振り返る。 2. プレゼンテーションモデルを分析する。 →教師のプレゼンを聞き、「発表する上で必要な力」について考える。 3. 単元の学習計画を立てる。 →どう学習を進めたら良いか考える。 身に付く力：情報を分析，整理し企画書をまとめる力，聞き手を意識して発表する力，評価しながら聞き，自分の表現を高める力。	<b>関</b> モデルを聞き，どのような要素，項目で話されているかに気づこうとしている。
第2次	第2時	1. 企画に必要な項目について確認する。 2. インターネットや資料で情報を収集する。 →必要な情報はメモを取り，プランニングシート作成のために整理しておく。	○プランニングシート（個人版）のための資料を準備する。 <b>関</b> 目的に応じて情報を適切に収集しようとしている。
	第3・4時	1. プランニングシートを作成する。 →プランニングシート（個人版），図解資料（各A4用紙1枚）。 →次時までには必ずチェックを受ける。	<b>関</b> 収集した情報を分析，整理してプランニングシートをまとめようとしている。 <b>書</b> 相手に伝わるよう論理的に文章を構成し，企画のメリットや必要性をまとめている。
	第5時	1. 個人企画書を手直しする。 2. ペアプレゼンテーションと相互評価をする。 →個人企画書をもとに，図解資料を示して行う（次時に行うグループプレゼンテーションの練習も兼ねる）。 3. ミニプレゼンを実施して気づいた発表の工夫や改善点を，全体で共有する。	<b>話聞</b> 目的に応じて情報を適切に収集し，分析，整理して企画書をまとめている。 <b>関</b> 聞き手を意識した発表をし，相手の発表を評価しながら聞こうとしている。
	第6時	1. 発表の工夫や改善点を確認する。 2. グループプレゼンテーションと相互評価。 →修学旅行の自主研修班を1グループとし，ペアプレゼンと同じ要領で全員に資料が見えるよう，声が聞こえるよう配慮して発表する。 3. 代表企画の決定。 →相互評価を行い，代表の企画者（プランナー）と発表者（ナレーター）を決める。	<b>話聞</b> 聞き手を意識した発表をし，相手の発表を評価しながら聞いている。
第3次	第7・8時	1. 役割分担をして，プランを練り直し，全体発表用企画書（パワーポイント）を作成する。 2. 発表のリハーサルを行う。 →話し方や資料の改善点はないか，メンバーで確認しながら練習する。	<b>知</b> 社会生活で必要とされる実用的な文章の特色についてとらえ，自分の表現に役立てている。
	第9時	1. 発表の順番を決める。 2. 全体プレゼンテーションと相互評価。 3. 優秀企画の決定。 4. 単元の振り返り。	<b>話聞</b> 資料の示し方や話し方などを工夫し，聞き手を意識した発表をするとともに，相手の発表についてメモを取ったり評価したりしながら聞いている。
第4次		全体プレゼンテーションの様子（映像）を，三者面談待機時に流す。	

修学旅行をプロデュース 学習計画

- 一 これまで「何かを企画して説明」をした体験をふり返ろう  
(どのようなことを説明したか、工夫した点、苦労した点など)  
生徒会 分かりやすく伝えること  
職場体験 etc 納得してもらうために情報を集めること
- 二 この単元での言語活動を確認しよう  
自主研修のコースを企画し、まとめて  
プレゼンテーションを行う
- 三 ミニプレゼンモデルを分析しよう : 説明の工夫を探す  
パネルに分かりやすくかき使用(イラスト) : こと知識  
修学旅行でこうするとよいという記事を発表、時間  
おすすすめポイント(ありがたい)・聞き手に話しかけている、
- 四 プレゼンテーションを行うためにどんな準備をする?  
資料・情報を集める 時間配分 笑顔 練習を繰り返して心に余裕を持つ  
紙、ペン・パソコンなど プレゼンの時間確認 綿密な計画
- 五 プレゼンテーションを行うためにどのような力が必要?  
トピック力 情報収集力 聞き力 体力  
画力 かつぜつ 構成力 協力  
表現力 語彙力 集中力 想像力

【単元の目標】

- ① 目的に応じて情報を収集し分析整理してまとめる
- ② 作成した資料を活用し聞き手を意識して発表する

修学旅行をプロデュース 学習計画

- 一 これまで「何かを企画して説明」をした体験をふり返ろう  
(どのようなことを説明したか、工夫した点、苦労した点など)  
本学員会などで活動内容を考えてみた。  
本学員会をまとめるのが大変だった。
- 二 この単元での言語活動を確認しよう  
自主研修のコースを企画し、まとめて  
プレゼンテーションを行う
- 三 ミニプレゼンモデルを分析しよう : 説明の工夫を探す  
実際に資料を使って説明し、よく分かりやすかった。
- 四 プレゼンテーションを行うためにどんな準備をする?  
コース先の情報をふんでおく、料金  
綿密な計画  
練習をして心に余裕を持つ
- 五 プレゼンテーションを行うためにどのような力が必要?  
情報収集力  
表現力 構成力

【単元の目標】

- ① 目的に応じて情報を収集し分析整理してまとめる
- ② 作成した資料を活用し聞き手を意識して発表する





【第5時 ペアプレゼンテーション】

【プレゼンテーション評価基準】

発表		資料		内容		構成			
時間	スピード	声量	視線	提示	的確さ	コース	調査	論理性	テーマ
3点	十分に興味をひくテーマ設定になっている	2点	ある程度興味を引くテーマ設定になっている	1点	あまり興味を引くテーマ設定になっていない	0点	全く興味を引くテーマ設定になっていない	3点	企画の目的や効果が明確に伝わっている
2点	施設等について十分に調べられている	1点	施設等についてある程度調べられている	0点	施設等についての調査が全不足している	3点	論理的な構成ができていない	2点	論理的な構成ができていない
1点	全体的にテーマに沿っている	0点	資料によってある程度内容が伝わっている	3点	資料では内容があまり伝わっていない	2点	資料では内容が全く伝わっていない	1点	全く効果的に提示できていない
0点	十分効果的に提示することができている	3点	聞き手の反応を見ながら堂々と発表している	2点	聞き手をしながら発表しようとする努力している	1点	聞き手をしながら発表できていない	0点	聞き手をしながら発表できていない
3点	大きき、明瞭さともに十分聞き取りやすい	2点	大きき、明瞭さが一定	1点	大きき、明瞭さに改善が必要である	0点	大きき、明瞭さに大幅な改善が必要である	3点	読む速さが十分に適切で聞き取りやすい
2点	読む速さが十分に適切で聞き取りやすい	1点	読む速さに改善が必要である	0点	読む速さに大幅な改善が必要である	3点	読む速さが十分に適切で聞き取りやすい	2点	読む速さが十分に適切で聞き取りやすい
1点	読む速さに改善が必要である	0点	読む速さに大幅な改善が必要である	3点	読む速さが十分に適切で聞き取りやすい	2点	読む速さが十分に適切で聞き取りやすい	1点	読む速さに改善が必要である
0点	読む速さに大幅な改善が必要である	3点	読む速さが十分に適切で聞き取りやすい	2点	読む速さが十分に適切で聞き取りやすい	1点	読む速さに改善が必要である	0点	読む速さに大幅な改善が必要である

自分のペアに評価してもらおう

評価者(一)

資料	内容		構成		
提示	的確さ	コース	調査	論理性	テーマ
2点	3点	3点	2点	2点	3点
発表					
合計		時間	スピード	声量	視線
A		26	3点	3点	2点

評価 30~25点...A/24~19点...B/18~13点...C/12~7点...D/1~6点...E

アドバイス  
 絵なども書いて説明できればもっとも、少しくなりそうです。  
 最終にどうしたら楽しくなるかを伝えられた。

発表の工夫や改善点を共有しよう

絵などを書いて説明できればもっと明確に伝えられた。  
 建物の知識が足りない  
 見所やポイントを伝えられなかった。

アドバイス  
 テーマにそって自分がどう計画したか先に伝えられた。  
 少し説明もくわえながら進められた。  
 最後にどうしたら楽しくなるかを伝えられた。  
 地図を便した。

【第6時 グループプレゼンテーション】

発表者(一)	発表者(二)	発表者(三)			
資料	内容	構成			
提示	的確さ	コース	調査	論理性	テーマ
3点	2点	3点	2点	3点	3点
発表					
合計		時間	スピード	声量	視線
A		26	3点	3点	2点

アドバイス  
 コースがよく調べられていてよかったと思っただ。  
 施設の説明を入れたほうが良いと思っただ。

発表者(一)	発表者(二)	発表者(三)			
資料	内容	構成			
提示	的確さ	コース	調査	論理性	テーマ
3点	3点	3点	3点	3点	3点
発表					
合計		時間	スピード	声量	視線
A		30	3点	3点	3点

アドバイス  
 資料を活用してわかりやすかった。  
 地図を使うことによりポイントが行きたいところを伝えていた。

発表者(一)	発表者(二)	発表者(三)			
資料	内容	構成			
提示	的確さ	コース	調査	論理性	テーマ
3点	2点	3点	3点	3点	2点
発表					
合計		時間	スピード	声量	視線
A		28	3点	3点	3点

アドバイス  
 地図を示しながらコース、場所の説明をしていて順序よく進めていた。  
 地図にはわかりやすい、ていまいどのよう、建物なのかはわかりませんでした。もっと本地図を指しても良かったかも。

発表者(一)	発表者(二)	発表者(三)			
資料	内容	構成			
提示	的確さ	コース	調査	論理性	テーマ
2点	3点	3点	3点	2点	2点
発表					
合計		時間	スピード	声量	視線
A		27	3点	3点	3点

アドバイス  
 コースや場所について細かく詳しく調べられていて良いと思っただ。  
 提示があるのも、良い発表になると思っただ。

【第9時 全体プレゼンテーション評価シート】

評価する能力	到達目標	4	3	2	1	0
【発表事前準備力】 目的に応じて情報を収集し、分析、整理してまとめる	テーマ設定の背景や企画の目的・効果について、説得力を持って示すことができる	導入で引きつけられて、大いに興味を持って聞けた	ほぼ興味を持って聞けた	ほどほどに聞けた	少し退屈だった	退屈
	調査に基づいた十分な情報量と質で、資料をまとめることができる	情報量、質どちらも十分だった	情報量、質どちらかが十分で、もう一方はまあまあ	どちらもまあまあ	どちらかがまあまあで、もう一方は不十分	不十分
【発表表現力】 作成した資料を活用し、聞き手を意識して発表する	聞き手の理解に配慮したスライド作成ができる(字数・配色・図・効果の工夫など)	見やすくわかりやすいスライドになっていた	一部見づらいが、だいたいわかりやすかった	良い点も悪い点も同程度	見づらく、わかりにくい部分が多かった	全く見づらい
	声量が十分で聞き取りやすく、メリハリのある話し方ができる	十分に聞き取りやすく、メリハリがある	聞きやすい	普通	少し聞きにくい	ダメ
	原稿や画面ばかりを見ずに、聞き手を見て反応を確認することができる	良く確認している	だいたい確認している	確認しようと努力している	半分以上、原稿や画面を見ている	見ていない

★ 自分のグループの到達度を振り返って評価してみよう。

到達目標	点
①テーマ設定の背景や企画の目的・効果について、説得力を持って示すことができる	4
②調査に基づいた十分な情報量と質で、資料をまとめることができる	4
③聞き手の理解に配慮したスライド作成ができる(字数・配色・図・効果の工夫など)	3
④声量が十分で聞き取りやすく、メリハリのある話し方ができる	4
⑤原稿や画面ばかりを見ずに、聞き手を見て反応を確認することができる	3
合計	18

全体プレゼンテーションをするにあたり、自分が努力・工夫・意識した点を挙げておこう。  
 ゆっくり時間いっぱい発表する  
 話す部分に合わせてスライドを出した。

★ メモを取りながら聞き、各グループの到達度を評価しよう。(テーマ、見どころ、発表の工夫、改善点など)

<p>[ C ] 班 発表聞き取りメモ 行く場所のスピードがい... 知語散などか あておもしろ かった。</p> <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td><td>計</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>15</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	計	3	4	3	2	3	15	<p>[ E ] 班 発表聞き取りメモ 京都にいたる ～京都の食文化について～ 米田が情報まで調べられていて 行ってみたくはりました。 食main</p> <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td><td>計</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>18</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	計	3	4	4	4	3	18	<p>[ B ] 班 発表聞き取りメモ ～ぶり～ 京都文化の旅 時期などに合わせて ゆたりにした旅だと感じました。</p> <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td><td>計</td></tr> <tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>17</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	計	3	3	3	4	4	17
①	②	③	④	⑤	計																																	
3	4	3	2	3	15																																	
①	②	③	④	⑤	計																																	
3	4	4	4	3	18																																	
①	②	③	④	⑤	計																																	
3	3	3	4	4	17																																	
<p>[ A ] 班 発表聞き取りメモ 京都の名所 食べ歩き ひご → 親子丼 京あみ ショークリーム 映画に対する世界観を伝えられる 色分けしては、きれいしている</p> <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td><td>計</td></tr> <tr><td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>18</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	計	4	4	3	3	4	18	<p>[ D ] 班 発表聞き取りメモ 京都の歴史、伝統的文化で学ぶ 知識を深めたり 目的ややるべきことが明確になっている デザイン、色、かわいい、字がきれい</p> <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td><td>計</td></tr> <tr><td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>17</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	計	4	4	3	3	3	17	<p>★単元のふり返り とてもあてはまる ◎ あてはまる ○ ややあてはまる △ あてはまらない ×</p> <table border="1"> <tr><td>自ら進んで取り組むことができた</td><td>◎</td></tr> <tr><td>資料の活用の仕方がわかった</td><td>○</td></tr> <tr><td>意見の述べ方の工夫がわかった</td><td>○</td></tr> <tr><td>実用的な文章を、自分の表現に役立てられた</td><td>○</td></tr> <tr><td>プレゼンテーション学習は楽しかった</td><td>◎</td></tr> <tr><td>今後活かそうなことを考えることができた(内容、学習方法等)</td><td>○</td></tr> </table>	自ら進んで取り組むことができた	◎	資料の活用の仕方がわかった	○	意見の述べ方の工夫がわかった	○	実用的な文章を、自分の表現に役立てられた	○	プレゼンテーション学習は楽しかった	◎	今後活かそうなことを考えることができた(内容、学習方法等)	○
①	②	③	④	⑤	計																																	
4	4	3	3	4	18																																	
①	②	③	④	⑤	計																																	
4	4	3	3	3	17																																	
自ら進んで取り組むことができた	◎																																					
資料の活用の仕方がわかった	○																																					
意見の述べ方の工夫がわかった	○																																					
実用的な文章を、自分の表現に役立てられた	○																																					
プレゼンテーション学習は楽しかった	◎																																					
今後活かそうなことを考えることができた(内容、学習方法等)	○																																					

【自己評価シート】

10 / 14	10 / 13	10 / 7	10 / 6	9 / 18	月日
<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>今日の学習課題 プレゼンのモデルを 分析して、企画発表 の上で必要なことに 気づく。</p>
3	3	4	4	4	評価
<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>評価の根拠(新しい発見・わかるようになったこと・次時への課題) 学習計画のプリントに、必要なことを たくさん書くことができた。発表はしなか たけれど、プレゼンをするために何が 必要なかを理解した。</p>

評価 4 達成 3 やや達成 2 やや不十分 1 不十分

/	10 / 21	10 / 20	10 / 19	10 / 15	月日	
	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>今日の学習課題 グループプレゼン テーションを通し、 代表企画を決めて 全体発表の準備 をする。</p>	
	4	3	4	4	評価	
	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>発表の準備 発表の準備 発表の準備 発表の準備</p>	<p>評価の根拠(新しい発見・わかるようになったこと・次時への課題) 前回よりは分がわりやすいように発表 することができたと思う。グループ内 で行きたい場所が同じだった。たりのハ ずくに決まりそうです。次の班でのとりくみも がんばりたい。</p>

評価 4 達成 3 やや達成 2 やや不十分 1 不十分



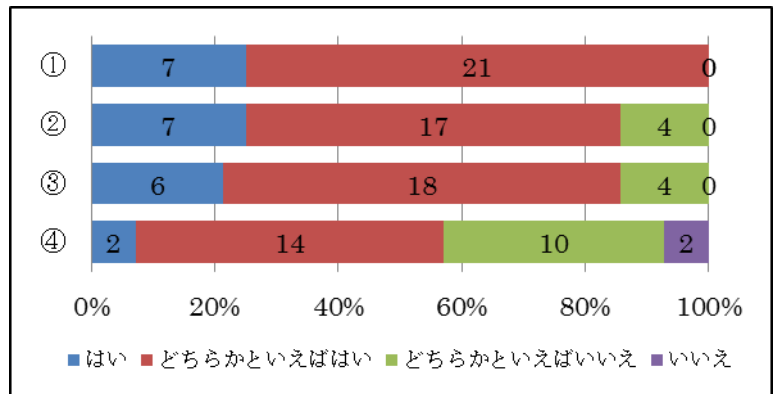
(5) 授業の検証

ア 事前アンケート

生徒の実態をとらえる段階で、課題であると感じていた点を項目化した。【図1】アンケートは記名式にし、実践中や事後の変化をとらえやすいようにした。「④自分の考えを發表することができてい」かどうかというのが、今回の指導の大きなポイントとなると考えていた。「②本文の内容に対して自分の考えを持つことができてい」の質問に対しては、9割近くが「はい」を含む回答となった。自分なりに考えることができないために、意見をまとめることが苦手なのだと考えていたが、そうではなかったようである。「③自分の考えは相手に伝える必要がある」と考えている生徒も9割近かったが、それを發表できるかどうかとなると、回答率が下がった。「④自分の考えを發表することができてい」に対して「はい」を含む回答は6割弱、きちんとできていると感じている生徒は2名しかいなかった。およそ3分の1以上の生徒が「いいえ」を含む回答であったことに着目し、この生徒たちが達成感を味わうことができる取り組みにしたいと考えた。

①これまで授業で扱った文章の内容は、その都度概ね理解できている。	4	3	2	1
②本文の内容に対して、自分の考えを持つことができてい。	4	3	2	1
③自分の考えは相手に伝える必要がある。	4	3	2	1
④自分の考えを發表することができてい。	4	3	2	1
【④4・3を回答した人…⑤へ/2・1を回答した人…⑥へ】				
⑤(1)自分の考えを伝えるとき、気をつけていることは(選択・複数可)				
ア 自分でしっかりと考え、意見をまとめて話すこと				
イ 資料や他の人の意見に絡めながら、考えを深めること				
ウ 聞きやすいような声で話すこと				
エ 他の人の参考になるような意見を話すこと				
オ 他の人にも考えを伝える場を与えるように話すこと				
その他(記述)				
(2)自分の考えを聞いてもらうとき、どのようにしてほしいか(記述)				
⑥(1)自分の考えを伝えることができないのはなぜか(記述)				
(2)自分の考えを伝えるために、効果的なことは(選択・複数可)				
ア 自分でもっとしっかりと考えること				
イ 他の人の意見と比較しながら考えること				
ウ 聞く人がきちんと聞いてくれること				
エ 聞いた人がアドバイスをくれること				
オ 考えを伝える機会を与えられること				
その他(記述)...				
⑦これまで「話すこと・聞くこと」の力をつけるために取り組んだ授業は、どのようなものがあるか。(記述)				
例) 小学校の国語の授業で、「クラムボンとは何か」というテーマで話し合い、發表をした。中学校の朝の会で、毎日二人ずつ環境問題を取り上げ、二分間スピーチをした。など				

【図1】事前アンケートの内容



【図2】事前アンケート集計

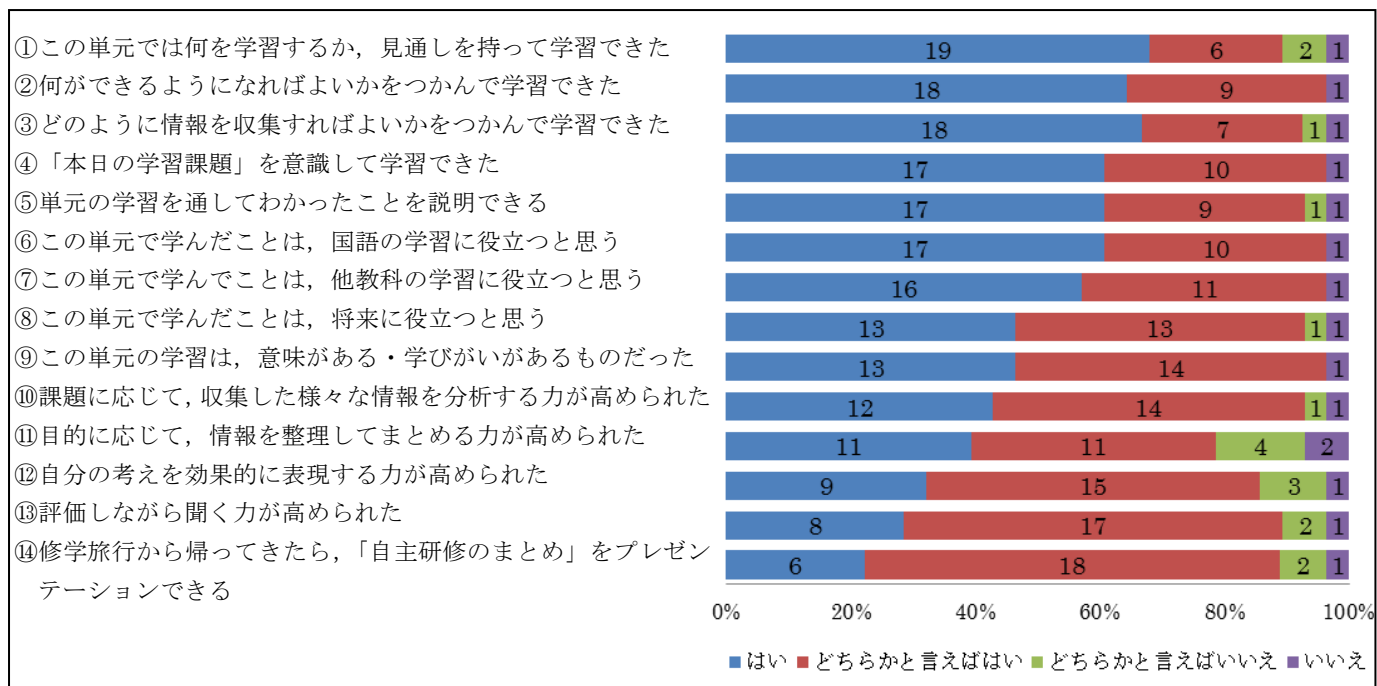
N=28

イ 自己評価シート

【表1】単元の振り返りでの記述内容 (N=28)

話すこと・聞くことについて	<p>プレゼンテーションのために必要な力や工夫について考えることができた。(24)</p> <p>聞く側にも必要な力があることがわかった。(3)</p> <p>自分のプランをしっかりと相手に伝えることができた。(2)</p> <p>聞き手に伝わるように、声の大きさや視線に気をつける。(3)</p> <p>発表時間を意識して伝えられた。(2)</p> <p>自分の感想をもって評価しながら聞くことができた。(10)</p>
様々な情報を分析、整理することについて	<p>情報が多すぎてまとめるのが難しかった。(8)</p> <p>資料をあまり活用できなかった部分があった。(5)</p> <p>スライドにさまざまな工夫があり楽しかった。(3)</p>
ペアワーク・グループワークについて	<p>話し合ったくさんの意見を出したり共有したりすることができた。(7)</p> <p>周りの人が分析したことを聞いて新しく気づいたこともあった。(3)</p> <p>自分のプレゼンテーションを楽しそうに聞いてくれてよかった。(2)</p> <p>自分に対しての客観的な意見をもらえて、留意点がわかりやすかった(3)</p> <p>全員の意見をまとめればいいものできそうだと思った。(4)</p> <p>相手の良いところを評価し、自分も参考にしようと思えた。(10)</p> <p>みんなの発表で、よりイメージできるようになった。</p>
学習意欲について	<p>次回からの授業も楽しみだ。(4)</p> <p>気づいた点を発表につなげられるようにしていきたい。(7)</p> <p>自分の役割にしっかりと取り組むことができた。(11)</p> <p>全体プレゼンテーションを頑張る。(6)</p> <p>次もこのような機会があればうまくやりたい。(3)</p>
その他	<p>他の班の企画した場所にも行ってみたいとなった。(2)</p>

## ウ 単元の振り返り



【図3】単元の振り返り集計（「はい」の回答が多い項目から順に並べたもの）

N=28

## エ 授業実践を通じた生徒の意識について

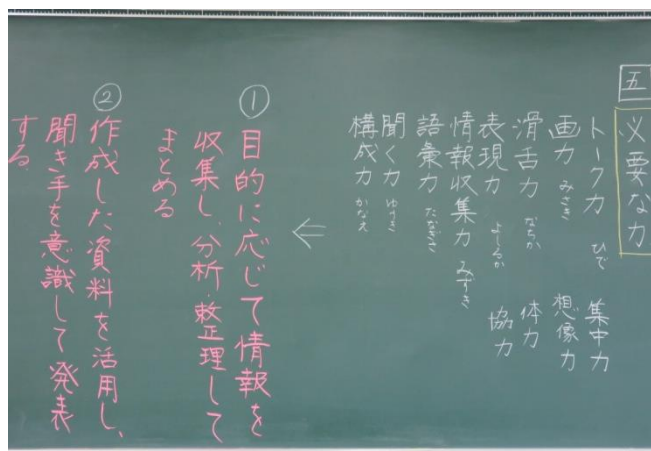
### (ア) 「分かる授業」について

第1時のモデル分析・学習計画を通して、どのような力を身に付ければよいのか、何ができるようになったらよいのか、準備すべきものは何かなどについて自分たちで話し合って挙げたことで、学習過程やゴールが明確になった。これまでの経験や基礎知識を基に考えを深め、意見を交流し、主体的に学習に臨む姿勢ができたことが、生徒の「分かる」につながったのではないかと考える。このことは、【図3】①～⑤の「はい」を含む回答が多いことにも表れていると言える。

単元の振り返り【表1】のように、「聞く側にも必要な力があることがわかった」という生徒の記述があった。今回の言語活動が「プレゼンテーション」ということで、「話すこと」に意識が向けられがちだったが、生徒たち自身から「聞くこと」も重要だという意見が出たことで、理解が深まったように感じる。また、ペアワーク・グループワークについての記述（囲み部分）からわかるように、交流したことで新たな発見や課題改善につながっていることが分かる。



【モデルを分析している生徒の様子】



【ワークシートの記述をまとめた板書】

### (イ) 「できる授業」について

事前アンケート【図2】では「④自分の考えを發表することができている」と考える生徒（「はい」を含む回答）が6割程度だったが、単元の振り返り【図3】では8割近くの生徒が「⑩自分の考えを効果

的に表現する力が高められた」と実感できているという結果になった。特に「はい」を選んだ生徒が2名から9名に増えていることは、「話すこと」に対する自信がついたことの表れだと言える。

今回の実践では、「目的に応じて情報を適切に収集し、分析、整理してまとめる」ことと、「作成した資料を活用し、考えが伝わるよう、聞き手を意識した発表をする」ことを目標として取り組んだ。発表については、前述したように多くの生徒が概ねできたと感じているのに対し、情報収集や分析については、難しかったと考える生徒が多かった。【表1】

テーマを決め、それに沿って情報を集めて、自分なりの意見をもち、必要な情報を判断する活動だが、なかなかテーマを定められない生徒や、情報の取捨選択ができない生徒が見られた。まとめる活動については、更なる経験を積ませる必要性が感じられた。

(ウ) 「役に立つ授業」について

学習計画を立てる際に、「今後に生かせそうなことを考えながら学習に臨もう」とアドバイスをした。振り返り【図3】の⑥～⑧が「役に立つ授業」を捉える要素である。「はい」を含む回答を見ると、9割の生徒が役に立つことを実感できていることがわかる。しかし、「はい」の回答のみに着目すると、国語や他教科に役立つと考えている生徒に対して、将来役立つと考える生徒の割合が低下している。自分の将来がはっきりしていないため、「はい」と回答しづらい生徒もいたのかもしれないが、学校だけでなく社会に出てから役に立つ力を身に付ける学習として、今後も創意工夫を凝らした授業実践をする必要がある。

授業実践当初は、全体プレゼンテーションで最も良い発表をしたグループの企画を、10月末に行われた2学年PTAで発表させる予定だったが、当日の開始時間や内容の関係でプレゼンテーションを実施することはできなかった。授業以外でも自分が身に付けた力を発揮できる機会をもたせることで、役立つ授業としての意識が高まるのではないかと考える。

(エ) 「楽しい授業」について

振り返り【図3】で、今回の単元を「⑨意味がある・学びが面白いもの」と捉えた生徒は、「はい」の回答のみに着目するとおよそ5割だが、「どちらかと言えばはい」を含めると9割の生徒が学びが面白いを実感していることが分かる。自己評価シートの記述【表1】では、学習意欲に関わる記述が多く見られた。これまでの単元での記述と比較すると、次時が楽しみであるという内容や、取り組みたいことに触れた内容を記述する生徒が多かった。また、「他の班の企画した場所にも行ってみたいになった」という記述もあった。発表者側の能力の向上も、聞き手として楽しむ姿も読み取れる。

取り上げる課題が「修学旅行」に関わっていたということも、生徒の意欲につながったと考えられる。生徒が魅力を感じられる言語活動の設定は、意欲的に取り組む上で非常に重要である。

オ 授業実践を通してのまとめ

(ア) ミニプレゼンテーションモデルの提示により、言語活動に対する主体的な学習意欲が喚起され、単元の目標を意識した取り組みとなった。「身に付く力」を意識することによって、情報収集や資料作成、発表の際に効果的に工夫をしようという態度が育成されたと考える。

(イ) 相互評価の際、聞くためのさまざまなポイントを挙げたものの、「効果的に表現する力」が身に付いたかどうかの評価基準を明確に示すことが難しかった。生徒の変容は自己評価シートの記述内容、アンケートなどから検証したが、よりよい評価・判断の方法がないか、今後の指導を通して考えていきたい。

(ウ) 現代文Bは「読むこと」を中心とした科目であるが、総合的な言語能力を育成する科目としての性格ももっている。学習指導要領解説には次のように謳われている。

「社会生活においては、情報をとらえ、考察し、それをまとめて表現するということが日常的に行われ、それによって自らを高めたり、人間関係を築いたりしていく。理解と表現の能力を高め、生徒の内面を豊かに形成することは、そのために必要不可欠なことである。」

どうしても実施に時間がかかってしまう調べ学習や発表の活動だが、社会に出てから役立つ力を身に付ける上で効果的な言語活動である。教科書教材や生徒の生活と絡めた言語活動を設定し、「読むこと」「書くこと」とのバランスを考えながら指導する必要があると考える。



## Ⅷ 研究のまとめ

### 1 授業実践による児童生徒の意識の変容

本研究は、平成 25 年度に「読むこと」領域、平成 26 年度に「書くこと」領域、平成 27 年度に「話すこと・聞くこと」領域と、1 領域ずつ更新しながら研究を重ねてきたため、結果として平成 25 年度からの 3 年研究となった。そこで、研究を構想した時点での児童生徒の実態として、平成 24 年度の全国学調、平成 25 年度の県学調と高校基礎力調査を基礎データとして、今年度の研究協力員の授業実践の中で数値化できた項目について、児童生徒の意識の変容について比較した。

【表 1】「国語の授業がよく分かる」について、本研究での基礎データとの比較（数値％）

学年	児童生徒の回答	H25 データ（県学調，基礎力）	H27 研究協力員の授業後
小学校 第 4 学年	あてはまる	46	81
	どちらかといえば	43	19
中学校 第 1 学年	あてはまる	32	87
	どちらかといえば	56	12
高校 第 2 学年	あてはまる	10	60
	どちらかといえば	71	32

【表 2】「国語の学習は社会で役立つ」について、本研究での基礎データとの比較（数値％）

学年	児童生徒の回答	H24 データ（全国学調，基礎力）	H27 研究協力員の授業後
小学校 第 6 学年	あてはまる	68	36
	どちらかといえば	26	53
中学校 第 1 学年	あてはまる	51	46
	どちらかといえば	42	46

【表 1】，【表 2】とも、基礎データは過去の全県の数値であり、研究協力員の授業後の数値はそれぞれの学校の児童生徒の数値なので単純に比較することはできない。しかし、【表 1】を見ると、全学年で積極的肯定である「あてはまる」という割合が、基礎データに比べて非常に高い数値を示している。このことから、本研究で提案するような授業を行えば、「授業がよく分かる」と実感できる児童生徒を育成することにつながるものと考えられる。

また、学年が上がるにつれて「授業がよく分かる」割合が低くなる基礎データに比べて、研究協力員の授業後では、必ずしも学年が上がるにつれて低くなってはいない。このことから、学年が上がるにつれて「授業がよく分かる」割合が低くなるのが当然なのではなく、本研究で提案するような授業を行えば、中学校や高等学校においても「授業がよく分かる」と実感できる生徒の割合を高めることができると考えられる。

【表 2】を見ると、「国語の学習は社会で役立つ」と実感できている数値が授業後に低いものとなった。このような結果になったのは、常に日常生活や社会生活に直接役立つと実感できる単元を構想することの難しさや、指導者と学習者に社会で役立つ授業をするという意識が薄かったためではないかと考えられる。また、漠然と役立つのではないかと感じている児童生徒に「この単元で身に付けたこの国語の力は社会で役立つか」と突き詰めて尋ねていることも、数値が低くなった要因の一つと考えられる。

## 2 研究の成果について

### (1) 児童生徒の意識変容から

9名の研究協力員の授業実践報告を通して、単元の学習過程や本時の学習過程を工夫して「言語活動の充実を図る授業づくり」をすれば、小・中・高等学校の児童生徒が「分かった」「できた」「楽しい」という実感をもてるような授業づくりができることが分かった。ただし、児童生徒が「役立つ」という実感をもつような授業づくりについては課題が残った。

また、授業実践での観察やワークシート、ノートの記述、作品等を見ると、多くの児童生徒に確かな国語の能力が身に付いていることが伺えた。よって、本研究における授業づくり理論は、児童生徒の国語能力の向上や授業に対する意識変容にプラスに機能することが明らかとなったといえる。

ただし、すべての児童生徒に確かな国語の能力を身に付けさせるという点においては課題が残った。

### (2) 指導者の立場から

9名の研究協力員は、研究協力員会議やメール等での授業相談を通して、本研究における授業づくり理論について理解を深めた。そして、その理論に基づいて授業を実践していただいた。研究協力員からは、「理論は、理解しやすく実践可能なものであった」「学習過程を基にすることで授業構想がしやすくなった」「実際に授業をして、児童生徒の変容に手応えを感じている」との報告があった。

本研究における授業づくり理論は、校種にとらわれず、小学校でも、中学校でも、高等学校でも日常の授業づくりに有効に機能することが明らかとなった。

### (3) ガイドブックの作成について

授業づくりガイドブックを領域ごと3冊にまとめることができた。

「読むこと」領域については、平成25年度に初版を作成し、2回の改訂を加えて平成27年度改訂版にまとめた。理論編と小学校4実践例、中学校11実践例、高等学校4実践例を掲載している。

「書くこと」領域については、平成26年度に初版を作成し、今年度は平成27年度改訂版としてまとめた。理論編と小学校2実践例、中学校3実践例、高等学校2実践例を掲載している。

「話すこと・聞くこと」領域については、今年度新たに平成27年度版を作成した。理論編と小学校1実践例、中学校2実践例、高等学校1実践例を掲載している。

## 3 今後の課題について

本研究を進める中で、今後さらに研究を深めていく必要があると感じた内容は、以下に挙げる5点である。

- (1) 児童生徒の実感だけでなく、「分かった」「できた」「楽しい」「役立つ」授業とは、どのような授業なのかについて研究を深めること。
- (2) 目標や内容について、一領域のみの系統ではなく、三領域のつながりが分かるように12年間の系統を整理すること。その際に、言語活動の系統性も整理すること。さらには、他教科とのつながりも研究すること。
- (3) 単元の学習課題と本時の学習課題をどのように設定すれば良いのか、また、どのような内容にすれば良いのかについて研究すること。
- (4) 指導時数をできるだけ少なくするための方策や、その方策の一つとしての複合単元の作り方について研究を深めること。
- (5) 確かな国語の能力が身に付いたかどうかを客観的に把握できる評価問題の作成や評価の在り方について研究すること。

〈おわりに〉

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました学校の先生方、児童生徒のみなさんに心からお礼を申し上げます。また、研究協力員としてご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

## Ⅸ 引用文献及び参考文献

### 【引用文献】

国立教育政策研究所（2012），『全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～（小学校編）』，教育出版

国立教育政策研究所（2012），『全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～（中学校編）』，教育出版

文部科学省（2008），『小学校学習指導要領解説総則編』，東洋館出版社

文部科学省（2008），『中学校学習指導要領解説総則編』，ぎょうせい

文部科学省（2009），『高等学校学習指導要領解説総則編』，東山書房

文部科学省（2008），『小学校学習指導要領解説国語編』，東洋館出版社

文部科学省（2008），『中学校学習指導要領解説国語編』，東洋館出版社

文部科学省（2010），『高等学校学習指導要領解説国語編』，教育出版

### 【参考文献】

井上一郎（2013），『記述力がメキメキ伸びる！小学生の作文技術』，明治図書

井上一郎（2013），『思考力・読解力アップの新空間！学校図書館改造プロジェクト』，明治図書

井上一郎（2010），『言語活動例を生かした授業展開プラン 低学年』，明治図書

井上一郎（2010），『言語活動例を生かした授業展開プラン 中学年』，明治図書

井上一郎（2010），『言語活動例を生かした授業展開プラン 高学年』，明治図書

井上一郎（2009），『知識・技能を活用した言語活動の展開』，明治図書

\*3 井上一郎（2008），『話すこと・聞くことの基本の能力の育成』，明治図書

井上一郎（2008），『話す力・聞く力の基礎・基本を育てる—小学校—上巻』，明治図書

井上一郎（2008），『話す力・聞く力の基礎・基本を育てる—小学校—下巻』，明治図書

井上一郎（2007），『読む力の基礎・基本—17の視点による授業づくり—』，明治図書

井上一郎（2005），『誰もがつけたい説明力』，明治図書

井上一郎（2005），『「読解力」を伸ばす読書活動』，明治図書

井上一郎（2002），『文学の授業力をつける』，明治図書

\*2 井上一郎（2002），『ことばが生まれる—伝え合う力を高める表現単元の授業の作り方—』，明治図書

上條晴夫（2009），『ワークショップ型授業で国語が変わる 小学校』，図書文化

上條晴夫（2008），『ワークショップ型授業で国語が変わる 中学校』，図書文化

上條晴夫（2007），『ワークショップ型授業が子どものやる気を引き出す』，学事出版

樺山敏郎（2015），『実践ナビ！言語活動のススメ 教科書授業Wプラン 低学年編』，明治図書

樺山敏郎（2015），『実践ナビ！言語活動のススメ 教科書授業Wプラン 中学年編』，明治図書

樺山敏郎（2015），『実践ナビ！言語活動のススメ 教科書授業Wプラン 高学年編』，明治図書

樺山敏郎（2013），『実践ナビ！言語活動のススメ モデル30』，明治図書

国立教育政策研究所（2012），『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校国語】』，教育出版

国立教育政策研究所（2011），『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校国語】』，教育出版

国立教育政策研究所（2011），『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校国語】』，教育出版

富山哲也（2013），『〈単元構想表〉が活きる！中学校新国語科授業&評価 GUIDE BOOK』，明治図書

富山哲也（2011），『〈単元構想表〉でつくる！中学校新国語科授業 START BOOK 第1学年』，明治図書

富山哲也・杉本直美（2011），『〈単元構想表〉でつくる！中学校新国語科授業 START BOOK 第2学年』，明治図書



富山哲也・三浦登志一（2011），『〈単元構想表〉でつくる！中学校新国語科授業 START BOOK 第3学年』，明治図書  
 長根いずみ（2015），「説明する力を高める指導の工夫」（国語教育9月号），明治図書  
 長根いずみ（2014），「楽しんで『話す・聞く』授業の創造－漫才のプロから学び、話し方チャンピオンを  
     目指そう－」（実践国語研究7月号），明治図書  
 長根いずみ（2013），『「読書ボード」で本を推薦する－生徒が目的をもって楽しく読書する単元づくり』  
     （実践国語研究7月号），明治図書  
 長根いずみ（2012），「報道記事で紹介する『竹取物語』－生徒が目的をもって楽しく古典に触れる  
     単元をつくる」（実践国語研究5月号），明治図書  
 西辻正副（2013），『国語の授業を変える2 評価規準をどう生かすか 高校国語総合編』，明治書院  
 二瓶弘行（2011），『二瓶弘行の国語授業のつくり方』，東洋館出版社  
 二瓶弘行（2011），『二瓶弘行の「物語 授業づくり 一日講座」』，文溪堂  
 二瓶弘行（2010），『二瓶弘行の「説明文一日講座」』，文溪堂  
 水戸部修治（2014），『小学校国語科学習指導案パーフェクトガイド 1・2年』，明治図書  
 水戸部修治（2014），『小学校国語科学習指導案パーフェクトガイド 3・4年』，明治図書  
 水戸部修治（2014），『小学校国語科学習指導案パーフェクトガイド 5・6年』，明治図書  
 水戸部修治（2013），『小学校国語科授業&評価パーフェクトガイド』，明治図書  
 \*1 水戸部修治（2012），『国語 言語活動 実践アイデア集』，小学館  
 水戸部修治（2011），『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 1・2年』，明治図書  
 水戸部修治（2011），『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 3・4年』，明治図書  
 水戸部修治（2011），『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド 5・6年』，明治図書  
 水戸部修治・鯨井幹夫（2011），『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集1・2年』，小学館  
 水戸部修治・鯨井幹夫（2011），『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集3・4年』，小学館  
 水戸部修治・鯨井幹夫（2011），『小学校 新学習指導要領の授業 国語科実践事例集5・6年』，小学館  
 盛岡市立城南小学校（2011），『平成23年度国語科授業実践記録集』，城南小学校  
 盛岡市立月が丘小学校（2012），『平成24年度学校公開研究会 研究紀要』，月が丘小学校  
 盛岡市立見前南中学校・盛岡市立永井小学校・盛岡市立見前南小学校（2013），『学校公開研究会 研究紀要』，見前南中・永井  
 小・見前南小  
 安居總子・東京都中学校青年国語部会（2005），『中学校の読書指導 読書生活者を育てる』，東洋館出版社  
 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校（2013），『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅲ』，学事出版  
 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校（2012），『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅱ』，学事出版  
 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校（2011），『思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価Ⅰ』，学事出版  
 横浜市小学校国語教育研究会（2014），『小学校国語 6年間でみるみる「思考力」がつく！ 「書くこと」  
     の授業プラン&ワークシート』，明治図書  
 横浜市小学校国語教育研究会（2010），『小学校国語 豊かな言語活動を図る単元の構想』，東洋出版社  
 横浜市立白幡小学校（2013），「平成25年度研究発表会 研究概要パンフレット」，白幡小学校  
 横浜市立白幡小学校（2011），『平成23年度P S Y研究発表会 研究紀要』，白幡小学校  
 横浜市立並木中央小学校（2012），『国語 言語活動 実践アイデア集』，小学館  
 横浜市立並木中央小学校（2012），『研究紀要 第7号』，並木中央小学校

